

こ

とば研究年報

論文

- 名古屋ことばプロジェクト概要 井上 歩、北森理聖、松本小奈津
河村たかしは言語政策をしているのか
—河村たかし名古屋市長への「聞き書き」による言語意識調査—
井上 歩
現代の名古屋の大学生が持つ名古屋ことば意識 北森理聖
名古屋ことばコスプレ化の可能性 松本小奈津
方言の商品化はいかにして可能になるのか 池ヶ谷遊
Cannah talk da kine?
—ハワイにおける Pidgin の戦略的使用— 宮崎 舞

卒論構想

- ヒラリー・クリントンの女ことば翻訳
—政治の場における女ことばの機能— 高部美里
日本におけるフィリピン系ニューカマーの子ども 戸松優芽

2年生レポート

- カタカナの役割とは何か 青山陽香
スイス・グラウビュンデン州におけるルマンチ・グリジュンの現状
飯沼美伎
バンクーバーの人々は日本人に何語で話しかけるのか 神谷歩実
2017年におけることばの商品化 河野芽衣
障害者・高齢者とのコミュニケーションで見られる言語意識
中村美咲
学習指導要領の変遷と英語の捉え方 長谷川晶紀

2017 第4号

はじめに —書くことの難しさ、書くという欲望—

佐野直子

人は、話すときに一度に複数の音韻を発話することはできず、書くときは縦書きだったり横書きだったりしながらも、「線」にそって書かれる。ことばの持つ「線状性 (linéarité)」は、一般言語学において最初に確認されるべき重要な性質の一つである。

しかし、人びとが「話すという事実 (factum loquendi)」自体は、決して一次元ではない。この単純な事実を分析するために必要な要素はあまりに多岐にわたっている。あることばが使用されることはどのように歴史的に形成されてきたのかという時間性や、他のことばとどのように使い分けられるのかという接触混淆の問題も加わり、とらえるべき事象そのものがあまりにもゆらぎやすく果てしない。さらに、ことばについてことばで語ろうとすれば、話者自身の意識の記述と行動そのものの記述、それを他者が聞いたときのさまざまな解釈の記述などが、互いにずれながら相互に影響しあう。ことばについて記述するというメタ言語的状況は、必然的に多声的 (ポリフォニー) なものになる。

その中で、ことばの線状性に再び引き戻されるのは、あることばの事象を論文として記述しようとする際である。私は学生の論文執筆指導をするとき、「論文は線的だから！」と何千回となく繰り返してきた。ある言語的事象をなんらかの形で問題として組み立てるとき、いかなる形で問題を整理し、どのような順序や章立てで、何を調べ、何を議論すれば説得的な論が展開できるのか、それを一次元に整えることが論文を書くということだと考えているからである。点から点に思考が飛躍してもいけないし、線があちこちに飛び交ってもいけない、一本線で書け、と。しかしそのことは同時に、そのあまりに多元的な「話すという事実」が、論述された時点で線状化されることでもある。どれだけの要素を考慮し、どれだけ精緻に映し出そうとしても、「話すという事実」が持つゆらぎは必然的に記述から漏れ落ちる。ふわふわの綿の玉の塊から糸を紡ぐとき、糸になった時点で、綿の定義ともいえる特徴である、あのふわふわさは残らないのだ。

今年度の卒論執筆において学生たちが立ち向かったのは、例年にもまして、「ことばについて書く」という困難であった。今年度の論文のうち3本が含まれる「名古屋ことばプロジェクト」は、河村たかし市長の名古屋ことばがなぜこれほどまでに評判が悪いのか、という素朴な疑問から始まったが、そこでいきなりぶち当たったのが「名古屋ことばとは何か」という問いであった。さまざまな話者自身が「名古屋ことば (そもそもこの名称は定着しているのか? 「名古屋弁」とは違うのか?)」とはどういうものだ認識しているのか、どのように使用していると自ら語り、他者からはどのように使用しているように感じられるのか。名前をつけることすら難しく、その名前が何を包摂しているのかもわからない中で、何をどんな順番でどう語れば、その名前がつけられた事象を十分に論じたことになるのか。宮崎論文のハワイにおける *Pidgin* も全く同じ問題であった。

さらに、多くの論文で言及されたのが、「方言」や *Pidgin* と呼ばれる「話すという事実」を、「そのまま」書き留めようとする時の問題や困難であった。河村たかし市長の名古屋ことばは、自身によって、また井上論文においてどのように書かれているのか、それがメディアではどのように書き直されるのか。みやげものやツイッターではどう書かれるのか。書かれることで「話すという事実」の中で何が切り取られ、おもちゃ化され、商品化されていくのか。さらに、宮崎論文においては、*Pidgin* で発話されたインタビューをどのように書くことで英語との違いを示すのか (独特のイントネーションをどう表示すればいいのか)、どうやって日本語に訳すのか (なぜつい女性のインタビューを女ことばで訳してしまうのか、これも「コスプレ」なのだろうか) といった問題もあった。

そして、学生たちは「ことばについて書く」というそれだけでも十分に困難な取り組みに立ち向かうと同時に、「論文を書く」ことそのものの難しさに、それぞれの形で直面していた。論を組み立て

ること、文章を無理なくつなげて議論を展開すること、独自の分析を提示すること、問題の位置を確認すること、そもそもパソコンの前に座って書き始めること……全く人ごとではなく、上記の問題は実はすべて前期半年間、サバティカル中にオクシタン語について考え、書いていた私の課題でもあったのだ。

書くことは、本当にしんどく、恐ろしい。書いても書いてもその事象を十全に記述したことにならないと、書けば書くほどわかってくるのだからなおさらだ。この恐怖に立ち向かいつつ、それでも書こう（書かせよう）とするのは、人が「話しているという事実」、すなわち世界そのものをその一片であつても理解し、記述することで「手に入れたい」からなのだろうと感じている。「ほんの一片でも記述できた」と思えたときの高揚感は忘れがたい。実際の「話している事実」が十全に記述されることは決してなくても、というよりだからこそ、記述したいという欲望はかき立てられ続ける。綿のふわふわさを愛でつつも、糸をつむぐことはやめられない。

自分の論文を書き終わらずに帰国してきた私とは違い、今年度の卒業生たちは最後はほとんどゼミ室に合宿状態となりつつ、それぞれの論文、それぞれの書くことを無事完成させてくれた。読者のかたがたには、この年報を読むことで、あの高揚感を少しでも追体験していただければ幸いである。そして、後輩たちと私が、彼/彼女たちの向き合った困難と欲望 —「書く」こと— を、この年報の刊行を通して引き継いでいければと願っている。

2017年2月 佐野直子

こ と ば 研 究 年 報 第 4 号

目次

はじめに	佐野 直子	1
論文		
名古屋ことばプロジェクト概要.....	井上 歩、北森 理聖、松本小奈津	5
河村たかしは言語政策をしているのか —河村たかし名古屋市長への「聞き書き」による言語意識調査—	井上 歩	20
現代の名古屋の大学生が持つ名古屋ことば意識	北森 理聖	53
名古屋ことばコスプレ化の可能性	松本小奈津	78
方言の商品化はいかにして可能になるのか	池ヶ谷 遊	99
「名古屋ことばプロジェクト」総括	佐野 直子	116
Cannah talk da kine?—ハワイにおける Pidgin の戦略的使用—	宮崎 舞	120
論文を書き終えて		148
卒論構想		
ヒラリー・クリントンの女ことば翻訳 —政治の場における女ことばの機能—	高部 美里	151
日本におけるフィリピン系ニューカマーの子ども	戸松 優芽	158
2 年生レポート		
カタカナの役割とは何か	青山 陽香	162
スイス・グラウビュンデン州におけるルマンチ・グリジュンの現状	飯沼 美伎	165
バンクーバーの人々は日本人に何語で話しかけるのか	神谷 歩実	168
2017 年におけることばの商品化	河野 芽衣	171
障害者・高齢者とのコミュニケーションで見られる言語意識	中村 美咲	176
学習指導要領の変遷と英語の捉え方	長谷川晶紀	179

名古屋ことばプロジェクト概要

井上歩、北森理聖、松本小奈津

0. 序論

名古屋ことばプロジェクトとは、2015年に名古屋市立大学社会言語学ゼミの議論の中で生じた「名古屋圏の住民が名古屋ことば（名古屋弁）にそれほど愛着を持っていないのはなぜか?」「河村たかし名古屋市長はなぜ名古屋ことばを強調して使用しているのか?」という疑問から生まれたプロジェクトである。名古屋ことばについて多角的に研究するためにゼミ生でそれぞれ役割分担を行い、井上歩は「河村たかし氏の言語政策」、北森理聖は「大学生の名古屋ことばに対する意識」、戸松優芽は「高年層の名古屋ことばに対する意識」、松本小奈津は「メディアで取り上げられる名古屋ことば」について研究し、うち井上・北森・松本は同テーマで卒業論文を執筆した。このプロジェクトによって、現在の名古屋ことばを取り巻く状況について明らかにすることを目的としている。

本稿は、本プロジェクトにおいて共通する諸概念や歴史などについて概観する。また、一般的に「名古屋弁」と称されることの多い、名古屋圏で話されていることばを本プロジェクトでは「名古屋ことば」と表記する。これは、河村たかし氏が「名古屋ことば」呼称を使用していることに則っている。

1. 方言について

名古屋ことばの先行研究は、これを「方言」として扱うものがほとんどである。そこで、まず「方言」とは何かを明らかにした上で、「方言」がこれまでどのような変遷を辿ってきたのかを整理する。方言学において、「方言」とは、言語の下位区分に位置づけられる言語変種を指している。「方言」には「地域方言」と「社会方言（または、階層方言）」の2種類があり、前者がある地理的範囲と結びつけられた種々のことばであるのに対し、後者はジェンダー差や年齢差などによる社会集団ごとに異なることばを指す。

1.1. 方言とは

「方言」とはどのようなものを指すのか、本節では、辞書によるその定義を確認する。

- ①共通語・標準語とは異なった形で地方的に用いられることば。また、中央の標準的なことばに対して、地方で用いるその地特有のことば。俚言。土語。なまり。片言。
- ②特定の階級、仲間などの用いることば。隠語・俗語の類。
- ③地域的な言語体系。ある地帯に通用する言語が全体として一つの言語体系に属すると認められながら、

音韻・語法・語彙などに地域的な変異があるときにいう。

④一般に、言語、特に、その国やその地域のことばをいう。

（『日本国語大辞典第二版第十一巻』，2001，小学館）

上記をみると、「社会方言」を指すものが②であり、「地域方言」を指すものが①と③であることがわかるが、「方言」を体系化されていると考えるものか（③）、それとも体系化されているか否かを考慮しないものか（①）という点で、①と③は異なる。真田（1988）は、学術的には『方言』はあくまで体系としてとらえられる存在であることに留意したい（p. 913）」と述べており、方言学の対象となる「方言」は③であると考えられる。

1.2. 方言の歴史

「方言」に対する考え方は時代によって様々あり、変遷を経てきた。これに関して、井上（2007）が提示する「方言」の社会的類型（表 1）は、各時代の「方言」をめぐる社会的状況を端的に示している。そこで、本論では、この類型を利用して各時代の言語状況を確認する。

表 1 方言の社会的 5 類型

	類型	時代名	時代	方言への 価値評価	使用能力
前史 1	方言蔑視	京言葉の時代	～江戸前期	独 立	方言優位
前史 2	東西対立	江戸語の時代	江戸後期	独 立	方言優位
第 1 類型	方言撲滅	標準語の時代	明治～戦前	マイナス	方言優位
第 2 類型	方言記述	共通語の時代	戦 後	中 立	両 立
第 3 類型	方言娯楽	東京語の時代	戦後～平成	プラス	共通語優位

（井上 2007 p. 33）

この類型は、ことばの使用能力と「方言」の捉え方に重きを置いて近代以降を 3 区分したのに加え、時代を近世以前に延ばして、京言葉優位の「前史 1」と江戸語優位の「前史 2」を国語史的に位置づけたものである。前史では、各地域のことばが独立したものとされ、人々の言語使用は主に「方言」であったという点において共通しているものの、江戸時代中期以降、それまで京ことばより劣るとされていた江戸語が次第に勢力を強め、京ことばと拮抗するようになった。ただし、この時代におけることばの地域差は、京ことばや江戸語と対比されるような対象の「方言」として認識されていたわけではなく、また、地域差が存在していることはそれほど問題視されていなかった。

しかし、明治期に入ると、それまで問題視されていなかった「方言」は撲滅の対象としてみられるようになる。明治政府は日本をヨーロッパと比肩しうる近代国民国家として政治的・社会的に統一することを目指し、その実現には国家を構成する国民への教育が必要であり、さらにその教育に必須となる読み書きのためにはことばの統一が欠かせないとした。ここで、国民全体に浸透させることが試みられ、国を代表する唯一の確固たる言語として掲げられたのが国語である。一方、「標準語」という語は、1895 年に東京帝国大学教授の上田万年による論文「標準語に就きて」の発表を契機に定着した。真田（2000）はこの論文について、「ヨーロッパの先進国において、それぞれどのような過程で標準語が確立し発展したかを概観しながら、わが日本においても美しい洗練された標準語が育っていくべきことを強調している（p. 89）」と述べている。その後、標準語は、主に東京山の手教養層が話していたことばを母体として人為的につくられ、日本語の規範となった。

「方言」の存在が問題視されるようになったのは、『国語』あるいはその具体相としての『標準語』

は、法律制度をはじめとする近代国民国家の諸制度を担いけると同時に、当該国民国家の構成員である『国民』誰しもが話すものでなければならぬとされ（安田, 2000, p. 215）、国民全員が唯一「標準語」のみ話すことを理想とする政策が進められたためといえる。ここにおいて重要な点は、国民はバイリンガルであることを認められなかった¹ということである。政府が「標準語」を普及させるにあたって、「方言」は撲滅せねばならない「悪」であり、これを規範的な「標準語」へと矯正することこそが国語教育の主務とされた。このような徹底的な言語統一の考えは、戦前まで続いた。

戦後になると、「方言」の価値評価が「標準語」と中立になったとされ、また、この「標準語」という言い方は「共通語」という言い方に置き換えられるようになった。これらについて、『標準語』が『共通語を更に高めた、理想的な言語。人為的につくられるもの』であるのに対し、『共通語』は『現実にコミュニケーションに使われている言語。自然な状態』なものである（真田, 1988, p. 933）」と、両者の概念は異なると説明されるが、実際には混同して使用されることが多い。

第3類型の方言娯楽期は、日本語に共通語以外の多様性があることを楽しむ、という潮流の時代である。井上（2007）の類型はこれを戦後以降の流れとしているが、田中（2011）によると、戦後からこのような流れはいくらかあったものの、「1980年代に入ると、（中略）『方言』に価値を見出す考え方に基づく記事や投書が多くあらわれるようになっていく（p. 56）」というように、特に大きな転換が起こったのは1980年代のようである。

2. 名古屋の概要

本章では、名古屋ことばが話される中心的な地域とされる名古屋市の地域の地理と歴史について説明する。また、これを中核とした名古屋圏といわれる圏域についても簡単にまとめる。

2.1. 地理

2.1.1. 愛知県・名古屋市の地理

愛知県は東西で大きく尾張地方と三河地方（以下、それぞれ「尾張」「三河」）の2地域に区分されるが、名古屋市は西部に位置する尾張に属する（図1）。ここでいう「尾張」と「三河」は、律令制度下での旧国名「尾張国」と「三河国」の名称を引き継いだものであり、これらの名称は現在も愛知県の地方区分として一般的に使用されている。同じ県内にあっても尾張と三河では文化やことばについて異なる部分が多く存在し、特にことばについては、尾張では「名古屋ことば」や「尾張ことば」、三河では「三河ことば」が話されるといわれる。

¹ ここでは「方言」と「標準語」を両方使用する話者を指す。



名古屋市は、愛知県の西部に位置する人口総数約 230 万人、世帯数約 107 万世帯³、面積約 326 平方キロメートル⁴の同県の県庁所在地であり、日本三大都市の一つにも数えられる東海地方の中心都市である。同市は政令指定都市として区制が敷かれており、千種区・東区・北区・西区・中村区・中区・昭和区・瑞穂区・熱田区・中川区・港区・南区・守山区・緑区・名東区・天白区の 16 区からなる。

次に、名古屋圏（または、名古屋大都市圏、名古屋都市圏、中京圏、中部圏）といわれる地域について述べる。これは、東京圏、大阪圏と並ぶ三大都市圏の一つとされており、名古屋市はこの圏域の政治・経済・文化・交通などの中核を担う都市である。圏域の画定には様々な議論が存在するが、ここではことばを話す話者の移動を重視するために、「通勤移動は、都市地理学では都市の勢力圏を画定する指標として昔から用いられてきた（林, 2016, p. 211）」ことを参考に、筆者は話者の日常的な移動が行われる名古屋を中心とした通勤・通学圏に着目した。したがって、本論でいう名古屋圏は、愛知県、岐阜県南部、三重県北部がこれにあたるとする。

名古屋圏では地元の高校生が圏内にある大学へ進学する割合が他地方に比べて大きい。(中略)愛知県出身の大学進学者の72.1%は愛知県内にある大学に進学している。岐阜県、三重県出身の高校生は自県以外の進学先として愛知県内の大学を選ぶ割合がもっとも大きい。こうした傾向は、名古屋圏内に収容能力の大きな大学が数多くあり、圏外へ行かなくても地元の大学へ通えるという条件が満たされていると

⁴ 名古屋市公式ウェブサイト「人口・国勢調査・面積と人口密度（統計でみた名古屋のスケッチ）」より。2016年4月1日現在。 <http://www.city.nagoya.jp/somu/page/0000011301.html>（2016/10/21 取得）

いう事実で説明できる。またこのような条件は、人口集積が多く、大学を卒業したあとも地元で就職できる機会に恵まれていることで保証されている。

(*ibid.*, p. 215)

ここから分かるように、名古屋圏で生まれ育った人は大学進学やその後の就職までをこの圏内で過ごす者が多く、特に愛知県出身者に関してはこれが顕著である。この名古屋圏全域が名古屋ことばの話される範囲とまでは言えないものの、この圏域の人々は日常的に名古屋ことばを聞く機会のある人が多いといえる。

2.2. 歴史

本節では、名古屋大都市圏研究会編（2011）、林（2016）、山田（2013）、名古屋市公式ウェブサイト⁵を参考に、名古屋に都市が成立した江戸時代以降の歴史をまとめる。

2.2.1. 都市としての名古屋の誕生と形成

名古屋が都市として機能し始めたのは、1610年から1614年に行われた「清洲越（または、清須越）」といわれる城下移転以降である。清洲越以前、尾張の中心是那古野（名古屋）⁵の北に位置する清洲城の城下町清洲にあり、15世紀初頭から約200年間、この清洲こそが尾張第一の人口規模と繁栄を誇る大都市であった。

一方で、当時の名古屋は大きな集落のない荒地地であったが、関ヶ原の戦いで実権を握った徳川家康は、水害に遭いやすいことを理由に清洲城を廃城とし、1610年から名古屋において名古屋城の築城を開始した。これ以降、名古屋城は御三家の一つである尾張徳川家の居城となった。さらに、家康は単に城や武士を清洲から名古屋へ移しただけではなく、当時清洲に住んでいた商人や町人、職人といった人々も、身分ごとに居住区域を限定して名古屋に移住させた。この住み分けのため、江戸時代の名古屋の人々は、階級によって別々の言語集団を形成していったと考えられている。武士階級、町人階級、庶民階級は、それぞれ「武家ことば」「上町（うわまち）ことば」「下町（したまち）ことば」とよばれる異なった名古屋特有のことばを使用していた。

ここまで説明した清洲越をきっかけとして、名古屋は近世の計画都市として集中的に建設され、発展していった（図2）。特に、7代尾張藩主である宗春の藩政期（1731～1739）においては、空前の繁栄をみせ、名古屋の市街には他の地方からの人口流入も増大し、この頃の名古屋の人口規模は熱田⁶の人口と合わせると約10万人にせまるほどであった。

⁵ ここでは、清洲越が行われた当時に「那古野」と呼ばれた、主に現在の中区と東区の都心部が位置する地域をさす。現在の市域と比較するとかなり狭く、近世までの市街地是那古野台地（熱田台地）の上に限られていた。

⁶ 1907年に旧熱田町は名古屋市に編入されたが、江戸時代において熱田は名古屋とは別の町であり、熱田神宮の門前町として栄えていた。（ブリタニカ国際大百科事典 小項目電子辞書版「熱田」参考。）

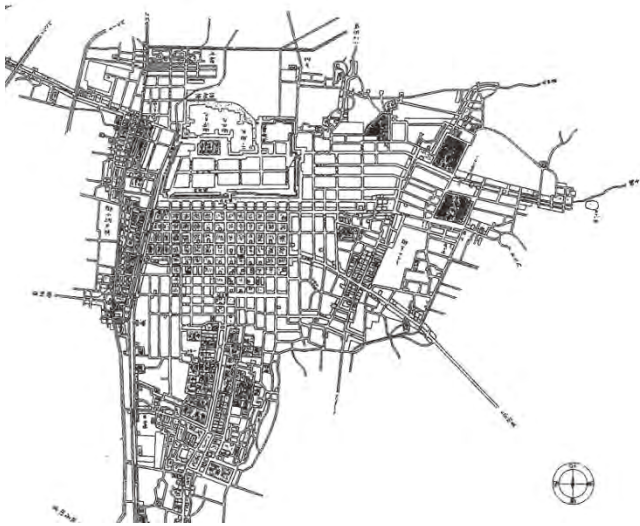


図2 名古屋古図 (名古屋大都市圏研究会編, 2011, p. 23)

2.2.2. 明治以降の名古屋市

その後、時代が明治に入ると、年を追ってその名称は次々に変化し、1889年の市制施行から「名古屋市」といわれるようになった。また、これ以降周辺地域との合併に伴って名古屋市の人口と面積はともに拡大し続け(図3)、人口については1934年に100万人を突破、戦前には130万人にまで増大し、東京・大阪に次ぐ第3の都市といわれるようになった。

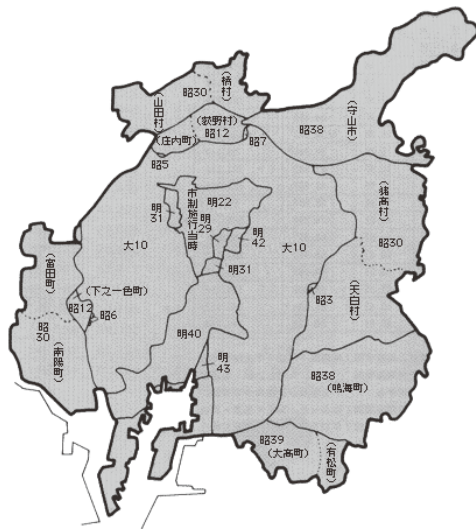


図3 名古屋市の市域の変遷図 名古屋市公式ウェブサイト「市域のうつりかわり」より
<http://www.city.nagoya.jp/shiminkeizai/page/0000001777.html>

しかし、第二次世界大戦末期になると米軍によって繰り返し市街地への空爆攻撃を受けた。「名古屋

大空襲」といわれるこの空爆による被害は甚大で、名古屋は全市域の約 4 分の 1 が焼け野原と化し、1945 年の人口は 60 万人弱にまで激減した。その後、名古屋の復興を目的として同年 10 月に復興調査会が設置され、日本最大規模といわれる戦災復興事業が実施された。終戦からかなり早い時期に都市計画が立案、実行されたことで、名古屋には現在の整然とした街並みと広い公共空間が生み出された。人口に関しては、1950 年に再び 100 万人を突破し、1969 年には 200 万人に達した。

3. 名古屋ことばの分類

前述のように、近現代の名古屋圏では、民衆それぞれの居住地域や階層によって話すことばが異なっていた。大きく分けて、武家ことば、上町ことば、下町ことばの 3 つに分類することができる。ここでは、おもに芥子川律治（1971）の『名古屋方言の研究』をもとに、それぞれのことばの特徴を述べていく。

3.1. 武家ことば

「元禄ごろの尾張藩士の数は 7170 人とあって、その家族、家士を含めれば、約 3 万 5 千人ということになり、当時の名古屋の全人口の 3 分の 1 以上に当たるわけである（芥子川, 1971, p. 28)」。そのなかで格式の差や、話者の性別、公的な場と私的な場という場面の違いによっても使用することばが異なっていたのではないかと考えられている。以下は、改まった場における武家ことばの例である。

- 上位の人に対しては
 - ・ござりまする
 - ・存じまする
 - ・参りますると、「まする」を主としたてい重な物言いをし
- 対等の者に対しては
 - ・ござるーござらぬ、ござろう、ござれば
 - ・存ずるー存ぜぬ、存ずれば
 - ・参るー参らぬ、参ろう、参れば
- 下の者に対しては
 - ・ござれ
 - ・まいれであつたと思われる。
- また婦女子の場合は
 - ・いらせられませ
 - ・遊ばしませ
 - ・なさりませなどのいわゆる「遊ばせことば」が普通であつたと思われる。

(*ibid.*, pp. 29-30)

芥子川によれば、武家ことばでは「よい天気でござりまする」というのを上町ことばでは「よいお天気でござりまする」、武家ことばでの「お帰り遊ばしませ」を上町ことばでは「お帰りあすばせ」というなど、武家ことばと上町の町人のことばはきわめて類似点が多いという。こうした類似ははじめ

に町人が武家のことばを真似たのか、はたまた武家が上町の町人の丁重さを取り入れたところからきているのか定かではないが、交流のなかで相互に接近しあったものだと考えられている。

3.2. 上町ことば

名古屋の上町とは、名古屋城の南に基盤割に区画された地区を指している。「清須越の伊藤家(後の伊藤松坂屋⁷⁾)をはじめ、後に、三家衆、除地衆⁸と呼ばれる富商のほとんどが、この基盤割の地内に宅地を与えられ、その居宅と店舗を構えたのである。特に、本町通りや長者町などを中心に、問屋が軒を連ね、藩の財政のバックアップをするとともに、名古屋の経済の中心となったのである。ここに住む富商たちは、名古屋の経済権を握ったばかりでなく、武士とともに、名古屋の文化の担い手でもあったのである (*ibid.*, p. 36)。」

彼らが話したことばは、やわらかくなめらかな印象で、謙譲語などの敬語をいくつも重ねて用いることが特徴的なことばである。以下は、対等の間柄で話された上町の女性2名の会話の例である。

「こんなところではなんでもござりまするに、ちょこっとそこまでおあがりあそばいてちょうであーいあすばせ。」

「ありがとうございます。ここで結構でござりまする。やっとかめで、名古屋へ出てまーりましたもので、ひょっとしてお目にかかれたらと存じまして、寄らせていただきましただけでござあーいあすもんだで。」

「イエエ、ナモ、ほんなこといわんと、…あなたさまも、せっかくここまで来てちょうだいしたことで、サアサア、年よりもおりますことですに、サア、ここまでおあがりあそばいてちょうであーいあすばせ。ナモ。」

以下略

(昭和27年、尾関うら、大杉ぎん両氏の会話の録音から)

(*ibid.*, p. 37)

このように、上町ことばの特徴としては「ござりまする」「存じまする」「あそばせ(あすばせ)」などの文末表現の丁重さが挙げられるほか、「なも(なもし)」という文末助詞を多く用いるということがわかる。

3.3. 下町ことば

武家屋敷と前述の基盤割を除いた地区、つまり庶民の居住地域を、明治時代以後上町に対して下町と呼んでいる。そこに居住する人々は、大工、鍛冶屋、畳職等の職人や小商人で、農業などを兼業していた者も多かったようである。

「それらは、名古屋開府以来、あるいは尾張の農村から、あるいは三河、美濃から移住したものがほとんどであった。したがって、そのことばも、最初は、その出身地のことばをそのまま用い、年とともに各地方のことばが尾張ことばを主軸にして融合し合い、さらに都市生活の複雑な対人関係の中で漸次都市化して、ついに農村ことばとは異なった都市ことばを作り上げていったのである (*ibid.*, p. 43)。」

上町では人を呼ぶ場合、たとえば「とよさん」を呼ぶ場合には「とよさま」であるが、下町の女性は「おとよさ」とくだけた言い方をした。「遅くなった」と言う場合上町では「おそうになりました」と

⁷ 伊藤松坂屋 現在の大丸松坂屋百貨店の前身。東海圏で最有力の百貨店である。

⁸ 三家衆、除家衆 明治元年ごろの尾張藩御用達の商人の格付けの上位陣。三家衆にはいとう呉服店の伊藤次郎左衛門(後の松坂屋)など。除家衆には、笹屋の岡谷惣助(後の岡谷鋼機)、十一屋の小出庄兵衛(後の丸栄)など(北見, 2010)。

なるが、下町では「おそなつた」である。また、「おそがい（恐ろしい）」、「ちょうらかす（適当に言っ
て相手を丸め込む）」などの単語も下町のことばである。

このように下町ことばとは、庶民の日常のくだけたことばづかいである。芥子川によれば、「下町こ
とばは、上町ことばに比べて上品さがない。あくどいともいえ、きたないとも、どぎついともいえる
(*ibid.*)」。

3.4. まとめ

このように、「名古屋ことば」と呼ばれることばは、武士ことば、上町ことば、下町ことばと、3 種
類に分類することができる。さらに、花柳界のことばを加えて 4 種類とする場合もある。

しかし、現在では武士ことばや上町ことば、花柳界のことばはほとんど話されておらず、壊滅的な
状況にある。名古屋ことばにこれらの分類があることさえも、知っている人は名古屋に昔から住んで
いるお年寄りが多く、一般的に浸透しているとはいえないだろう。

4. 現在の名古屋ことば

ここまで確認した、名古屋ことばにまつわる情報をふまえ、現在の名古屋ことばについて簡潔に
述べたい。なお、ここで定義する名古屋ことばは、本プロジェクト全体に通ずるものである。

4.1. 現在の名古屋ことばにおける階層性

3 章では、名古屋ことばがかつて 3 つの言語形態を持ち合わせていたことを述べた。現在の名古屋
ことばの階層性に関して、竹内は、「現在の名古屋ことばは、下町ことばを中心にして出来上がってい
る (竹内, 1982, p. 100)。」と明示している。下町ことば以外の階層ごとのことばのその後に関しては、
以下のような記述がある。

上町ことばは昭和期まで引き継がれたものの、空襲と戦後の大胆な土地計画により、碁盤割の地区を崩壊し、
古くからの家格をもつ上町ことば話者はまとまりを失った。

(*ibid.*)

武士の日常語 (武家ことば) は、江戸時代中期から後期にかけて、上町の町家のことばや下町の庶民のことば
と漸次融合して、武士ことばの特殊性をだんだん失っていったであろうと考えられる。

(芥子川, 1971, p. 35)

江戸時代の時点で、武家ことばは上町ことば下町ことばと同化していき、戦後には、名古屋ことば
とされることばのほとんどが、下町ことばとなっていたことが分かる。しかしこの下町ことばも、江
戸時代に話されていたものがそのままの形で残存しているかといえ、その可能性は低い。共通語や
周辺地域のことばと接触し、変容を遂げているものと推測できる。

4.2. 現在の名古屋ことばと周辺地域のことば

2章において、愛知県に尾張地方と三河地方があり、両地域の分断は文化や気質だけでなくことばにも及ぶものであることと、周辺地域との言語接触状況について、「名古屋圏」を軸に確認した。

尾張地方のことばのひとつに名古屋ことばが含まれているが、時代の移り変わりと名古屋の市域の拡大などから、徐々に区別することが困難になっていったと考えられる。舟橋(2005)はこれについて、以下のように述べている。

こうした都市周辺部に住んだ人たちの下町言葉と、従来の農村部で交わされていた尾張弁とは、厳密な意味では異なっていたはずだ。それが長い歴史の中でたがいに交流し合い、次第に似通ったものとなっていった。いま名古屋弁とか尾張弁とか言われているが、単語の持つ意味でもアクセントやイントネーションなどでも、ほとんど変わらないものとなっている。

(舟橋, 2005, p. 80)

三河地方のことばに対してもこれと同様の指摘が可能である。しかし、三河地方のことばと名古屋ことばとでは、尾張地方のことばと名古屋ことばほど類似や混合の度合いは低いと予想できる。

また、岐阜のことば、三重のことばなど、県外のことばも、名古屋ことば圏内では話されている。岐阜県からは毎年12万人、三重県からは5万人⁹が愛知県に住居を移しており、岐阜県から愛知県への通勤・通学者数は124,562人¹⁰、三重県から愛知県への通勤・通学者数は34,016人¹¹である。これは愛知県全体に対する数値であるが、名古屋ことばが話される地域にも、おそらく多くの県外のことばが流入している。

以上のように、名古屋ことばをとりまく現状を踏まえると、周辺言語との境目は非常にあいまいであり、名古屋ことばだけを誰もが納得する形で正確に取り出すのは非常に困難である。

4.3. 名古屋ことばの言語的特徴

先述したように、現代において話される名古屋ことばは江戸時代のままの下町ことばではなく、これを中心としてできあがったものであるといえる。ここでは、その下町ことばをベースとする名古屋ことばが言語的にどのような特徴をもつことばであるのかについて述べる。

名古屋ことばに関する先行研究をあたると、その多くに記述されている特徴の一つが、地理的に名古屋は東西の境界領域にあって、それを反映するかのようにことばにも東西の特徴が混在している、ということである。例えば、アクセントの大部分が東京式であるのに対して、否定形式で「かかん(書かない)」「いけません(行けない)」のように「～ん」「～せん(へん)」という西日本の語形が使用されることなどから、このことが理解できる(成田, 2013)。

次に、名古屋ことばの音韻の特徴としてしばしば論じられるのが、連母音の融合である。「イ」で終わる連母音はすべて規則的に中間母音の長音に変化し、ai>[æ:]、oi>[ø:]、ui>[y:]となる。次にアクセントに関してだが、先に「アクセントの大部分が東京式である」と述べたが、名古屋ことばのアクセントには東京式ではないものも含まれている。その代表的なものは三拍形容詞であり、この中には東京式アクセントのものもあれば京阪式アクセントのものもある。たとえば、名古屋ことばでは「赤

⁹ 『調査報告「愛知県と三重県を中心とした東海地域の動き」』百五経済研究所
<http://www.hri105.co.jp/media/press/houkoku-20061006-1.pdf> (2016/12/9 取得)

¹⁰ 平成17年国勢調査より

¹¹ 平成22年国勢調査より

い」や「甘い」は京阪式アクセントの中高型で発音されるが、東京式アクセントでのこれらの発音は平板型である。

なお、「伝統的な」名古屋ことばにおける「ナモ」と「エモ」という二つの文末表現の助詞は、これらの表現の誕生を指標として名古屋ことばが完成したといわれるほど重要性のある名古屋ことばであったといえるが、現代において、これらはほとんど使用されなくなっており、こうした点からも名古屋ことばが大きくその姿を変容させてきたことが分かる。

4.4. まとめ

ここまで、本プロジェクトにおいて取り扱うこととなる、現在の名古屋ことばの現状を述べ、その言語的特徴を簡潔に述べた。そのなかで、名古屋ことばは下町ことばを主軸とするものの、周辺地域とのかかわりあいの中でことばの線引きが非常に曖昧になっていることを確認した。よって、本プロジェクトにおいては、名古屋ことばの主軸が下町ことばであるものの、周辺言語との線引きが曖昧である点をふまえ、実態が定まっていないことばとして取り扱うこととする。

5. 名古屋ことばに対する市民の認識

では、そのような名古屋ことばに対して地元の人々は、どのような感情を抱いているのだろうか。この章では、2つの先行研究をもとにそれを明らかにしていく。

5.1. 1996年のNHKによる世論調査

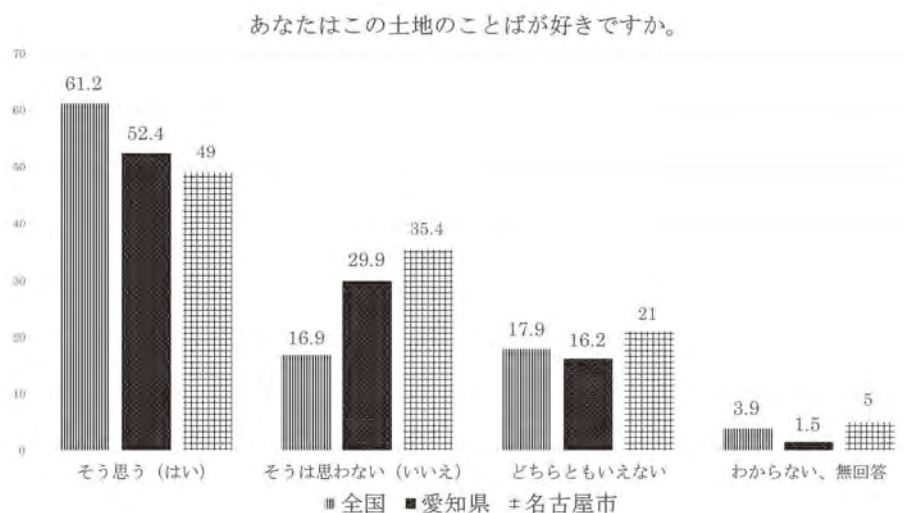
1996年、NHK放送文化研究所が全国的に大規模な世論調査を行った。期間は1996年6月28日～同年7月7日で、各都道府県の16歳以上、1980年以前生まれの住民を対象に、各都道府県900人（12人×75地点）で全国計42,300人に対して個人面接法で調査を行った。調査有効数は全国で29,620人であり、有効率は70.0%であった。

質問内容は、生活環境や郷土意識、金銭感覚や道徳観など多岐にわたる。全都道府県で共通に実施した質問は全部で90問あり、その中にことばに関する質問が4問あった。A「あなたはこの土地のことばが好きですか。」B「では、あなたはこの土地のことばを残してゆきたいと思いますか。」C「あなたは、地方なまりが出るのは恥ずかしいことだと思いますか。」D「この土地の人ではない、いわゆる『よそ者』というようなことばが、この地域ではまだ生きていますか。」の4問である。

ここではその中から、A「あなたはこの土地のことばが好きですか。」を取り上げて分析する。

A「あなたはこの土地のことばが好きですか。」に対する回答の全国平均では、「そう思う（はい）」が61.2%、「そうは思わない（いいえ）」が16.9%、「どちらともいえない」が17.9%、「わからない、無回答」が3.9%だった。尾張・三河地区を含む愛知県全体の平均（調査数672）では、「そう思う（はい）」が52.4%、「そうは思わない（いいえ）」が29.9%、「どちらともいえない」が16.2%、「わからない、無回答」が1.5%だった。さらに、尾張・三河地区を除く名古屋市のみの結果（調査数198）では、「そう思う（はい）」が49.0%、「そうは思わない（いいえ）」が35.4%、「どちらともいえない」が21.0%、「わからない、無回答」が2.0%である（表3）。この名古屋市の「そうは思わない（いいえ）」が35.4%という数字は、地域別にみても全国で最も高いパーセンテージである。

表2 ことばに対する愛着の全国との比較



NHK 放送文化研究所（1997）をもとにこの章の筆者（井上）が作成

参考として、都道府県別にみて、「自らの土地のことばが好きである」と最も多く答えたのは沖縄県（調査数 665）の 83.0%、次に宮崎県（調査数 610）の 73.6%、長崎県（調査数 589）の 72.5%、京都府（調査数 595）の 71.4%である。反対に、「自らの土地のことばが好きではない」と最も多く答えたのは茨城県（調査数 663）の 32.0%、次いで愛知県（調査数 672）の 29.9%、福井県（調査数 689）の 27.9%、岡山県（調査数 608）の 27.5%である。

このように、1996 年の時点で、すでに名古屋市民は自らの地域のことばを好きではなかったということが明らかになった。これと比較するために、次節では、河村たかし氏が名古屋市長に就任した 2009 年に行われた調査の例を挙げる。

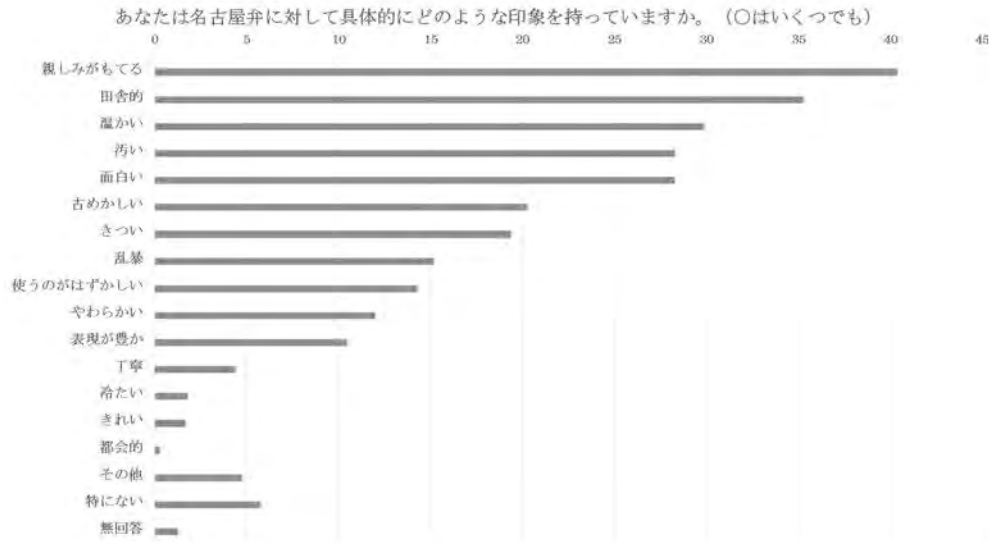
5.2. 2009 年の名古屋市による調査

名古屋市は 2009 年¹²に、「名古屋のことばの良さを見直すこと（名古屋ことばの復権）を目指し、皆さまの名古屋のことば（名古屋弁）の使用実態、イメージなどをおたずねし、今後の本市の施策の方針を検討する上での基礎的なデータとして活用する」という趣旨で、市内に居住する満 20 歳以上の市民 2,000 人（外国人を含む）に対して市政アンケートを行った。調査期間は 2009 年 9 月 29 日～同年 10 月 13 日で、調査方法は郵送法である。有効回収数は 1,157 人で、有効回収率は 57.9%だった。

その結果、①「あなたは名古屋弁に対して具体的にどのような印象を持っていますか。（○はいくつでも）」という設問に対して、「親しみがもてる」と答えた人が 40.4%と最も多かったが、「きれい」が 1.7%に対して「汚い」が 28.3%、「都会的」が 0.3%に対して「田舎的」が 35.3%、また「使うのがはずかしい」が 14.3%と、やや否定的な意見が目立った（表 3）。

¹² 2009 年は、河村たかし氏が名古屋市長に就任した年である。しかし彼はインタビューで、このアンケート調査は自らが指示したものではないと答えている（井上, 2017）。

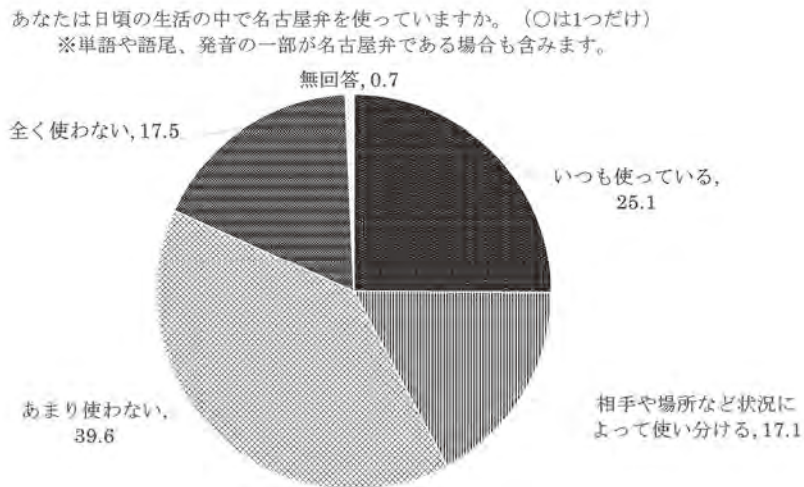
表 3 名古屋弁に対する印象



2009 年の名古屋市の調査をもとにこの章の筆者（井上）が作成

また同調査で、②「あなたは日頃の生活の中で名古屋弁を使っていますか。(〇は 1 つだけ) ※単語や語尾、発音の一部が名古屋弁である場合も含みます。」という設問に対しては、「いつも使っている」が 25.1%、「相手や場所など状況によって使い分ける」が 17.1%なのに対して、「あまり使わない」が 39.6%、「全く使わない」が 17.5%と、どちらかといえば日頃の生活の中では名古屋弁を「使わない」と答えた人のほうが多いという結果になった(表 4)。以上の調査から、「名古屋弁＝名古屋市民が普段から使用していることば」という認識は、市民自身にはそれほど強くないようだ。

表 4 名古屋弁の使用意識



同調査をもとにこの章の筆者（井上）が作成

戸松（2016）によれば、名古屋の一部の高年層には「名古屋ことば＝かつての上町ことば」という認識があり「昔のような上町ことばはもう使っていない」、つまり「（かつての美しい）名古屋弁は使っていない」という意識と、その一方で「自分は（河村たかし氏のような汚い）名古屋弁は使っていない」という意識の両方があり、このような結果が出たのではないかと考えられる。

5.3. まとめ

以上の、実施された年代の異なる2つの調査から、今も、そして河村たかし氏が名古屋市長に就任しメディアで大々的に名古屋ことばを使用するより前から、名古屋市民は自らのことばがあまり好きではないということが明らかになった。

ひとくくりに「名古屋ことば」といっても、話される地域や時代、また話者の階層などによってその姿は大きく変化する。そのために名古屋ことばの定義は曖昧で線引きが難しい。そして話者自身は、河村たかし氏が名古屋市長に就任してメディアで名古屋ことばを大々的に使用を始める前から、そして今も、「名古屋ことば」にあまり良い印象を持っていない。

「名古屋弁は汚い」と言うのは簡単だが、「それはなぜか?」「それはつまりどういう意味を持つのか?」「そもそも名古屋弁とはどんなことばを指しているのか?」と絶えず思考を巡らせていくことが大切である。身近なことばに着目することから、新たな発見があるかもしれない。

参考文献・サイト

- NHK 放送文化研究所（1997）データブック 全国県民意識調査 1996 日本放送出版協会
井上歩（2017）『河村たかしは言語政策をしているのか ―河村たかし名古屋市長への「聞き書き」による言語意識調査―』2016年度名古屋市立大学卒業論文
井上史雄（2007）『変わる方言 動く標準語』ちくま新書
井上史雄（2008）『社会方言学論考―新方言の基盤―』明治書院
北見昌朗（2010）『愛知千年企業 江戸時代編』中日新聞社出版部
芥子川律治（1971）『名古屋方言の研究』泰文堂
真田信治（1988）「方言と共通語」、都染直也（1988）「方言と共通語の葛藤史」金田一春彦・林大・柴田武編『日本語百科大事典』大修館書店
真田信治（2000）『脱・標準語の時代』小学館文庫
竹内俊男（1982）『東海のことば地図』株式会社六法出版社
田中ゆかり（2011）『「方言コスプレ」の時代』岩波書店
戸松優芽（2016）「名古屋ことば研究 高年層編 名古屋ことばに対する認識の縦の変化」名古屋市立大学人文社会学部国際文化学科 佐野直子研究室『ことば研究年報』第3号 HIME 企画
名古屋大都市圏研究会編（2011）『新版図説名古屋圏』古今書院
成田徹男（2013）「名古屋のことば」山田明・吉田一彦編『名古屋の観光力』風媒社
日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部編（2001）『日本国語大辞典第二版第十一卷』小学館
林上（2016）『名古屋圏の都市地理学』風媒社
舟橋武志（2005）『名古屋弁の構造』ブックショップマイタウン

安田敏朗（2000）「解説『標準語』を脱することは可能か」真田信治（2000）『脱・標準語の時代』小学館文庫

山田明（2013）「名古屋の観光まちづくり」山田明・吉田一彦編『名古屋の観光力』風媒社

名古屋市公式ウェブサイト <http://www.city.nagoya.jp/>（2016/10/21 取得）

愛知県公式ウェブサイト <http://www.pref.aichi.jp/>（2016/10/18 取得）

名古屋市 平成 21 年度第 3 回市政アンケート（調査結果）

<http://www.city.nagoya.jp/shiminkeizai/page/0000004210.html>（2016/12/12 取得）

河村たかしは言語政策をしているのか —河村たかし名古屋市長への「聞き書き」による言語意識調査—

井上 歩

本論文は、「言語政策」という社会言語学的な枠組みを用いて、河村たかし氏が名古屋ことばの在り方に介入しようとしている、すなわち名古屋ことばを「計画」しようとしているのではないかという仮定のもとに、彼の言語活動の意図とその実態を明らかにすることを目的とする。

その過程で、「聞き書き」という手法を用いて、河村たかし氏に対して彼の言語意識に関するインタビュー調査を行った。その結果、彼は少なからず名古屋ことばに対する規範意識をもち、また名古屋ことばの言語としての権威を高めることに非常に意欲的であることがわかった。

次に、「広報なごや」における市長のコラムを取り上げ、その中で名古屋ことばの使われ方について分析し、彼は名古屋ことばを「書く」ことによってその機能と使用領域を拡大させていることを示した。

その結果、彼が公の場においても名古屋ことばを話し、書くことは、クーパーが示した言語計画の定義である「意図的な努力」であるということがいえる。彼は、名古屋ことばをさらに普及、復権させるという「言語政策」のもとに、まさに名古屋ことばを「計画」しようとしていることが明らかになった。

0. 序論

1. 言語政策とは何か
2. 河村たかしの経歴と人物像
3. 聞き書き—河村たかし氏
4. 広報なごやからみる市長の言語活動
5. 結論

0. 序論

「河村たかし」という人物の名前を聞いて、思い浮かぶキーワードは何だろうか。

第一に彼は、日本の政治家であり、2017年1月現在の名古屋市長である。かつては衆議院議員を務め、また地域政党「減税日本」の代表でもある。

そして、「河村たかし」と聞いて、彼の独特な「ことばづかい」を連想する市民も少なくないのでは

ないだろうか。名古屋で生まれ育った彼は、くだけた場面のみならず公的な場においても「名古屋ことば」を使用することで広く知られており、彼の度合の強い名古屋ことばは、しばしば新聞紙上を賑わせている（松本, 2017）。

それではなぜ、彼は公的な場においても名古屋ことばを使い続けるのか。それにはどのような意図があり、そして名古屋ことばの使用を通じて、彼が成し遂げようとしていることは一体何なのだろうか。

また、彼は公の場において名古屋ことばを「話す」ことのみならず、名古屋ことばを「書く」ことにも積極的である。その一例として、名古屋市の広報誌に掲載されている市長のコラムでは、名古屋ことばの使用が目立つ。名古屋市民に毎月配布される広報の、その表紙に名古屋ことばが表記されているということは、彼にとって、そして「名古屋ことば」にとってどのような意味があるのだろうか。そして、名古屋ことばを「書く」ことで、名古屋ことばに何が起きているのだろうか。

本論文では、「言語政策」という社会言語学的枠組みを用いて、河村たかし氏が名古屋ことばを「計画」しようとしているのではないかという仮定のもとに、彼の言語活動の意図とその実態を明らかにすることを目的とする。

1. 言語政策とは何か

日本語ではしばしば「言語計画」と訳されることの多い *language planning* という概念は、1959年、アメリカの言語学者ハウゲン (Einar Haugen) によって導入された。そののちに、*language policy* (言語政策) という用語が使われはじめたが、それらはしばしば同義であり、「たとえば、フィッシュマンにとって言語計画は言語政策の実践であり、後年のさまざまな定義もほぼこの視点から離脱してはいない (カルヴェ, 2000, p. 11)」。言語政策とは、個人や団体、国家などが、さまざまな方法で言語の在り方に介入しようとすることであり、言語計画とはその実践を指す。また、デュマート (2009) は、言語政策は言語計画よりも政治的・社会的な目的をもって行われるものであると述べている。

1.1. 言語計画の4つの側面

言語計画には、コーパス計画、地位計画、威信計画、獲得計画と、大きく分けて4つの分類がある。この節では、それらを具体例をまじえながら紹介する。

1.1.1. コーパス計画と地位計画

1960年代、ドイツの言語学者クロス (Heinz Kloss) は、言語を独立したシステムとして捉えるか、社会的な慣習として捉えるかという区別に基づいて、言語計画をコーパス計画 (*corpus planning*) と地位計画 (*status planning*) の2つのタイプに分類した (デュマート, 2009, p. 372)。

コーパス計画とは、言語の標準化を行うことである。具体的には、ある言語を書記化するシステムの発明、スペリングの改善、新しい用語の創造、文法書の出版など、ある一定の言語規範を生み出し確立させることである。

地位計画とは、社会の中である言語がもつ機能を変化させるための活動のことを指す。デュマートは地位計画の例として、19世紀後半のパレスチナのユダヤ人学校でのヘブライ語の使用を挙げている (*ibid.*, pp. 372-373)。ヘブライ語はそれまで宗教的な限られた用法でのみ使用されていたが、学校で使用されることによってその用途は日常的なコミュニケーションにまで広がった。

また、コーパス計画と地位計画は互いに密接に関わり合っている。たとえば前述のヘブライ語の例では、ヘブライ語が学校教育において使用されること(地位計画)によってその語彙は拡大しうる。これは同時にコーパス計画が行われているといえるだろう。

1.1.2. 威信計画と獲得計画

のちに、言語計画には威信計画(*prestige planning*)と獲得計画(*acquisition planning*)というさらに2つの側面が定義づけられた(*ibid.*, p. 374)。

威信計画とは、その言語を習得したいと思うような心理背景を作ることである。これは長期的な言語計画の成功に必要であり、たとえばヘブライ語のように宗教的な用法で使用されるなどして言語が高い文化性を備えており、その言語自体がもともと高い名声や威信(*prestige*)をもつ場合には威信計画の必要は少ないが、言語計画において「計画しようとする言語」が一般にその威信が高くないと考えられている場合には必要となる。

獲得計画とは、その言語を習得するために必要な言語学習の拡大と促進のための活動のことを指す。デュマート(2000)はその例として、British Council(英国文化振興会)や1980年代前半のマオリ語の復興運動を挙げている(*ibid.*)。英国文化振興会は1934年にイギリス政府によって設立された非営利団体で、各国における英語の普及を促進している。また、ニュージーランドでは、1982年にはじめてLanguage nest という、マオリ族の文化に根ざした初等教育施設が作られた。ここでの教育はすべてマオリ語で行われる(*ibid.*)。

1.2. 言語計画の4つの段階

ハウゲン(1959)によれば、言語計画のプロセスは選出、成文化、実施、精練の4つのステージで構成されており、その連続性は必然ではないとしている。

言語計画は、まず計画しようとする言語を選出(*selection*)することから始まる。社会の中で最も権威的な言語を選ぶなど、ひとつの言語を選出する単一的選出(*monocentric selection*)に対し、あえていくつかの言語の複合物を作る複合的選出(*polycentric selection*)を採用する場合もある(デュマート, 2009, p. 375)。

そのようにして選出された言語は成文化(*codification*)される。成文化とは言語的な規範作りのことであり、書き言葉の発展(*graphisation*)、文法的な規則の決定(*grammatication*)、語彙の適切な意味づけ(*lexicalisation*)の3つのステージに分類される(*ibid.*, pp. 375-378)。

言語の選出や成文化の段階で行われた「決定」を社会的に実現させること、つまり言語の使用や拡大を奨励する活動が実施(*implementation*)である。本やパンフレット、新聞や教科書などの生産とその流通の拡大も含まれる(*ibid.*, pp. 378-379)。

そして言語は精練(*elaboration*。近代化(*modernisation*)と言われる場合もある)される。語彙の近代化のために他の言語から借用したり、既にある語彙の意味を拡大したり、新しい語彙を創造したりすることである。精練は頻繁に繰り返され、終わりのないプロセスである(*ibid.*, p. 379)。

言語計画と言語政策はほぼ同義であり、それらはしばしば主従関係に位置付けられたり、言語政策のほうがより政治的・社会的意味合いがあるとする見方があったりする。本章では、それらは4つの側面(コーパス計画、地位計画、威信計画、獲得計画)をもち、その実施は4つの段階(選出、成文化、実施、精練)に分類されることを述べた。

仮に、河村たかし氏が名古屋ことばを「計画」しようとしているならば、彼はどのような経緯で名古屋ことばを「選出」し、また「精練」してきたのだろうか。彼の人物像を深く理解するために、本章では彼の経歴について述べる。

2. 河村たかしの経歴と人物像

河村たかし（本名、1948年11月3日～）は、第32～33代名古屋市長である。1993年7月19日から2009年4月7日までは衆議院議員を務め、現在は地域政党（政治団体）である減税日本の代表も務めている。

その気さくなキャラクターと、公的な場においてもいわゆる共通語ではなく「名古屋ことば」を用いることで知られているが、彼はいつからそのような考えに至ったのか。この章では、彼の経歴を追うことで、彼の人物像を明らかにしていく。

2.1. 政治家を志すまで

河村隆之¹は、1948年、名古屋市東区にある、従業員が多いときで4人という小さな古紙屋（リサイクル業者）の長男として生まれた。公立小・中学校を卒業後、実家からほど近い愛知県立旭丘高等学校に入学し、東京大学をめざすが不合格、1年間浪人生活を送るうちに「やはり商売人の息子は商科の名門、一橋大学に行くべきだ」と考えをあらため、そちらを受験して合格したのである（河村、2006, p. 58）。

彼の大学時代の後輩であった鈴木望²氏は、「その頃から名古屋弁でしたよ。変わった奴がいるなあ、というのが第一印象でした（出井、2011, p. 36）」と語っている。

卒業後は当たり前のように名古屋へ戻り家業を継いだ。しかし、父親の保守的なやり方が性に合わず、やがて「日本で最も頭を下げんでいい仕事」「格好いい気がした」という理由で検事をめざしはじめる。28歳の春、中京法律学校³夜間部の門を叩くが、なかなかうまくいかない。そうして彼は、やがて政治家を志すようになった理由を、こう記している。

このような負け戦のなかで、ワシはふと思った。ワシのように家業を継いでも、父親とソリが合わず、人生をやり直さねばならない人間は山ほどいるはずだ。ほかにも、会社が倒産して、再び挑戦を始める人、離婚して新しい人生を歩んでいこうと決意している人……人生やり直さねばならない人はたくさんいる。はたして、今の世の中はそのような人々をサポートしてくれるのか。いや、してくれない。してくれないのであれば、自分でそのような仕組みを作るよりない。世の中の仕組みを作るのは……政治家である。

（河村、2006, p. 66）

政治家を志した河村氏は、彼の父親が春日氏を支援していたという縁で、名古屋の政治家、当時衆議院議員であった春日一幸⁴氏の私設秘書になる。そして34歳のとき、春日氏に言われて県議選に立候補するが、777票差で落選。そしてある日、春日氏とその娘さんと食事中に、「まあよお、今度の選挙は婿がやるで、おまえは迷惑になった。出てってくれよ（*ibid.*, p. 72）」「この国は民主主義だ。政党は民社党だけじゃないので、おまえは信じる道をいけ。そういうわけだから、秘書の辞職願いと離党届をもってこい（*ibid.*, p. 74）」と突然の解雇を言い渡される。そしてちょうどその直後に名古屋市長選があり、見返してやろうと思って立候補しようとする、今度は春日氏に「市長選はやめろ」と

¹ 出生時の名前。のちに、かな表記の「河村たかし」に戸籍名を改めた。

² 鈴木望（すずきのぞむ、1949年4月20日～） 静岡県出身の政治家、教育者、元厚生官僚。河村氏と同じ一橋大学社会学部を卒業。

³ 現在の中京法律専門学校。

⁴ 春日一幸（かすがいっこう、1910年3月25日～1989年5月2日） 岐阜県出身の政治家、実業家。愛知県議、衆議院議員、民社党委員長を歴任した。

引き止められる。しかし、河村たかし氏が構わず立候補の準備をすすめようとする、『『民社党は河村たかしを除名にした』という内容の、党関係者やマスコミ、さらには他の党にまで、一千何百通の手紙が送られた（*ibid.*, p. 75)』。そうして彼は、あえなく市長選から撤退することを余儀なくされた。

春日氏との闘いに敗れた河村たかし氏は、その後一旦家業を休み、それまで択一試験四勝四敗という成績に終わっている司法試験に再び挑戦するために1年間東京に行くことにする。今までのように「昼間働いている」というハンデがなくなり、東京・大久保にあった辰巳法律研究所⁵という予備校に通い猛勉強をする。しかもその間、家業は傾き、1千万円以上の大赤字を出してしまっていたという。

しかし、合格発表当日、自分の受験番号はどこにも見当たらなかった。彼はこのとき37歳にして、再び夢に敗れてしまったのだ。

「後継者になりたかった春日一幸さんから『迷惑になった』と一方的に斬られ、関係者から『裏切り者』と呼ばれ、今度のはのべ十年、そしてファイナルアンサーとして最後の一年間努力した司法試験も落ちた（*ibid.*, pp. 85-86)」。そして彼は、世の中に「再挑戦」ができるしくみがないことに気づく。「古紙屋のオヤジでも、商売人のセガレでも、一回しくじった人間でも再挑戦できる社会を自分でつくるよりない（*ibid.*, p. 89)」。社会の仕組みをつくるのは誰か。衆議院議員である。そして彼は、さまざまな挫折を経て「人生再挑戦の仕組みをつくる」というモチベーションのもと政治を志したのである。

2.2. 政治家として

そのようにして政治を志した彼は、衆議院議員を約16年間歴任したあと、名古屋市長選に出馬する。彼の現在までの経歴を次の表に示した（表1）。

表1 河村たかし氏の経歴

年月	年齢	経歴
1990年2月	41歳	第39回衆議院議員総選挙。自民党の公認を得ず、愛知1区（中選挙区）にて落選
1992年	44歳	自民党を離党
1993年7月	44歳	第40回衆議院議員総選挙。日本新党公認で愛知1区（中選挙区）にて初当選
1994年12月	46歳	日本新党の新進党への合流に伴い新進党に参加
1996年10月	47歳	第41回衆議院議員総選挙。新進党公認で愛知1区（小選挙区）にて2度目の当選
1998年1月	49歳	新進党が分党して結成された自由党に参加
同年4月	49歳	自由党を離党、無所属
同年12月	50歳	民主党に参加
2000年6月	51歳	第42回衆議院議員総選挙。民主党公認で愛知1区（小選挙区）にて3度目の当選
2003年11月	55歳	第43回衆議院議員総選挙。愛知1区（小選挙区）にて4度目の当選
2005年9月	56歳	第44回衆議院議員総選挙。愛知1区（小選挙区）にて5度目の当選
2009年	61歳	衆議院議員を辞職
同年4月	61歳	名古屋市長選挙に初当選
2010年11月	62歳	自身が主導した市議会の解散請求（リコール）の署名数が法定数を下回ったとして、名古屋市長を引責辞任。再出馬を表明
2011年2月	62歳	名古屋市長選挙に2度目の当選
2013年4月	64歳	名古屋市長選挙に3度目の当選

河村たかし公式サイト⁶をもとに筆者作成

⁵ 現在は高田馬場に移転。

⁶ 「河村たかし 気さくな67歳 | 減税日本代表」 <http://takashi-kawamura.com/>（2017/1/10 取得）

衆議院では、国会等移転特別委員会（委員長）、予算委員会（委員）、法務委員会（野党筆頭理事）、裁判官訴追委員会（第2代理委員長）などを歴任。名古屋市長就任後、自らの年2,400万円の給与を800万円に減額することを提案し、「減税」を大きなポリシーとして掲げ、市政改革や社会福祉のさらなる充実、市民への情報公開などを主な政策として活動している。

インターネットで河村たかし氏の公式サイトを訪れると、そのトップに「河村たかし 気さくな67歳」と出てくる。庶民の出、庶民の立場であることを「ウリ」にしている彼らしい。そんな「気さくさ」を演出する要素のひとつが、やはり彼の独特なことばづかいではないだろうか。次章では、彼の言語に対する意識について、「聞き書き」という手法を用いて本人に調査を行った結果を述べていく。

3. 聞き書き—河村たかし氏

「聞き書き」とは、語り手の話を録音して一字一句書き起こしたのち、語り手の一人語りの形で話しことばのまま文章にまとめるという手法であり、社会学などの研究や学生の教育の一環として用いられることが多い。本章では、まず聞き書きとその事前準備として有用なKJ法の手法と意義を述べたあと、2016年11月19日に行った河村たかし氏への聞き書きの本文とその考察を述べる。

3.1. 聞き書きの手法と意義

「聞き書き」とは、「語り手の話を聞き、それをその人の「話し言葉」で書いて、活字にして後世に残すこと（小田, 2012, p. 6）」である。一問一答形式ではなく会話形式でインタビューが進められること、文章は語り手の話しことばで書かれることが多いことなどから、一般的なインタビューとは異なる。この節では、聞き書きの手順や性質について明らかにする。

聞き書きのプロセスは、「聞き」と「書き」の段階にそれぞれ分けることができる。

「聞き」のプロセスでは、「会話形式でインタビューを進める」ことが重要である。まずは、「聞き手（インタビュアー）」と「語り手（インタビューを受ける側）」の会話を録音する。インタビューを行う場所は、語り手の住居や職場など、語り手がリラックスできる環境が望ましい。そして、聞き手が「聞きたいこと」をリストアップしてひとつひとつ質問をしていく一問一答形式のインタビューとは異なり、「聞き書き」は半構造化インタビューである。あくまで会話の流れを大切にしながら、聞き手がその時々で思いついた質問を投げかけることも、語り手が質問の回答とは異なる話をはじめることもある。

「書き」のプロセスでは、「話しことばで記述する」ことが大きな特徴である。まず、録音をもとに一字一句残さず、聞こえたままを文字に書き起こしていく。こうして仕上がった会話のサンプルを「べた」、文字に起こしていく作業を「べた起こし」と呼ぶ。次に、聞き手と語り手の会話形式になっている「べた」を、語り手の一人語りの形に編集していく。たとえば、

A: 出身はどちらですか？

B: 高浜市です。

A: あ、そうなんですね。では、生まれてからずっと高浜市？

B: そう、生まれも育ちも、高浜市。

という「べた」を、

出身は高浜市です。生まれも育ちも、高浜市。

というような文章に書き直していく。文章にする際にも、地域のことばなど独特の言い回しはできる限り共通語に変えず、語り手の語り口調を残すように心がける。

では、「聞き」のプロセスにおいても「書き」のプロセスにおいても、通常行われるようなインタビュー調査とは大きく異なる「聞き書き」だが、それらにはどのような意義や目的があるのだろうか。

まず、一問一答形式ではなく談話のようなかたちでインタビューを行うことによって、会話のなかで事前準備では考察しきれなかった新しいテーマが生まれたり、「聞き手が聞きたいこと」のみならず「語り手が語りたいこと」を聞けたりすることがある。「聞き手が聞きたいこと」ばかりを聞く一方的なインタビューでは語り手の回答を聞き手の意図に誘導してしまうおそれがあり、なるべくリラックスした会話のなかで、「語り手が語りたいこと」も語ってもらうということは、質的調査法の信憑性にもつながり、調査倫理の観点からみても有用である。また、形式ばって行われるインタビューとは異なり、談話のような雰囲気の中で行われるインタビューでは、語り手の緊張がほぐれ飾らない回答が得られやすくなる。敬語で、取り繕った回答よりも、率直な意見を語り手自身のことばで聞くことができれば、社会調査としても言語調査としても非常に有用なデータとなるだろう。

そして、「語り手の話しことばで記述する」という点に聞き書きの大きな意義がある。まず、語り手の話しことばのサンプルが見やすく得られるということ。語り手の話しことばで記述された文章は、「実際の言語使用のサンプル」として社会言語学的に非常に有用だろう。また、語り手の一人語りのかたちになおされた文章は、「べた」の状態よりも格段にわかりやすくサンプルを見ることができる。ただ1点注意点があるとすれば、語り手の発話そのものではなく、あくまで聞き手(書き手)という他者の編集の加わった文章であるということを念頭においておくことである。書き手も、文章の捏造や必要以上の誇張をしないことが重要である。

また、「語り手の話しことばで書く」ということには、読み手にとっても語り手の人物像や意図が伝わりやすいというメリットがある。これは、研究としての聞き書きのみならず、読み物として、郷土資料としての聞き書きにおいてはもっとも効果的な点ではないだろうか。

ここまで、調査方法としての「聞き書き」の手法やその意義について述べた。次節では、その「聞き書き」を用いて筆者らが河村たかし氏に直接行ったインタビュー調査の結果と考察を述べていく。

3.2. 調査

河村たかし氏がことばに対してどのような意識を持っているのか、どのような経緯で現在のことばに対する彼の考えに至ったのかを明らかにするために、我々は河村たかし氏に対して聞き書きの用法を用いたインタビュー調査を行った。また、それに先駆けて前述の方法で聞き手の学生4名によるKJ法も事前に行った。

調査は2016年11月19日土曜日、名古屋市東区にある河村たかし事務所内で行った(写真1)。語り手は河村たかし氏1名、聞き手は著者を含む名古屋市立大学人文社会学部国際文化学科社会言語学ゼミ所属の4名(井上歩、北森理聖、高部美里、松本小奈津)である。当初アポイントメントを取っていた時間は午後2時からの1時間だったが、総録音時間は1時間27分45秒であった。以下、聞き書き本文と考察を述べる。

写真1 聞き書き風景。左から、河村たかし氏、北森理聖、松本小奈津、高部美里、井上歩



河村たかし事務所員撮影

3.2.1. 聞き書き—河村たかし氏

➤ 「なんとかことば」と「共通語」

まあ河村さんも、国会を 16 年弱やっとして、ほんとに総理にならにやいかんなんだけど。まだあきらめとらんけど (笑)。だでそのときの、はじめの……NHK の、通信委員会って、情報通信のことやっとしてたけど、ずっと。

だで NHK の予算の委員会のなかで、「なんとかことば」という言い方について、言っとりまして。それまでは、大河ドラマの場合「なんとか弁」って使ってたんですわ。そこで、「なんとか弁」と「標準語」っていうのは、差別用語だと。だから、「なんとかことば」と、「共通語」と、それに変えないかと。というふうに言ったら、それから NHK が変えたんですよ。だで今でも、たとえば今日でもね、真田丸でも見ると、まああの、最後にずーっと出てくるがね。「なんとかことば指導」と。「なんとか弁」じゃなくて。「なんとかことば」になっとるよ。あれはまあ、あんまり俺が俺が、とそう言いたくないけど (笑)。それはほんとにそうですよ。国会の、だからまあ 20 年ぐらいなるかねえ。衆議院 16 年やって、市長が 8 年だで、22、3 年ぐらい前かな。わりと当選してすぐですわ。

➤ 遠慮しとったってしゃあない

もう名古屋におると、「河村さんの名古屋弁がきたにやあ」とか言ってよお、とろいことばっか言うで怒っとなだおい (笑)。

ただ一本だけ、はじめのころのまだ落選中につくったビデオがあって、あれは原稿読んでつくっとるもんで、だでわりとそのまあ共通語に近い、まあそれを某テレビ局がよう使うけどよお (笑)。だがまあまあ、まあね、今はそれなりに長いことやっとするもんで、もう年も 68 でしょう、今年。となると、メッセージを市民の皆さんに向けて伝えるべき立場じゃないですか。だからまあ堂々といろいろ喋りますけど、まあ 68 にもなったらそうだな、遠慮しとったってしゃあない。まあ当時は当選前だったし、そういうふうで謙虚でもあったもんで。

➤ ことばの標準化

ことばを標準化するゆうのは、たとえばいちばん典型的なのは、戦争があるときですね。戦争があると、「撃て！」だとか。「やめろ」とか「逃げろ」とかね。ゆうことは同じことばでにやあと、わからん、むちゃくちゃになっちゃうじゃにやあすか。命がみんな懸かっとなるもんで。ほで統一して、同じことばでいこうと。敵味方をはっきりさせることもあるわね、それは。敵か味方かを分けるときにね、それで分かるわけですね。だから、どういいうか、戦争いいうか、まあ非常に、画一的な社会をつくらういいうときに、ことばっちゅうのは、どうしても標準化されるわけだ。

けども、かといつて、たとえば津軽のおばあちゃんと、沖縄のおばあちゃんが喋っててな、仮に。わからなかったと、何言っとなるかこれ(笑)。で、まあ、それはそれでまた面白いんですよ。けどまあ一応日本人とすると、まあ一応これ共通語は要るでしょうと。たとえばNHKの全国ニュースでやるときにですね。まあやっぱ津軽のおばあちゃんも分かる、沖縄のおばあちゃんも分かるということばは要るんじゃないかということで、まあ共通語というのは要るんじゃないかと。

いうことになって、まあ共通語。プラス、「なんとかことば」があると。「方言」という言い方、そういう中央のことばだけを標準化させて、あとは、そういうものに吸収されゆく劣等ことばだというのは、差別用語なんだと。

➤ 名古屋ことばはきたない？

ほれからまあ、きれいとかきたないと言われますわね、ことばが。ほんなもん、ばかやろう、たわけ言ったらなかなだわ(笑)。たわけ、そもそもことばに、きれい、きたにやあなんてあるのかと。ほいだらケニア行って、太陽はどう言うんだと。まあ俺は知らんけども、それね。英語はサンと言うと、日本は太陽と言うと。何がきれい、きたにやあなんて、それをどうやって表現するんだと。そもそもね。

まあ、ちょっと昔で言えば、津軽のおばあちゃんたちの、話すことばは、まあズーザー弁とか何とか言ってきたにやあとと言って言っとなる時代もありましたがな。最近はいちばん美しいことばと言われてますわね。それはやっぱり、津軽の情景が、目に浮かぶでしょう。津軽海峡冬景色と。石川さゆりさんのよお。寒い、あの津軽海峡がですねえ、東京で、たぶん恋に破れた女がですねえ。男を捨てて帰ってくわけだ(笑)。津軽海峡にね。まあ、昔から非常に寒い、ブリザードなどのあるようなところで、ある意味じゃあ貧しいいいうか。苦しいところで生き続けてきた、人間の営みというのがな。大変美しいことだと。ゆう説のが最近有力だわな。時代によって変わってきた。

名古屋ことばだってフランス語に似るといいう説あるで、これ。俺知らんけども(笑)。フランス語はだいたいきれいだとか言われとるでしょう、なにがきれいかわかんけども、そうでしょう。名古屋のことばで、あうえーとか、青い、ブルーのことを、あうえー(あおえー)と言うんですね、僕らは。あうえい色だにやあと。その「うえー」っちゅう音はフランス語にあるらしいけど。ほんなら名古屋だって、同じだにやあと。

だから、ことばにきれいきたないなんてそもそもねえと。そんなもんは全然ないと。ただ政治の強いところが、きれいなことばだと勝手に言っとなるだけで。

➤ 八代将軍吉宗と名古屋騒動

むかしの名古屋っちゅうのは、じつは熱田神宮であって、1900年前ですけど、まあ、そのころは熱田のへんだけだった。今の名古屋、このへんは、荒れ野原だったわけです。だからまあ、家康が来てお城をつくったとゆうことだけど、尾張藩は、家康の九男の義直という人が、まあ、初代藩主になって。御三家筆頭ゆうことだね。家康の直系の子どもが3人おりますけど、その長男だったもので。だ

から尾張藩は、威張ったわけだわ。62 万石だと。ゆうことですけどまあ実際は、木曾のヒノキなんかを領有しとったから、新田開発がものすごい進むなかで、100 万石以上あったと。ゆう説が有力で、どえりゃあ威張ったわけだ。

ほでまあ、威張っただけじゃなあって、將軍家になると。筆頭だから。そりゃ当たり前のように思っただけで結局なれなんだ。どじったわけですよ。で、そのときに特にいちばん厳しかったのは、8 代將軍。吉宗ね。テレビで、暴れん坊將軍。出てくるでしょう。でもあれは、暴れん坊將軍は、なんかかっこいい、立派のようですけど、あれは松平健だでね(笑)。マツケンさんはええ男ですけど(笑)。だから実際の吉宗とはまったく違う。

享保の改革といいますけど、まあ質素儉約はええんだけど。幕府に質素儉約するのはええんですよ。行政改革してね。しかし、庶民にね、そんな質素儉約なんかやっちゃうと、まあ有名な話は、女はその、かんざしを挿してはいかんと。ゆうことを、あの吉宗が言ったらいいんだね。質素儉約。ほうするとかんざし職人が失業しちゃうがね、そんなこと言ったら。

それと、吉宗までは税金というのは四公六民で、四は公で六は民だったの。それで吉宗が五公五民に増税したんですよ。とんでもねえもんなんだあれは、実は。増税大魔王。で、まあそれに対抗したのが尾張藩の、7 代藩主ですけどね。宗春さんゆう人が、あの、増税に対抗したわけ。だから大変なことになったわけだ。

何が言いてやあかゆうと、わしもこれ減税と言っるとる(笑)。大変ですよ、減税いうのは。みんな敵になりますから。役所がいちばん嫌なのが減税だでね。ほから議員も、ほんとに庶民の代表なら、議員も、減税に賛成せにやかんけど日本みたいに家業化された議員だと、役人みたいになっちゃうわけだ。長くやらないといかんもんで。ほうすと増税に賛成するわけよ。これは。ゆうことで、減税って大変なわけよ。ほでまあ、宗春さんが戦ったんだけど、まああの財政に失敗したというのはあとでつくられた話であると。じつはたいへんうまくいったと。

尾張藩の藩訓は、「王命に依って催さるる事」。名古屋城のなかに石碑がありますけど。代々歴代藩主が伝えてきたことに、尾張藩はそもそもは、徳川直系だと。もともと、家康の、征夷大將軍ってのは、京都の、天皇からもらった地位であると。ゆうことなんで、いざ事あらば天皇をお守りせよと。江戸幕府ともめたときには。

要するにその、江戸幕府をつぶせと。クーデターを起こしてもええぞ。こういう勢力だったわけですよ。じつはこれ。実際クーデター計画はあったと言われとる。うん。鷹狩りと称して。だけどどうもだあれもついてこなんだようで、ほれからクーデターできへんもんで。ゆうことになりましたと。

ほんで、まあ要するに、江戸幕府から目をつけられとったとゆうことです。そりゃそうだな、クーデター計画が。こりやつぶさないかんと。ゆうことで、それで宗春さんはじつはつぶされた。経済運営に失敗したといって。という説はたいへん有力ですわ。だけどそれは違う。

でそのころに、1777 年だったと思ったけど名古屋騒動っちゅうのがあって、これは一次資料があるとかないとかいろんな説あるけど、そのときうちの先祖もこれ逮捕されてますけどね。河村秀根(ひでね)と、優秀の秀に根っここの根。要するにその人が、將軍毒殺未遂事件というのがあるんですわ。毒殺。尾張藩が、どうも將軍をとりてやあもんで、毒殺を狙っると。ゆう話があって、十代將軍家治の毒見役が一口二口食べて血を吐いて死ぬ。そして料理人を追及すると、「尾張藩にやらせられた」とゆうわけ。ほんでそれみろということで、尾張に何百と、北町奉行を中心として大捕物があるんだ、突然、あの江戸幕府から、えーまあ、逮捕に来るわけです。で 4 人逮捕されて、うちもそのなかのひとりだったけど、まあ要するに拷問があったけど。まあそんなことはない尾張藩を守った。冗談じゃねえということになって、でっちあげだということになって、放免されとるけど。ちゃんと籠のなかに入れて連れてかれたいうでね、これ。

それから、尾張藩にもものすごい幕府のお庭番ですわ。スパイが、大量に入るようになったと。やっぱり尾張は危険だと。まあ力を持つとったわけですよ。そのヒノキも、材木もあるし。昔は鉄骨あらへんでな。ほ一だで材木だもんで、ほうするとこのへんは比較的肥沃ですから、米もようけとれて、

だでクーデターを恐れてですね、ものすぎやあスパイが入っとなって。その後藩主もみんな幕府からの天下りになってまった。

ほれから名古屋のことばっちゅうのは、要するに尾張名古屋の人間であることをみんな隠そうとしちやったんだな、これ。要するに。ほんとにクーデターやっちまや良かったんだけど。まあ、やらんかったもんで。で、名古屋の人間であることを、その、スパイもおるし。隠そうとして名古屋のことばを、使わんようになったと。とゆう、悲しい歴史がある。

だでよお、やっぱあの、ここにきて300年の怨念を晴らさにやいかん(笑)。

➤ ことばに400年の執念

名古屋におけるのは、ぼくんとこは江戸時代のいちばんはじめからですよ。

もともと、河村城ゆうて小田原の山奥に、ヤマキタという。山の北というところがあつて。そこに河村一族っておって、足利尊氏に滅ぼされて、ほんと、大虐殺があつて、ほんでまあぼろぼろになって散り散りバラバラになっとなって、うちはまあ静岡のへんにおつたらしいんだよね。ほんで、まあ家康が、どうだと。おみやあんとこも、昔サムライだったで、その関ヶ原一緒に来いって言われて。家康について、まあ一応関ヶ原で勝って、ほんで尾張で、まあ、サムライやれと。ゆうことでまあこれいちばん多いときで800石、まあ500石ぐらい。中級の武士だったの。ずっと。そういうふうですよ。

それもあるもんで、そりゃあ先祖は先祖で大事にせなかんがねやっぱり。名古屋のことばはよお、そりゃ……執念があるわけ。だから怒るんですよわしは、河村のことばはきれいきたにやあつて、たわけか一言うて(笑)。こっちは400年しとんだて。

➤ 地域のことばを守るということ

わしはまあ、いろんな環境問題もよう、わーわ一言ったりですね、いろいろ言いますので、なんか共産党みたいにいる人があるかもわからん。それは真逆ですね、健全な保守。英語でゆうコンサーバティズムという、どっちかっていうと人間の自由を大事にするほうなんですよ。自由をね。保守ということばは日本では正確に使われとらんもんで、日本の保守は保守反動。共産主義的な管理です。社会主義というのは、計画経済ですから、管理。ほんとは、それを嫌うのを保守主義という。

だから本当の保守主義者というのはその、自分たちが自由にコミュニティをつくってるとゆうことを大事にするわけ。だから自分らのことを大事にするんですよ。それぞれ。フランス語なんかさうだよ、ね、ひとつの、典型的な。

エスペラント語だって流行らんかったじゃないですか。結局ねえ、世界連邦ってできんですよ、残念ながら。そういう思想つかえて危ないんだよね。共産主義がそうですね、実は。やっぱ人間って残念ながら、あのある程度自由競争せざるを得ないとゆうところがあつてね。戦争なんてないほうがええんだけど、みんな画一的に全部押し込んだところで、かえて戦争が起こってしまう。ゆうのはまあこの20世紀の、100年、150年の悲しい歴史だわね。これ。でしょう。

だからそのことばを大事に、地域のことばを大事にするというのは、まあするとどう言うかなあ、その……民族を大事にすると同じなんだけど。それは実は、平和を守ることでもあるんだね。共産主義的な意味だと、逆ですけど。共産主義的な意味になってくると、ほうじゃないと。そこに自由があるから人間は争うんだと、まあこうなりますよね。ほんで実際、一党独裁をやろうとしたじゃないですか。んで社会主義で計画経済やろうとしたけど全然うまくいかなかったじゃないですか。それどころか、ものすごい殺し合いが起こってまったじゃないですか。それでね、自由主義というのはまあ、んーまあどうしても争いもあるけども、やっぱ人間ちゅうのは、そういうまあ、悲しい性もあると。競争せんと、経済も発展しないと。ゆうことも、いえると。

そういうことの、本質的なひとつの議論が、ことばを画一化するなど。ゆうことですね。それは人間の平和を守ることなんだと。ゆうことにつながるとる。

➤ 教室で名古屋ことばを使うな

ほんだでよお、悲しい時代があつて、うち実は死んだおふくろも、大正 12 年生まれで、まあ何年なるかや、10 年なるか、亡くなってますけど。まあ言っとったけどね、女学校時代に、だから戦争中かちょっと前ぐりやあか、やっぱり名古屋のことばを使うなゆう授業があつたらしいんですね、これ。やっぱ戦争だからですよ。教育は、もう中央集権で、そんな名古屋がどーのこーのとろいこと言っとれんと。国の軍隊に従えて時代だったわけでしょ、そんな、お上に。そういう授業があつたと。

ぼくのときでも戦後ですけどね、あれ小学校だな、間違いなく。旭丘小学校っちゅうんだけど。公立のね。旭丘小学校の授業でね、「やっとかめ」と書いてね、黒板に。先生がペケ描いて、こういうことばは使つてはいかんという授業ありましたよ。

「やっとかめ」って、そのころも、まああんまり使わんけど（笑）。うちは使つてましたよ、親父おふくろは。ロングタイムノースイーという意味。年寄りに言ってみやあよ、やっとかめと。年寄りは逆にハワユー言つたつて喜ぶ。ほんとに（笑）。みんなおもしれえ時代になったんだ、これ。老人会でハワユー言つたらみんなハワユーと（笑）。ベリーグッドとかよ。年寄りが言うで楽しいで、これ。だから、ばあさまたちが特に元気で、今（笑）。

まあ、そういう時代があつた。うーん、だで、まあ太平洋戦争、太平洋戦争前、前後、やっぱりことばを統一しようと。ほりゃほうだわな、これ。ほんなもん、日本、火の玉んなつて、米兵と戦えいう時代だもんで、んな地域の時代だなんて言つとるわけにいかんやあもんで、だから俺らのときになんてかなああれ、なんかありましたね、そういうのが。

まあ、それで名古屋ことばを使わないようにしてたかつて、そんなことないですよ、べつに。あんまり意識しとらんかつたけどね。まあうちもずっと名古屋だもんで、親父やおふくろもそんなような、ふつうにことば喋つとったからね。

➤ ふつうに喋つとるだけだ

大学は東京だったけど、そのころもまあ名古屋ことばを使つとつたと言つとるで、みんな（笑）。あんまり意識しとらんわ。ほんとにこれは通じんのじゃにやあかいうときだけは、若干気つかつて喋つとつたけどね。今は強調して喋つとるけど（笑）。おもしれえがね。

パフォーマンスじゃにやあけど、ふつうに喋つとるんだけど、ふつうに喋つてもふつうわからんことばあるじゃないですか。だでそれはそれでええだにやあかと、言つて、ふつうのように喋つとりますけど、まあ自分で言うのもなんだけど、名古屋ことばでこういう名古屋ことばを知つとるかとかいう番組とかそういうこと言う人がおるけど、まあ自分のことでなんだけど、俺みたいに流暢に喋るやつはそうおらん。

ふつうに喋る。ふつーうの喋りことばだ。

➤ 上町、下町、武士のことば

ただ名古屋ことばも、あの、まあ 3 つじつはあつて、武士のことばと、ほれからまあ上町ことばと、下町ことば。だいたいこの 3 つあります。でわしはどつちかいうと、おふくろに言わせると、おまえは下町だと（笑）。わーわー言つとつたけど。

住んでるここらへんは、武士の、ちょっと、下のほうですけど。まあ下町だろうね。もうちょっと西へ行くと、いわゆる武士になるけど。まあここらへんは職人が住んどつたところらしいんでね。武

士のことばでは、なんとかでござるとかいう、あの人ござらんきゃあとか言う。あの、いますかというね。住んでますかと。

まあたしかに昔、「そうだなも」とか昔はきれいだったとか言うんだけど、あれはどっちかというと女ことばですからね、あれ。どっちかというと、です。うちのおふくろのいとこは男で、その人も名古屋のことばバリバリだったけど、その人男だけ「そうだなも」言っていましたけど。亡くなりましたけどね。

➤ 消毒都市ナゴヤ

まあとにかく、今の名古屋弁がきたにやあとかよお、とろいこと言う、そういう輩はぶっ潰さにやいかん。よう言っとるがね、こないだテレビで。ほんなもん、大阪行ってねえ、大阪のことばはきれいとかきたにやあとかよお、言ってみやあいうの(笑)。叩かれるぞほんなもん(笑)。何考えとんすか言って、あんたあ言って。そんだけやっぱり、こう、威信をなくしたいのか、まあ戦後の名古屋のまちづくりが、要はこれも調べてみるとええけど、まあ道路ばっかつくつとつたがね、これ。ほんで日本でいちばん行きたくないまちに、日本一になったわこれ(笑)。めでたくも。かしこくも恐れ多くも(笑)。なったでしょう。

あの、ほんとなんです。なんでか言うと、この戦後のまちづくり。名古屋ゆうのは、空襲でほとんど燃えちゃったわけね。なんでか言うと、零戦をつくつとつたから。大軍需都市だったわけですよ。ほれそこの、ナゴヤドームのあるところが、三菱重工のエンジンの工場だったわけです。零戦の。名古屋の空襲ってすごかったん。

まあ、亡くなった人の数、あんまり数で言っちゃいかんけど、いちばん多いのは広島ですね、やっぱり。20万。次が、東京と沖縄で10万。東京大空襲で。でその次が、長崎ですね、原爆。7万。その次がまあ、大阪と名古屋。だいたい1万人くらいと言っとるけど。当時は大阪いうのは名古屋の3倍ありましたから。だから名古屋の空襲っていかにひどかったかと。ほんでこの都心をやられたの、全部。バーッと。全部焼け野原になって。ほんでまあ、なくなっちゃったわけです。

そのあとの戦災復興事業という、これは日本中でやっとなるけど、大きいところで、東京大阪名古屋でいうと、まあ実は途中であんまり金がなくなったということで、完璧にはやってないんですよ。東京は一部しかやってない。大阪は、大きい道路はつくつたけど、中は昔のまま。名古屋は、全部ぶっ壊れて、これ。まあちょっと前から計画つくつとつたということもあって、ほんで、50メートル道路100メートル道路は有名ですけど、これもまあね、こんなできやあ道路は珍しいけど、いちばんすごいのはこういう道ね、ここらへんのこういう道(筆者注※大通りから一本入った細い道)。生活道路を、8メートル以下の道路はつくらないとかなんとか言ってですね、全部路地をぶっ壊したと。そんなことがなんでできたかというと、お寺の移転をやったんですわ。じつは。お寺を。ほんで、あの、名古屋におると平和公園が当たり前みたいでしょう。お寺の団地。お墓の団地。よく考えてみたら、あんなんありゃへんじゃないすか、東京や大阪に。あんなすごいのはないですよ。

で名古屋は、平和公園にうつしたお墓がね、18万9千かな、墓をうつした。東京は3千です。大阪は2千です。名古屋は18万。の、墓をうつした。これ、墓をうつすってどういうことかということ、まちなかにこうお寺があつてお墓がある、ほんだらみんなその、まっすぐの道ってつくれなかったわけ。名古屋はお墓を全部ぶっ壊して、ほんでお寺をちょっと動かして、ダーッとまっすぐの道をつくつてつたわけです。ほれが。都心に土地を作って減歩が少なくすんだ、と反論するけどね。

だで、名古屋のまちづくりで、名古屋学院大学の教授の、井澤知旦という人がおります。井澤さんという人が、本人にも聞いたならその通りだって言つとつたけど、名古屋のまちについていたら消毒都市だって言つとるんですよ。これ。毒を消す。これはね、まあわたしもドキッとしましたけどねえ、なかなか残念だけど言い得て妙ですね。

要するに、その昔の月の法善寺横丁なり、ほれから、わたしが国会議員におつたときに、最後3年

くらいは、議員宿舎から出て、東京の、千駄木3丁目か2丁目か。奥のへんに住んでましたけど、まあ空襲はなかったけど、細い路地がものすごいようけあって、これ。ほんでそういうところに外人がよう住んどるけどね。そういうその路地の奥には、まあ樋口一葉の物語があつたり、ほれから正岡子規が若くして、ほんで結核患って、みんな死んでいくんですよそういうところで。だから路地というのは今となると、すごい情緒があるけど。当時は、そのやっぱり衛生的に悪いとこだった。

そいつを名古屋は全部ぶっ壊して。消毒しちゃった。太陽がさんさんと降りそそぐ。消毒してしまつたまちだと。ゆうふうに言ってますわ。これは言い得て妙です。ほらほんなとこに人は来ませんよそりゃ。消毒したまちになんで行くんだ(笑)。ゆうのが今の現状。だからそういう時代のなかでやっぱりことばもたしかにあったかもわからんな、これ。ことばの消毒みたいなものが。結局。

まあ、しかし、そういう、名古屋のまちが、青年都市とか言われてよお。なんで青年都市なんですかこれ(笑)。ぜんぜん青年じゃないですよ、名古屋なんて、御三家筆頭ですね、熱田神宮なんて1900年ですよこれ。ものすごい実は古臭い都市なんですよここは。それを青年都市と言ってみたいね。

だから、やっぱり、いちばんすごいのは、あそこ、建中寺ってあるけど、そこに。あの、東区に。建中寺。いわゆる、尾張徳川家を、まあ、祀つたお寺ですわ。あそこは空襲まぬがれて、戦争後も残つとったんです。あそこには、二代將軍からずーっとね、お墓がね。当時土葬ですわね、ご遺体も全部あつて。18基だったと思いますがね、嫁さんのもあるから。子どものも。残つとった。ほんだら昭和27年だったと思いますが、全部ぶっ壊してですね、それを。全部。ほんで遺体を全部掘り出して、八事で火葬しちゃったんです、ほれを。ほんでそこをどうしたか言ったらあずま中学と市営住宅に変えてまつたいうわけ。ものすごいですよこれ。まあそれも消毒の一環ですわね。まちなかにそんなね、土葬が残つとったらかんというような発想でしょ、これ。だでようそんなひどいことをですわね、やったもんだと。で、これ徳川さんに行ったら、じつはその記録が全部ありますと。その、全部掘り起こした、全部ありますと。でそこに、極秘のうちに言うって書いてあります。これが。だでまあ、結局、徳川さんでも、そういうものに従うと。いうですね。それを一種の生贄として、名古屋じゅうのお墓をみんな移転させたと。そりゃみんな土葬だったわけですよ、みんな、先祖代々。それもみんな辛抱して、名古屋は消毒に協力したわけですわ(笑)。

まあほだで、こういうまちをどうやって盛り上げるかと。まあたまたまね、場所がええもんで。東京と大阪と、京都の真ん中だわな。で、1日40万人も新幹線が止まって、みんな降りんけど。ほれからなんといつてもでやあ(大)トヨタ自動車があると。世界一ですから。でやあですよ、ほんとに(笑)。

名古屋は、名古屋港だけで貿易黒字ですよ。輸出じゃないですよ。それが毎年6兆円もあるわけですよ。これ。輸出だと11兆かな。ほんで、愛知県の、製造品出荷額という、44兆あるんだけど、2位が神奈川県で17兆ですから。3位大阪の16兆。だで圧倒的なんですよ、でやあトヨタの。ほんでみんなこうやってやつとれるんだがね。ほうでしょう、ありがてやあですよ。だから、その名古屋でも交付税もらつとる言いますけど、51億かもらってますけど、名古屋の人間が国へ差し出しとる税金は1兆5千億円差し出してますからね。上納しとるんです。そういうシステムなんだ、日本は。いったん上納するんです。だから名古屋の人が払つとる税金の3分の2は上納されとって、それが沖縄や北海道いっつとるわけです。ちょっとは名古屋にも落ちとるけど。だでみんな騙されとるけど、ものすごい、地域でいうと世界一じゃにやあすか、このへんの、その工業の力ゆうのは。

まあそういう、ラッキーシティですよ。ほりゃあ、ほうだけど、消毒されたまちと。消毒。

➤ 名古屋の歌を作ろみやあ

だでまず歌がにやあがや。名古屋の歌。にやあだろう。ほんだでまあ、東京だったらよお、「東京音頭」とか。知らんか? 「有楽町で逢いましょう」とか。知つとるか(笑)。大阪だったら「月の法善寺横丁」とかよお、「浪花恋しぐれ」だとかねえ。

名古屋言ったら、白い街名古屋言つて。ほんなもんなんか刑務所か、病院かみたいな(笑)。消毒の

まちだから(笑)。反対に、あの歌が正確だったんだな。消毒のまちで。そういうことだもん。今はほんだら俺、最後、なんとか、紅白出れんかしゃん(笑)。NHKに頼んどるで(笑)。名古屋の歌で(笑)。「嗚呼固定資産税」(笑)。

要するに流行る歌いうのは、ちゃんと、「有楽町で逢いましょう」にしたって、やっぱりその、まちのイメージが浮かぶんですよ。有楽町だったら、有楽町そごうのテーマソングなんだけど。やっぱり、今の大阪だったら、「月の法善寺横丁」とかね。なんかイメージ浮かぶ。名古屋でほんだら夢に溢れたどうのこうのとかよお。そんなとろいもん歌ったってよお。「燃えよドラゴンズ」歌っても最下位だしよお(笑)。だもんで、だからほんで、消毒の歌ぐりゃあがええかもわからん(笑)。そういうやっぱ、こう、まちのイメージというのがストレートにつながらないと。仮につながれるんだったら、消毒して、広いみちをつくったと。ほんで土地の値段を上げて。固定資産税をようけ取るようになったと(笑)。ゆうのがびったりだね。「嗚呼固定……あんたの墓はまあにやあがや。みんな道路なってまったがや。取られたのは固定資産税だけだぎゃあ」、ゆうて。という歌でどうだ。ヒット(笑)。

➤ 名古屋人の自慢

だでまあ、名古屋のイメージ。そんなかで、まあ名古屋城の天守閣の木造、はまず1個だとするね、あれは絶対やらないかん。堀川、新堀川、そういうのとか、栄から大須やらね。ほれから、熱田神宮。そういう昔のまちづくりの、まあわずかに残った名古屋のねえ。まあ空襲だけどこちこつに残ったところあるもんで、そういうのを残してく。んでまあ、情緒のある、かんじにしよう。ゆう目的なんだけど、そのためにはやっぱり名古屋城、シンボルを1個ね。本物でなきゃ。名古屋人の自慢が。あんたらだって自慢あらへんだろう(笑)。ほらほうだろう(笑)。それ言っただ。友達呼んだとき、どこ行くの一言って。どう言うんだ?ふつうは。まあ名古屋城か、やっぱり。ほだら、みんなコンクリートだ。なんだの一言って。エレベーター、外にあるし(笑)。ほんなんぜんぜんアウト。図面をね、たまたまつくつとつてくれとるもんで。これ、名古屋城は。知っとる?それ。

実は名古屋城だけなんだ、実測図があるのは。絵図みたいなのはあるところはあつた。だけど中の、ほんとの実測図があるのは世界中で名古屋城だけだ。有名なのだと、ポーランドの、ワルシャワの旧市街ね。世界遺産になってますけど。あれナチスドイツが、爆撃して、ぼろぼろに壊したのを、レンガを一個一個こう、積んで。すごいですよあれ。

観光というんじゃなくて、その、ことばなんかも含めて、民族の誇りというやつですよ。自分のじいちゃんやばあちゃんが住んどったまちを、もう一回復元しよう。ことばは、同じことばを残そうというのと、じつは同じなんです。ほからドイツのドレスデンの旧市街。ドレスデンの聖母教会ね。あれも復元したけど、実測図の図面はないんですよ。

だから名古屋城は世界でただひとつの、寸分たがわぬ復元ができる、巨大な木造建造物ということになりますよ。

➤ 名古屋ことばの復権

ほう、だから、ことばのことだったら言っとかなかんのは、要はね、河村の名古屋ことばはきたにゃあとかそういうことを言う人間のなかには、心の冷たさがあるんですよ。差別意識が。だから俺はよう言うんだけど、津軽のおばあちゃんに対してな、「あんたたちのことばはきたにゃあ」とかね、まあ今は言わんですよ。反対になったから。最もきれいなことばになった。昔はズーズー弁でどうかね、昔はそういうのを苦にして子どもたちが、東北から集団就職で苦しんだという話もあるがね。ほうでしょう。そうやって自分が優越しとるような、たまたま東京に住んでですね、当たり前やあに喋つとることばを、なんか優秀であるかのように。そういうのは、自分の心のなかにある冷たい差別意識だということを持たないかん。それはいかんですよ、言って。

それとは別に名古屋のなかの人からそういう声があるのは、それは自分らがまあ、なんちゅうのか、もともと、うまいこと消毒都市になってまったもんで、ほんだで卑下した気持ちが、そういうふうに乱反射するんでしょう。ほうだと思えますよ。名古屋らしい。

だからもっと、他人に対してあったかくなれ、ちゅうこと。そりゃ他人、他人というか他の人のね、人生を大事にしろと。じいちゃんばあちゃんの、そのずーっと歴史に裏打ちされた、人間の生き様を大事にきなさいと。そういうことなんですよ。残念ながら世界連邦はできません。共産主義も失敗した。全部画一的に運営するというのは、一種の、マルクスのころから、理想ではあったけど、やっぱりそれはそれだけ修正資本主義がうまくいったというのものもあるんだけど、まあそういうこったな。冷たい文化だけを言われとるね。サッチャーが言っとった。社会主義というのは嫉妬の文化で、人の成功を妬む人たち、ジェラシーが強い人たちがよく共産主義的になる、社会主義的になると。サッチャーが言っとったんですよ。だでみんな、あの、どうしても、画一にしようとするんですよ。

アメリカは立派だがや。トランプは大金持ちだけど。自分でやったもんでええですわなあ。税金で、人の金で、親から継いで、税金でどーのこーのやっちゃじゃねえもん。まあ親もちょうど金持ちらしいけどよお、知らんけど。

アメリカにだって、そりゃものすごいあるだろう、地域のことばっていうのは。なんかそうらしいぞ。議員なんかでその地域のことばをしゃべらんと通らんぐらいなもんだと言っていましたよ、あれ。わざと。それほどまでに地域主義って、実はアメリカ強いんだ。ヒラリーもニューヨークか知らんけど通つとるで、ぽつと出で通るようなもんはないって言うね、選挙で。

日本だと、関係ないじゃないですか、何党かなんて。ぜんぜん。俺なんか土着民だけど、まああの、ぽつと出てきて、関係ないけど通っちゃうことあるがね。ああいうようなことはアメリカではないって、言っとった人がいる。最低1年でもその地域のことばを勉強して、やっぱり自分のホームタウンを、愛しとるよと。ほだでトランプは、なんだあれ、サンキューサンキュー、サンキューベリマッチ、アイラブユーと。アイラブユーがええよな(笑)。

➤ パリ行きやフランス語、名古屋行ったら名古屋語

そりゃまったく通じん場合は英語で喋ったりしますけど(笑)。通じるでええがね(笑)。ほだろう、ハワユーは通じるけど、べつに、こんにちには言って。やつかめだ言っても。まああんまり通じんときはやつかめって言わんけどね。ほのまあ、通じりゃ、その、そういうもんですよ。わざわざ変える必要はぜんぜんにゃあ。よう言つとるがね、ニューヨーク行きやあ何語喋つとるんだって、英語喋つとる。パリ行きやフランス語だがね。名古屋行ったら名古屋語。そんだけのことだがね。そういうもんだと。

江戸時代は、藩というのがある。ある意味超分権社会だったわけだ。なににな藩ということ。あのときにまた260年平和が続いたじゃにゃあすか。それがねえ。ほんだで、またことばもいろいろ多様性がある時代のほうが、長く続くと。

➤ 名古屋ことばが共通語に？

まあ「名古屋ことば」ゆうとるけど、「名古屋語」でもええわね、短い(笑)。さらに進んだらそうなるかもわからんな。「名古屋語」になったら、まあ、ええねえ、それ。名古屋がもし独立して名古屋国になったとすると、おんなじ税金で3倍の公共サービスできますよ、今だったら。7割上納しとるわけだから。それ自分とこ使えばいいんですから。3倍よ。まあただし、軍隊持たにゃいかんけどな。まあ自衛隊でもええけど、それはもう守山にあるもんで。ワシントンに名古屋大使館つくらにゃいかん(笑)。名古屋なんかものすごい独立するのにええですよ。国語は名古屋語で。

だからなあ、せめて大阪ぐらいまでのローカリズムは出したいわね。大阪人ってその点面白いわな。

ほれはほんだけの、やっぱりなにわのほう为上だったわけね。江戸より。だからそんだけのプライドを持っとる。そのまえは京都が中心だったでね。名古屋はせっかく滅ぼしたんだけど、家康もいかなわなあ。名古屋に幕府つくらず江戸に行っちまったもんで。つくってくれてたら、名古屋ことばが共通語になっとったでしょうねえ。

➤ ことばは自分のアイデンティティ

うーん、まあねえ、高校時代も喋っとったと言うぞ、高校の連れが。けっこう。旭丘時代。すぐそばだもんでね。喋っとったのはずっとですわねえ。まあ名古屋ことばで、っちゅうのは、はんてやあ(反対)にだから、選挙に出て、まあ名古屋のことばがきたにやあとか言われたもんで、ほれから、ちよっと待てと。そんで、反発して勉強を深めたんだわ。それまでは、あんまり、そうだね、意識しとらんかったかも。

まあだから言う人からすると、その一、うちもまあ小さいしょうべやあ(商売)やっとなでね、そのころはそういう人とばかり付き合っとなで、選挙出たりすると、政治をやる者はなんかこの、こう、もうちよっと上品にしとれというようなね。そういう一種の間違った見方ってあるじやにやあすか。そういうところへ入ったんですわ。それからよう言われるようになったもんで。で、それが、猛反発を起こした。たわけ言うて。

やっぱり400年名古屋住んどるいうので。ひとつの自分のアイデンティティがありますわね。ほんで先祖の果たせなんだですね、まあほんで総理を狙おうゆうふうになったわけだけど(笑)。まあこういうふうになってまったけどよお、まあおもしろにやあけどまあ。やっぱり尾張藩は將軍家を出せなかったと。

ほんでいろいろ、今わーわ一言ってきたことを、理論補強したわけ。ほんでNHKが、ほんとに冒頭に言ったように、衆議院。昔で言うと、通信委員会ですわ。衆議院通信委員会と。そこで、当時の会長に質問してますわ。地方の時代だと、あんた、言うんならな。「なんとか弁」いう表記を改めろいうて。ありがてやあことに改めたんですよ、それ。河村さんも酒飲んどるだけじやにやあよ、言って(笑)。ほんとそれからですわ。だで、あの大河ドラマ見るたびごとに、まあわたしもちいとは世の中に貢献できたなど。「なんとかことば」ってねえ。京ことば、大阪ことばってねえ。それまでは「弁」だった。

懐かしいなあ。あんたらの時代だで立派になってもらわなかん。

➤ 浅田真央が喋るとええなあ

ああ、浅田真央が名古屋ことば喋るとええなあ(笑)。「それは。今日はどえりやあうみやあこといったわ」と。そしたら、またどえらい人気出るぞ(笑)。NHKの、共同インタビューで、なあ。「今日はトリプルアクセルどえりやあうみやあこと滑れたわー」と。それ言ったらなかななあ、今度会ったら。

まあ、それと、あれは抗議したことあるぞ、いっぺん。NHKに、何回か前的大河ドラマで、三英傑が、名古屋ことばをひとりも喋らんやつがおったで、あれは抗議したったわ(笑)。なにやっとな言って。ちゃんとこれ、会長宛てに抗議した。どーのこーの言っとなで(笑)。ほんときはどうしようもなかったけど、今あれ秀吉かなんか喋っとなじやねえの。真田丸。まあ秀吉は死んだか、ほんだで。死んどるもんな。まあ特に信長は喋ってもらわなかんわな、ぜってえ。ほんなもん。ほれは抗議したことありますね、いかん言って。そのとき、他のやつだったら喋らせとるがね言って。坂本龍馬なら、高知のことばとか。なんで名古屋喋らせん言って。ほだろ。ありやいかな。あれは。だでNHKの受信料拒絶できるようにしてもらわなかん(笑)。地域の蔑視だ、言ってよお。とんでもにやあ。

➤ 当たりみやあに喋ったりやええがね

(2009年の名古屋ことばに関する市政アンケートは) たまたまだなあ、これ(笑)。うーん、そうか、そのときにいっぺんやっとするのかね。名古屋ことばに対するアンケート。まあいっぺんやってもええことはええけど。まあわしはあんまりそういうのは、その、差別意識を持たんほうだもんで、そんなもん当たりみやあに喋ったりやええがねというほうだでなあ。わざわざ調べたり、そういう意識が、あんまり、ないほうだわな。

まあそりゃ政治ですから、嫌いな人もおるもんで、嫌いな人のひとつの理屈で、河村さんの名古屋のことばはきたにやあとやっとする人が多い。ということは言えます。それはわかっとする。そんなもん、何を言っとするすかと。ニューヨーク言つてよお、英語喋るなど言つてみよ(笑)。それと一緒に。

名古屋ことばの中でも、いろいろ違いがあつて、上町下町もだし、世代によつても違うけど、まあ、そういうのはまあ、あんまりなあ。若干混然としてきたなあ、昔みたいに身分社会になつたらんもんで。だからいいんじゃないすか。バラバラで。まあ若干違うけどもね、喋ると。若干違うけど。まあ難しいねえ、あんまり意識しとらんけどな。それはね。あんまりそういうふうで言わんがね、わしは。ふつうの、喋り方んなかで、強調しとるわけで(笑)。当たりみやあのように喋ると。ほれはなかなか珍しいんだわ。

➤ どえりやあうみやあを、共通語に

まあ、「どえりやあうみやあ(とてもおいしい)」ぐらいは、はよ共通語にせないかんなあ。国語の教科書の1ページ目に出てくるように(笑)。文部省検定。「どえりやあうみやあを正しく発音せよ」。

名古屋じゅうの入学試験にぐらい出したれ一言っとするんだ(笑)。学校だとわーわー言われるかわからんけど、市役所ぐりやあええぞ一言うんだわ。なあ。公務員試験。発音しろ言うて、「どえりやあうみやあ」。

最近のおもしれえのは、孫に、「てーのひらをてーやあよう(太陽)に一♪」歌わんと中学校入れんぞ言うて(笑)。おっかしーな(笑)。孫の、幼稚園のうちか。小学校に。そんなことおじいちゃん、「てーやあようにー」なんて言つたらん。とろいなーいうて。孫娘に言つとったけど。

まあ、孫も、あんまり名古屋ことば喋らんですねこれが。嫁さんと息子が、俺の時代があるでなあ。女で、男ことばみたいに喋るで迫力あるわ。「何言つとんだおまえはー！」と(笑)。流行つとんだわ、学校で、女が男ことば喋るのが。びっくり(笑)。「ガタガタ言うんじゃねえー！」(笑)。それは姉ちゃんだけだ。3人の。

「どえりやあうみやあ」はなんとか覚えさしたんだけど(笑)。「おいしい」つて言つたらかんぞ、「うみやあ」つて言つて。そんなんだと小学校、上の子は中学校入れんぞ言つて。そんなこと言う人おらんつて(笑)。「どえりやあうみやあ」はまあそろそろええんじゃねえか、名古屋めしとか言つとるから。なあ。「どえりやあ」はだいぶ通じんじやにやあの、今。「どえりやあ」は。あんたらも言えせんか、わきやあ(若い)娘も。「どえりやあ」つて(笑)。「どえりやあうみやあがや」言つて。「うみやあがね」でもええで。

➤ ほんとのことは、自分のことばで

(名古屋ことばを使うことにポジティブに言ってくれる人は) どえらい多いっすよ。ほらやっぱ、年寄りなんかが。やっぱね、懐かしいもんで。河村さん喋つとるとええわな一言つて。ほんとにまあ、フレンドリーだってね。フレンドリーなりますよ。

そうすつと、ことば、もう1個あつたのが、やっぱりねえ、政治の場合にみんな嘘こくんだわ、政

治ってというのは。ようそれで、できもんことをやる言ってみたり、ああいうね。嘘に包まれた政治の世の中みたいなのがあるんですよ、経済と違って、自分のポジションって守られちゃうから。選挙があるいうけど、そんな選挙、日本のやりかただったら普通の人出れーへんもん。トランプみたいなん出てこれんですよ。

そこで、ほんとのことを言おうと思うと、やっぱその生まれ育った、自分の環境のなかである、ことばのニュアンスが。ということもありますよ。ほんとの。わしのええところは嘘をつかんというところ。ほう、ナチュラル。アメリカ流ですよこれは。アメリカ人の、俺ぎゃーじん(外人)大好きだけど、みんな俺らみたいなの好きですよ、だいたい。まあ仕事やっとなると、領事館なんかでよう会うけど、で、よう公式の席でも歌うたったりなんかするけど、わけのわからん英語喋ってよお(笑)。歌うたったりすると、ぎゃーじんってどえりゃあ喜ぶんですわ。日本人は失礼だとか言うけど、何を言っとうるかいって(笑)。じゃあ、ぎゃーじんさんに聞いてみよと。ほんなもんですけど。

だからそういう、まあ、僕らの場合はほんとに親が名古屋のことばを喋るとるわね、実際は。だから小さいうちの、そのことばの生活そのもののことで同じようなニュアンスのことを伝えようと思うと、同じことばで言おうとする。ゆうこともあると思いますね。うん。

3.2.2. 聞き書きの考察と言語政策の視点からの分析

ここからは、言語政策の視点から、河村たかし氏へのインタビュー結果の考察を述べる。第一に彼は、約1時間半にも及ぶインタビューの中で、時折敬語をまじえながらも、一貫して「名古屋ことば」を使い続けている。一人称も、「ぼく」「わたし」「俺」を使用する場合もあるが、最も使用頻度が多いのは名古屋ことばである「わし」である。インタビュー全体を通して名古屋ことばの発音もなめらかで違和感はなく、「名古屋ことばを話すことに非常に慣れている」と感じられた。

また、大きな論点である「河村たかし氏はなぜ公の場においても名古屋ことばを使用するのか」という問いについては、自身がそのように考えに至った経緯を、政界に入ったときにことばづかいを指摘され、それに反発したことからだと述べている。

名古屋ことばプロジェクト概要第5章で述べた2009年の名古屋市の市政調査については、河村たかし氏が名古屋市長に就任したのと同じ年に行われているが自身が指示したものではないとし、それについて「そのときにいっぺんやっとうるのかね。名古屋ことばに対するアンケート。まあいっぺんやってもええことはええけど。まあわしはあんまりそういうのは、その、差別意識を持たんほうだもんで、そんなもん当たりみゃあに喋ったりやええがねというほうだでなあ。わざわざ調べたり、そういう意識が、あんまり、ないほうだわな」と述べている。また、名古屋ことばの中にも世代や地域によって差異や分類があることについては、「名古屋ことばの中でも、いろいろ違いがあって、上町下町もだし、世代によっても違うけど、まあ、そういうのはまあ、あんまりなあ。若干混然としてきたなあ、昔みたいに身分社会になつたらんもんで。だからいいんじゃないすか。バラバラで」とコメントした。つまり彼は、名古屋ことばに関するアンケート調査を行ってデータを取ったり、ことばを分類して名古屋ことばの文法をはっきりさせたりというような、狭義での「言語計画」には消極的であるともいえる。

しかし、名古屋弁の「弁」と「標準語」ということばは地域のことばを「標準語」の下位言語とする差別的な用語だとし、一貫して「名古屋ことば」「共通語」ということばを用いたり、「もそもことばに、きれいな、きたにやあなんてあるのかと」と、名古屋ことばがよく「きたない」と形容されることについて批判したりしている。そして、冗談交じりにはあるが、名古屋が独立した暁には名古屋ことばを「名古屋語」にしようと述べ、「まあ、『どえりゃあうみゃあ』ぐらいは、はよ共通語にせないかんなあ。国語の教科書の1ページ目に出てくるように(笑)。文部省検定。『どえりゃあうみゃあを正しく発音せよ』。名古屋じゅうの入学試験にぐらい出したれ一言とるんだ(笑)。学校だとわーわー言われるかわからんけど、市役所ぐりゃあええぞ一言うんだわ。なあ。公務員試験。発音しろ言

うて、『どえりゃあうみやあ』と、名古屋ことばを教科書に載せる、また公務員試験に出題させるといいなあという理想を述べている。これらは、名古屋ことばの「威信」、つまり言語としての価値を高めようとしている威信計画であるといえるだろう。

また、一通り書きあがった聞き書き原稿を河村たかし氏に郵送し、チェックを依頼した際に本文中にいくつかの赤入れがされていたが、たとえば「ゆうことは同じことばでねえと、わからん、むちゃくちゃになっちゃうじゃねえすか」という文章では、2ヶ所の「ねえ」を「にゃあ」と訂正するように赤入れされていた。これは彼が名古屋ことばに対する規範意識を持っているという証明であり、つまりこれはコーパス計画のひとつである。

河村家は代々名古屋に住んでいた家柄であることも関係しており、先祖代々受け継がれてきたことばを自らも用いたいと思う気持ちや、地域のことばを守ることによってその地域の地域性や自らのアイデンティティを確立するという目的から、河村たかし氏は名古屋ことばを使用している。その使用は一貫して違和感がなく、彼が普段から名古屋ことばを話し慣れていることがわかった。そして、名古屋ことばに関するアンケート調査を行ったり、名古屋ことばの枠組みをはっきり定義づけたりといった狭義での言語政策には消極的だが、原稿の赤入れの段階で彼に名古屋ことばの規範意識があることが明らかになり（コーパス計画）、さらに彼は名古屋ことばの言語としての価値を高めようとしている、つまり威信計画に高い意欲があることがわかった。

4. 広報なごやからみる市長の言語活動

本章では、名古屋市の広報誌「広報なごや」に毎月掲載されている河村たかし氏のコラムを取り上げ、彼の「書きことば」について考察する。

「広報なごや」とは、名古屋市が毎月市民らに向けて発行・配布している市の広報であり、その表紙（1面・各区版共通）には、毎月7市長自身のことばで綴られたコラムが掲載されている。

4.1. 河村たかし氏のコラム

河村たかし氏は2009年4月26日に名古屋市長選に当選し、その翌月から現在まで、2009年6月号、2011年1月号、同年2月号、2013年4月号の4回を除いて毎月「広報なごや」の1面に自身のコラムを設けている。彼の名古屋市長就任から現在⁸までの「広報なごや」の1面を表にまとめたものが以下である（表2）。

表中の「年度」「月号」は広報なごやの発行・配布された時期、「タイトル」は河村たかし氏のコラムにつけられたタイトル、「内容」はコラムの内容を筆者が大まかに分類したものである。また、「題」「内」「外」とはそれぞれ、「タイトル中」「文中のかぎかつこ内（直接話法）」「文中のかぎかつこ外（間接話法）」にて名古屋ことばが使用されているか否かを、○と×で示す。それぞれの文章中に1度でも名古屋ことばの語彙が使用されている場合は○、1度も使用されていない場合は×で示している。

この表からまず分かることは、コラムで名古屋ことばが「書かれる」ことが明らかに年月とともに多くなってきているということである。特に2012年あたりから名古屋ことばの使用が増えだした。当初は名古屋ことばが、文章のカギカッコ内で登場人物の話し言葉としてのみ使用されることが多かったが、だんだんと地の文でも使われるようになってきている。それらの要因のひとつとして、2012年5月号あたりから、コラムの文末を名古屋ことばで締める、という書き方が確立されたということ

⁷ 不定期でコラムの掲載がない月もある。

⁸ 2016年11月。

が挙げられる。例えば、「船で行こみゃあ。(2012年5月号)」「自慢してちょうよ!(同年8月号)」「早うやろみゃあ!(2013年6月号)」「ええ話だったがね。(2014年6月号)」などである。

表2 広報なごやにおける市長のコラム

年	月	タイトル	内容	題	内	外
2009年	5月	公僕（パブリックサーバント）の政治作ろう。 歴史に残る街ナゴヤ	挨拶・政策	×	○	×
	6月	(掲載なし)				
	7月	曲がり角	名所（堀川など）	×	○	×
	8月	初代金シャチ夫婦の御要望	歴史	×	○	×
	9月	覚王山名月と尾張藩	名所（覚王山）	×	○	×
	10月	旧尾張藩裏木曾 加子母村 古文書より	歴史	×	○	○
	11月	渋柿	名所（徳川園）	×	○	×
	12月	黄金の鯨となごらっチョ	時事（開府400年）	○	○	×
2010年	1月	住んでちょうよナゴヤ 日本初市民税 10%減税	歴史・政策	○	○	×
	2月	どえりゃあおもしれえ動物園になるげな。だぎゃあウオー	名所（東山動物園）	○	○	○
	3月	ナゴヤの市民が拓くのじゃあ!!	歴史（桶狭間）・政策	○	○	×
	4月	すまんのう、秀吉殿	歴史	○	○	×
	5月	おかげ様、市長就任1年	挨拶・名所（笠寺一里塚の榎）	×	○	×
	6月	一石三鳥 名古屋港・四日市港	名所（名古屋港）	×	○	×
	7月	こんにやくの方が、まっと好いとるぜえも	名所（堀川）	○	○	×
	8月	「広く空を見あげてください。流れ星があらこちらに光って見えます」	名所（名古屋科学館）	×	○	×
	9月	武士（庶民）の時代を創ろみゃあか	歴史・政策	○	○	○
	10月	名古屋に海の風が吹きわたる	時事（COP10）	×	○	○
	11月	400年、ワシを忘れずに（白鳥貯木場へ）よう来てちょうだやあ	名所（白鳥庭園）	○	○	○
	12月	「じいちゃん、電車のおもちゃ買って!」	名所（向野跨線橋）	×	○	×
2011年	1月	(掲載なし)				
	2月	(掲載なし)				
	3月	名古屋名物、“民主主義”。“手羽先”だけじゃにゃあよ。	挨拶・政策	○	×	×
	4月	人生のカーブ	名所（リニア・鉄道館）	×	○	○
	5月	応援します!!東北の皆さま! 名古屋市奮闘中!	震災	×	×	×
	6月	「まっとまっと支援を頼むぜえも。」	震災	○	○	×
	7月	「エレベーターと同じスピードで駆け上がったんだワ。」	名所（テレビ塔）	○	○	×
	8月	私もまだ元気だよ。	名所（東山植物園）	○	○	×
	9月	リッパになってちょうよ!	教育	○	×	○
	10月	「祭りはぜったやあ、元気がええがや」	歴史	○	○	○
	11月	一石三鳥 つるみゃあ物語	名所（鶴舞公園）	○	○	×
	12月	庶民が喜ぶ世界のナゴヤを作ってってちょうよ!	名所（市役所本庁舎）	○	○	×
2012年	1月	民の籠はにぎわいにけり	歴史・政策	×	×	×
	2月	名古屋城実測図と本物復元	名所（名古屋城）	×	○	○
	3月	「大好きな男の子の名前、書いたよ」	震災	×	○	×
	4月	花より団子だったがね	名所（山崎川）・政策	○	○	○
	5月	昔の納屋橋のように人がぎょうさん	名所（納屋橋）	○	○	○

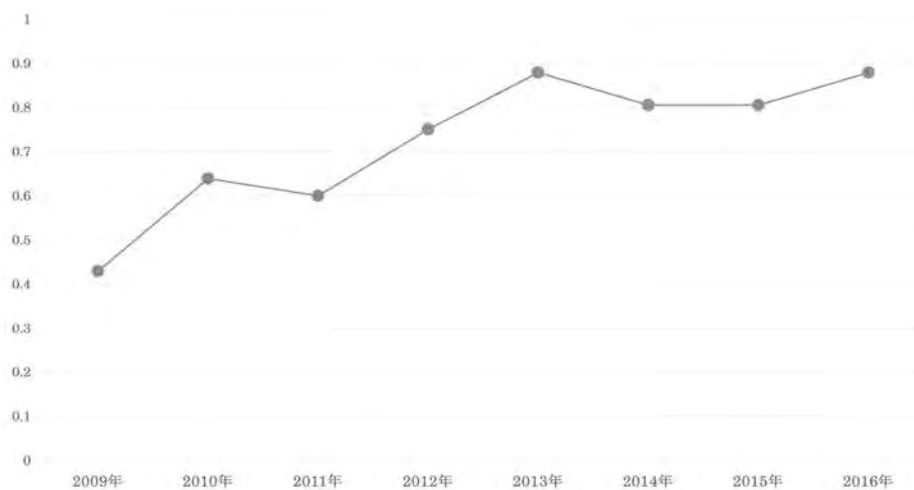
	6月	「こんなええ建物は、よそにはにやあよ」	名所（市政資料館）	○	○	×
	7月	ど〜んとまっすぐで、キラキラ輝いとる	名所（中川運河）	○	○	×
	8月	「どえらけにやあ おもしろえ ナゴヤ」自慢してちょうよ!	名所（名古屋駅）・政策	○	○	○
	9月	うれしなつてまってボーとしてまったがね	時事（MRJ）	○	○	×
	10月	「ほんなら、いっぺん思い出を探しに行こみやあか」	名所（文化のみち二葉館）	○	○	○
	11月	「小さやあけど、どえりやあうまかったがね」	名所（桜通のイチヨウ並木）	○	○	○
	12月	「今のどこかは分からんなあ」	名所（有松）	○	○	○
2013年	1月	「見どころは屋根の重なりだがね」	時事（名古屋城本丸御殿復元）	○	○	×
	2月	元祖ナゴヤ嬢ミヤズヒメ	名所（守山区上志段味）	○	○	○
	3月	感謝の一言です	震災	×	○	×
	4月	（掲載なし）				
	5月	「今年 65 かね。まんだ若きやあがね」	政策	○	○	○
	6月	江戸から昭和の歴史がぎっしり詰まっとるよ	名所（四間道）	○	○	○
	7月	「名古屋城だけではいかん、秀吉の中村も平等に扱ってちょうヨ!」	名所（中村公園）	○	○	○
	8月	日本最大・20ヘクタール、100メートル道路が都心ど真ん中公園へ大変身。文化・エンターテインメント聖地、ナゴヤへ	名所（久屋大通）	○	○	○
	9月	親に抱かれとる子とすがとる子の姿で、思い出が…	歴史（伊勢湾台風）	○	○	○
	10月	子どもたちの願をかなえた名古屋のゾウだよマカニーとエルド	時事（東山動物園のゾウ舎）	×	○	○
	11月	名物、鰻の蒲焼。やきたて、食ってちょうよ。	名所（熱田）	○	○	○
	12月	ナゴヤは 30 分で郊外行けるがね。	時事（名古屋高速全線開通）	○	○	○
2014年	1月	水源地のこと思い出してヨ。	時事（名古屋の水道 100 周年）	○	○	○
	2月	名古屋の宝 消防団	その他（消防）	×	○	○
	3月	末永くナゴヤの皆さんと	震災	×	×	○
	4月	堤防にのぼって公園全体を見てちょうヨ	名所（庄内緑地）	○	○	○
	5月	250年、ようやくわかってちょうたかね	歴史	○	○	○
	6月	かきあげ玉子きしめん 550 円（増税前）	時事（リニア開業）	×	○	○
	7月	まわりになんか感じて、応援しあおみやあ。	時事（ESD ユネスコ世界会議）	○	○	○
	8月	テレビ塔はハグの聖地だがね	名所（テレビ塔）	○	○	○
	9月	あとはみんなで わいわいがやがや…	その他（敬老の日）	○	○	○
	10月	コアラ、アジアゾウ、ゴリラの赤ちゃんなど	時事（コアラ来園 30 周年）	×	○	○
	11月	コンクリートでの再建はいかん	時事（名古屋城天守閣復元）	○	○	○
	12月	日本初、なごや子ども応援委員会 ぜひ利用してください。	教育・政策	×	×	○
2015年	1月	みんなが楽しめるようになさるといいと思いますよ	時事（市役所本庁舎国の重要文化財指定）	×	○	○
	2月	祝セントレア開港 10 周年 若い女性も航空管制官にぜひチャレンジして	時事（セントレア開港 10 周年）	×	○	○
	3月	ナゴヤの皆さまには感謝の気持ちでいっぱいです	震災	×	○	×

	4月	「医療日本一・ナゴヤ」いよいよ充実だがね	時事(東部医療センター救急・外来棟開棟)	○	○	○
	5月	友達がぎょうさんできるぞ	その他(レクパレー)	○	○	○
	6月	満点の星と うみやあ水	名所(おんたけ休暇村)	○	○	○
	7月	「なごやめし」世界に広めてくるがね	時事(ミラノ万博)	○	○	○
	8月	どえりゃあおもしろいナゴヤになりますように!	時事(ナゴヤ ポップアップ・アーティスト)	○	○	○
	9月	ナゴヤは「日本断然ナンバー1!」走っとるがね	その他・政策(予防接種)	○	×	○
	10月	名古屋コーチン 国産実用品種第1号 日本唯一 純粋種だよ	その他(名古屋コーチン)	×	○	○
	11月	ユー キャン カム ヒア リラックス	名所(白鳥庭園)	×	○	○
	12月	南極。ロマンチックだがね	名所(南極観測船ふじ)	○	○	○
2016年	1月	とりあえず、一步踏み出すところからね	その他(鯉城学園)	○	○	○
	2月	コーヒーはタダきゃあ?	その他(認知症カフェ)	○	○	○
	3月	ちょっと歌ってみやあ	震災	○	×	○
	4月	ちゃんと止まって。光るものを身に着けて。	その他(交通安全)	○	○	○
	5月	どえりゃあ本物、見るチャンスだよ	時事(日本陸上)	○	○	○
	6月	有松4つの宝。引き継いでいこみやあ!!	名所(有松)	○	○	○
	7月	子どもの楽園。入場料タダ。	名所(とだがわこどもランド)	×	○	○
	8月	ナゴヤの女性からのあったきゃあメッセージ!	その他(女性の活躍推進)	○	×	○
	9月	ワンちゃん 猫ちゃん。だやあじに(大事に)してちょうよ。	その他(動物愛護)	○	○	○
	10月	ナゴヤの高校生。みんなの時代が来るでね。	その他(高校)	○	×	○
	11月	日本1子どもを応援する街ナゴヤ 作っていこみやあ!	その他(児童虐待防止)	○	○	○

筆者作成

就任直後から現在にかけて、だんだんと名古屋ことばの使用が増加していることをわかりやすくするために、以下にグラフを示した(表3)。コラムのタイトル、文中のかぎかつこ内、文中のかぎかつこ外にそれぞれ1度でも名古屋ことばが使用されていれば1ポイントとし、ひと月のコラムの最大ポイント数は3である。市長のコラム自体が掲載されていない月や、名古屋市長に就任した年である2009年の4月以前、2016年12月以降を除き、「それぞれの年の実際のポイント数÷それぞれの年の最大ポイント数」、つまりその年のコラムでの名古屋ことばの使用された割合を算出した。たとえば2009年は河村たかし氏のコラムの掲載がない1~4月と6月を除いて、最大ポイント数が3×7ヶ月=21であり、実際のポイント数は9であったため、9÷21の約0.43である。

表3 広報なごや・市長コラム内での名古屋ことば使用頻度推移



筆者作成

この表からもわかるように、河村たかし氏は名古屋市長就任当初から一貫してコラムの中で名古屋ことばを使用し続けているが、その頻度は増加傾向であり、コラム内での名古屋ことばの使われ方は拡大している。

4.2. コラムの考察と言語政策の視点からの分析

ここからは、前述のコラムのうちいくつかを取り上げて考察を進める。

コラム1(2009年5月号)

市長就任にあたって

名古屋市長 河村たかし

公僕(パブリックサーバント)の政治作ろう。歴史に残る街ナゴヤ

「河村さん、期待しとるでしょう」

「がんばってちょうよ」

「政治を変えてね」

自転車での二週間の長い選挙戦。

多くの皆様に励まされました。

「税金を払うほうが苦勞をして、税金で食っているほうが楽をしている。」

何度も街頭演説で話してきました。公務員の皆さんの努力には敬意を払いますが、やはり社会を支えているのは汗水たらしておカネを稼ぎ、税金を払っている民間の皆様です。私は市民税10%減税を突破口にマニフェストで約束した3つの日本一を実現します。

日本一税金の安い街ナゴヤ。

人と会社がナゴヤに集まってきます。

日本一福祉、衣料、住民自治が行き渡った街ナゴヤ。

日本一早く経済復興する街ナゴヤ。

貴族社会を乗り越え、新しい時代を拓いた織田信長を生んだ「故郷・ナゴヤ」。

東京は政治、大阪は商都、ナゴヤは自立する市民の街。

役所はパブリックサーバント(公僕)に徹しましょう。私は選挙での皆様との公約を貫きます。

そして名古屋市民皆様のお力で日本一おもしろい、自立した市民の街・ナゴヤを全国に発信していきましょう。

市民の皆様、市議員や役所の皆様のご協力を心よりお願い申し上げます。

コラム1は、河村氏が名古屋市長に就任後初めての広報なごやに掲載された、市長のコラムの全文である。まず冒頭、名古屋ことばの会話文によってコラムがはじまっている。選挙中、彼の支持者に言われたことばだろう。それまであまり書かれてこなかったような名古屋ことばがいきなり広報の1面で、市長のコラムの冒頭に使用されることはきわめてインパクトが大きく、はじめて新しい市長である河村たかし氏について知るとても、「河村たかし＝名古屋ことば」というイメージづけがなされただろう。しかし、その後も名古屋ことばでの言い換えが可能なことばは多くあるが、結局名古屋ことばが使用されているのは冒頭の3行の会話文のみである。この時点ではまだ、タイトルや地の文において名古屋ことばを使用することに抵抗感があつたのではないだろうか。

コラム 2 (2010 年 2 月号)

どえりゃあおもしれえ動物園になるげな。だぎゃあウオー
名古屋市長 河村たかし

ワシは今年で 18 才になる名古屋の東山動物園における日本で最も長生きのメストラ。名前はルビリンだがね。ようけの人が檻（おり）の外からワシをじっと見とらっせる。名古屋に来てから 14 年にもなるもので、ぎょうさんのじいさん、ばあさん、子どもたちがワシを見にきてくださった。

トラのシマシマはどえりゃあ格好ええでしょう。アムールトラはトラのなかでも一番大きいで、迫力満点でしょう。ワシは年くってまったけど元気だぜえも。

日本にトラが最初に来たのは 890 年、平安時代の宇多天皇の時と言われとって、実はどえりゃあ昔からトラは日本に来とるんだわ。東山動物園には 1937 年の開園当時からトラがおって、ワシが東山動物園来たのは、1995 年。今では日本にいるアムールトラの約 1 割がワシの子ども、約 2 割がワシの子孫になるんだわ。ワシは 1992 年 8 月 8 日デンマークのオルボー動物園生まれ。8 月 8 日の「まるはちの日」生まれのワシは東山動物園に来るにはピッタリだがね。

ところでトラと言え、*「苛政（かせい）は虎よりも猛（たけ）し」*という孔子様のことばを知ってりゃあすか。ある村の老婆が、家族をトラに襲われて亡くしたけどその村から離れようとしな。理由をたずねると、老婆は「この村は税金が安い。税金の高きゃあ政治はトラよりおそぎゃあのです」と答えたげな。名古屋の政治はワシよりぜんぜんおそがにゃあ。日本初市民税 10%減税。どえりゃああつたきゃあ政治だわ。トラのワシが言うんで間違いにゃあ。ワシはトラだで 1 円も戻って来んけどな。

今、計画中の新しい東山動植物園再生プランでは、まっとまっと動物とふれあいができるようになるげな。家族でワシを見に来てちょう。ビールも飲んでまえるようになったし、おとつあんも来てちょうよ。どえりゃあおもしれえ動物園になるげな。だぎゃあウオー（トラのおたけび）

河村たかし氏のコラムの中で、名古屋ことばを話すのは人間だけではない。コラム 2 では、名古屋市東山動物園のトラ、ルビリンに一貫して度合の強い名古屋ことばを話させている。ルビリンがメスであるのに一人称が「ワシ」であるのも、名古屋ことばの「ワシ」を使用していると考えられる。

コラム3（2011年4月号）

名古屋市長から緊急メッセージ

3月11日の東北地方太平洋沖地震により亡くなられた方々に哀悼の意を表し、被災された方々に心からお見舞いを申し上げます。被災地の日も早い復興のために、できる限り必要な応援協力をしてまいります。

また、本市におきましても、この地震災害を十分検証し、あらためて対策の再点検に取り組みたいと思います。

名古屋市長 河村たかし

人生のカーブ

名古屋市長 河村たかし

「ブォ～、ブォ～」

「ラジオで徳川夢声の朗読『宮本武蔵』の合間に、300mぐりゃあ遠くの中央線蒸気機関車（SL）の汽笛が聞こえてきたんだワ。まあひゃあ50年ぐりゃあ昔の話だけど、おみやあさん。そういやオヤジ、中日（ドラゴンズ）が負けとるとラジオのスイッチ切ってまいよった。根っからの中日ファンだったでしょう」

写真のあおなみ線の終点・金城ふ頭にJR東海の博物館「リニア・鉄道館」がオープンした。高速鉄道をテーマにリニアもあるが、狭軌の蒸気機関車として世界最高速度（時速129km）を記録したC62が圧倒的な存在感でお客さんをお迎えしている。

人生のカーブをうまく回れないSL。まっすぐな人生、年寄りもがんばるとるゾ。SLをあおなみ線に走らせたい。一日約40万人が乗る新幹線の下をくぐるSLは、きっと世界の名所になるだろう。SLだけでなく、名鉄パノラマカーや小田急ロマンスカーなどなど、実際に乗れる動く鉄道の聖地ナゴヤのあおなみ線へ。楽しい夢である。

桜が咲いている荒子川公園の上を横切るあおなみ線。

荒子といえば、戦国武将・前田利家と慶次のゆかりの地。槍の名人であり加賀百万石の祖、利家。戦国無頼個性派No.1、慶次。ともに名古屋おもてなし武将隊で大人気。オールジャパンに大きくはばたこうとしている。ナゴヤあげて、応援しようだにゃあですか。

コラム3は、2011年3月11日に発生し、多大な被害があった東日本大震災の直後の号である。広報の1面、コラムの上部に市長からの緊急メッセージが掲載されている。コラム自体はおそらく地震発生より前に書きあげたものであり、コラム内では変わらず名古屋ことばが使用されているものの、緊急メッセージ内では名古屋ことばは使用されていない。

コラム 4 (2011 年 5 月号)

応援します!! 東北の皆さま! 名古屋市奮闘中!
名古屋市長 河村たかし

東日本大震災の発生から 1 カ月半が過ぎようとしています。あらためて、お亡くなりになられた方々に深く哀悼の意を表するとともに、被害にあわれた方々に心からお見舞い申し上げます。

この間、市民の皆さまからは、義援金のご協力をはじめ、温かいご支援を数多くお寄せいただき、心から感謝いたします。

本市におきましても、震災発生直後から、消防や医療、上下水などの職員を被災地に派遣し、さらに毛布や非常食などの物資の緊急支援を行ってまいりました。また、被害が著しい岩手県、宮城県および福島県に対して、現地のご要望に沿った四輪駆動車など、1 億円相当の物資をお送りするとともに、誰もが「言葉を失う」ほどの壊滅的な被害を受けた岩手県陸前高田市に多くの本市職員を派遣し、復旧・復興に向けて総合的な支援を行うこととしました。

今後も、市民の皆さまの温かいお気持ちを少しでも被災地に届けられるよう、できる限りの支援を行ってまいります。

また、今回の地震およびこれに伴う津波がこれまでの想定をはるかに上回り、その被害も甚大で広範囲に及んだことから、名古屋も多くを学ばねばなりません。本市としましても、伊勢湾台風のような悲劇が繰り返されることのないよう、今後、これらを十分検証したうえで、本市の災害対策の再点検を行ってまいります。加えて、東京電力福島第一原子力発電所の事故を踏まえ、市民の皆さまの安心・安全を守る立場から、放射性物質の影響も調査・研究し、市民の皆さまに説明する責任があると考えています。

実際の災害では、「日頃から準備している以上のことはできない」といわれています。市民の皆さまには、自宅の耐震化や家具の固定、最低限の身の回り品の準備、家族間の連絡方法の確認など、ご家庭でできることを着実に実施していただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

続いてコラム 4 は、東日本大震災発生後の次号である。この号では、コラムの内容として東日本大震災を取り上げている。この号のコラムには、名古屋ことばの使用が一切みられない。

しかし、翌年以降の 3 月号は毎年震災に関連する話題を取り上げているが、それらにおいては名古屋ことばが使用されている。河村たかし氏自身、もしくは広報の編集担当に、市長として、コラムで取り上げるテーマの内容というよりも、地震発生直後のような緊急事態においてのみ、名古屋ことばを使用することは相応しくないという認識があるということだろうか。

コラム5（2012年1月号）

かまど
民の 竈 はにぎわいにけり

名古屋市長 河村たかし

仁徳天皇は今から1,600年ほど前、人家の竈から炊煙が立ち上っていないことに気づき都合二度、「3年間課税を除する」と6年間租税を免除し、その間は俵約のために宮殿の屋根の茅さえ葺き替えなかったと、古事記・日本書紀に記述がある。その結果が、「民の竈はにぎわいにけり」であり、減税が最も基本的な政治の要諦であったと思われる。

日本中増税の嵐の中、初春に打ち出づる私たちナゴヤの挑戦が、宮の渡しの日の出のような輝かしい一歩となる。減税分の一部を市民の皆さまが寄付され、地域のきめ細かい防災、児童虐待、不登校、高齢者の孤独、地域の文化など、市民の力で、お金で、自らのまちを作っていく時代へ、市民の自由、自立の時代へ進んでいきたいものだ。

そして、今年は名古屋の下水道が供用されて、ちょうど100年。明治39年6月6日午後7時開会の名古屋市会議事録。

「財政上、時期尚早」として反対する委員に対し「名古屋ノ人ハ常ニ金ノ出ル点ニ至ルト甚ダ決断シ難イノデアル」、「吾々ノ生命ヲ救フ事ガ出来ル、…水道ヲ敷設スル価値ハアルノデアル」として、上下水道の布設を可決。そして昭和5年、堀留、熱田下水処理場で日本初の活性汚泥法による下水処理。ナゴヤの人々を縁の下で支えた下水道供用開始100周年。

ナゴヤは、創祀1,900年、草薙剣（くさなぎのつるぎ）を有する熱田神宮、熱田湊常夜灯から、まさに「初春に世界に打ち出づ」でありたい。

河村たかし氏のコラムがはじめて掲載された2009年5月号から現在（2016年11月号）まで、コラムのタイトルと文章中のいずれにもいっさい名古屋ことばが登場しなかった回は、前述の東日本大震災直後の2011年5月号と、コラム5が掲載されている2012年1月号の2回のみである。しかし、特に「名古屋ことばの使用がふさわしくない」と考えられるような内容、話題ではないため、この回で名古屋ことばが使用されなかったのは、たまたま使用しなかったというだけではないだろうか。

コラム 6 (2012 年 5 月号)

昔の納屋橋のように人がぎょうさん
名古屋市長 河村たかし

「戦前、川はきれいで、板前さんが泳いどったよ。川すじに水産物市場があつて、お客さんによく来ていたんだよ。昔の納屋橋のように、人がぎょうさんもどつてくれるようになるとええけどね。」創業 112 年。納屋橋たもとの料理屋女将、森和子さんが話してくれた。

「川をきれいにさせていただいて大変ありがたく思っております。ウチの家は明治 17 (1884) 年建造。なんとか守っております。もっと川ぶちを歩けるようにしたり、連絡船が行き交うとか、にぎわいが戻ってほしいですね。」堀川沿いの料理屋の先代、竹中廣さんの願いである。

「堀川は名古屋の母なる川。納屋橋で待ち合わせ。映画館。ダンスホール。広ぶら…納屋橋は思い出の地だよ。川の浄化、そして街の活性化。なんとかしたやあもんだね。」堀川文化探索隊代表の沢井鈴一さんは語ってくれる。

堀川下流から野菜や魚類が運ばれ、陸揚げされて一時貯蔵する「納屋」が続いていたことから、納屋町と呼ばれ、橋の名前の由来とされる。1610 年、堀川を開削した悲劇の武将福島正則の家紋「中貫十文字」が鉄製の欄干に鋳抜かれている。大正 2 (1913) 年に、橋の欄干を作ったのは中島鉄工所の中島彦作氏。負けず嫌いな中島氏は「東京や大阪の業者に仕事をとられまい」と超安値で引き受け、赤字になりながら丹念に、優美でぜいたくなつくりになった。が、店は倒産。

さまざまな人生の思い出を川面に映して、今日もゆっくりと堀川は流れていく。堀川フラワーフェスティバル期間中の土曜・日曜はピア納屋橋棧橋から乗船し、堀川・中川運河・名古屋港をひとめぐりする船旅が楽しめる。

名古屋城から熱田神宮、そして港。ほんなら缶ビールで一杯。船で行こみゃあ。

コラム 6 のように、河村たかし氏のみならず他の登場人物にも名古屋ことばを話させている回は少なくない。そして、この文末の「船で行こみゃあ」のように、この号以降、コラムの文末をひとことの名古屋ことばで締める、という定型ができあがる。それによって、コラム内で名古屋ことばが使用される頻度は必然的に増加した。はじめの頃は、かぎかつこにくられた登場人物のセリフとしてのみ使用されることの多かった名古屋ことばは、だんだんとコラムの地の文にも使用されるようになっていった。

これらのコラムから、河村たかし氏は名古屋ことばを「話す」ことのみならず、「書く」という面でも非常に積極的であるということがわかる。あることばが「書かれる」ということはまさにハウゲンによるところの成文化（第 1 章参照）である。そして、彼が名古屋ことばで書いたコラムが名古屋市広報誌として刊行、配布されることは、言語政策の実施（implementation）のひとつの形である。

また、それまで書かれることの少なかった名古屋ことばを使用して広報にコラムを載せるということは、名古屋ことばの使用範囲を拡大させる地位計画である。そして、「してちょうよ」と表記するか「してちょーよ」と表記するかを選択など、「書く」プロセスの途中で必ず言語は精練され、つまり河村たかし氏や広報の編集担当によるコーパス計画も同時に行われていると考えられる。

5. 結論

本論文では、現名古屋市長である河村たかし氏が公の場において名古屋ことばを強調して用いることに着目し、その意図と実態を「言語政策」という社会言語学的視点から明らかにすることを目的とした。

まず第1章では、「言語政策とは何か」と題して、それはコーパス計画、地位計画、威信計画、獲得計画という4つの側面をもち、およびその実施は選出、成文化、実施、精練の4つの段階に分類されることを述べた。

次に第2章では、河村たかし氏の人物像を深く理解するために、彼の経歴について述べた。彼は名古屋の小さな古紙屋に生まれ、司法試験に何度も挑戦するが不合格、知人の裏切りに遭うなどさまざまな挫折を経て、人生再挑戦のしくみを作るために政治家を志す。そして衆議院議員を経て名古屋市長に就任し、減税を大きなスローガンとして掲げ「庶民の代表」として精力的に政治活動を行っている。

第3章では、河村たかし氏に対して行った「聞き書き」という手法を用いた調査の概要と結果、考察を述べた。彼はインタビューの中で一貫して名古屋ことばを使用し続けており、その発音もなめらかで、普段から名古屋ことばを話し慣れていると感じられた。そして、彼は名古屋ことばに関するアンケート調査を行ったり、名古屋ことばの枠組みをはっきり定義づけたりといったきわめて狭義での「言語政策」には消極的な一面もあるが、原稿の赤入れの段階で「ねえ」を「にゃあ」と訂正したということは彼に名古屋ことばの規範意識があることの証明であり、コーパス計画の実践である。さらに彼は一貫して名古屋ことばの言語としての価値を高めようとしており、つまり威信計画に高い意欲があることがわかった。

第4章では、名古屋市の広報誌に毎月掲載されている市長のコラムを取り上げ、そのコラムの中で名古屋ことばを多く使用することそのものが、言語計画のプロセスにおける成文化であり実施であること、そしてコラムの中において名古屋ことばの使われ方が徐々に拡大(＝地位計画)しており、また、名古屋ことばを「書く」うえでコーパス計画も同時に行われているということを述べた。

最後に、クーパーによる最も広い意味での言語計画の定義を紹介したい。

Language planning refers to deliberate efforts to influence the behavior of others with respect to the acquisition, structure, or functional allocation of their language codes.

(Cooper, 1989, p. 45)

言語計画とは、言語の習得、言語の構造、言語の機能的配分について、他者の行動に影響を与えようとする意図的な努力のことである。(筆者訳)

河村たかし氏が自らの言語活動を通じてやろうとしていることは、自身の政治家としてのアイデンティティの確立や演出のみならず、「名古屋ことば」のさらなる普及と復権である。本稿では彼の言語活動が与える他者への影響については言及できなかったが、北森(2017)および松本(2017)の調査結果を鑑みて、少なからず人々の名古屋ことばに対する認識に影響があったことは間違いない。彼が公の場においても名古屋ことばを話し、書くことは彼の「意図的な努力」に他ならない。彼は、名古屋ことばの機能とその使用領域を拡大させるという「言語政策」のもとに、まさに名古屋ことばを計画しようとしているのだろう。

参考文献・サイト

- Cooper, Robert L. (1989) *Language planning and social change* Cambridge University Press
- Haugen, Einer (1959) "Planning in Modern Norway", in *Anthropological Linguistics*, 1/3
- Mesthrie Rajent, Swann Joan, Deumert Ana and Leap William L. (2009) *Introducing Sociolinguistics Second Edition* Edinburgh University Press
- Ricento, Thomas (2006) *An Introduction to Language Policy Theory and Method* Blackwell Publishing Ltd
- Spolsky, Bernard (2004) *Language Policy* Cambridge University Press
- 出井康博 (2011) 『首長たちの革命 河村たかし、竹原信一、橋下徹の仕掛けた“戦争”の実像』飛鳥新社
- 小田豊二 (2012) 『「聞き書き」をはじめよう』木星舎
- 河村たかし (2006) 『おい河村! おみやあ、いつになったら総理になるんだ』KK ロングセラーズ
- 河村たかし (2009) 『家族で読める family book series 014 たちまちわかる 最新時事解説 名古屋から革命を起こす!』飛鳥新社
- 河村たかし (2011) 『名古屋発どえりゃあ革命!』KK ベストセラーズ
- 北森理聖 (2017) 『現代の名古屋の大学生が持つ名古屋ことば意識』2016 年度名古屋市立大学卒業論文
- 芥子川律治 (1971) 『名古屋方言の研究』名古屋泰文堂
- 松本小奈津 (2017) 『名古屋ことばコスプレ化の可能性』2016 年度名古屋市立大学卒業論文
- ルイ・ジャン＝カルヴェ (2000) 『言語政策とは何か』白水社
- 河村たかし「気さくな 67 歳 | 減税日本代表」<http://takashi-kawamura.com/> (2016/12/15 取得)
- 広報なごや 2009 年 5 月号～2016 年 11 月号
- <http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/262-0-0-0-0-0-0-0-0-0.html> (2016/12/15 取得)

卒業論文へのコメント

今年度の佐野ゼミにおいて、卒論を「名古屋ことば」をテーマとして設定するに当たって、その中心的なテーマが、河村たかし名古屋市長が公的な場面でも使用する「名古屋ことば」をどのようにとらえるか、であった。本論文では、河村たかし氏にインタビューし、その語りを「聞き書き」の手法でまとめることと、『広報なごや』の市長コラムを分析することで、彼の「名古屋ことば」に対する意識を「言語政策」という枠組みを通して、明らかにしようとしている。

言語政策についての先行研究のまとめは、この分野の研究の分厚さに比してかなり簡略なものであり、文献引用なども不十分な点が見受けられ、それゆえに分析や結論もやや性急にすぎる面がある。また、名古屋ことばについてのまとめと河村たかし氏との結びつけ方も少々強引ではある。それでも、著名人でもある現役の市長にインタビューを依頼することそのものが大変な試みである中、実際に約束をとりつけて実施したことそれ自体に非常に意義がある。すでに本学の実習で「聞き書き」という手法に親しみ、その意義や手法、語り手とのやり取りなども熟知していることから、滞りなくインタビューを実施し、ベタ起こしから名古屋ことばを活かした編集まで、すべて独力でやり遂げたことは高く評価できる。また、単に彼の「話しことば」だけでなく、「書きことば」にも注目したことで、ほかの学生の「名古屋ことばプロジェクト」論文との関連性も明確になった。河村たかし氏に「書く」ことへの意識を直接聞けなかったことは残念であるが、実際に自分で「話しことばを書く」ことを実践したことが、河村たかし氏が名古屋ことばの規範意識を形成していったことを分析する重要な契機になったかと思われる。

「聞き書き」実習を担当した教員として、また主査として、彼女が聞き書きの手法に魅せられ、卒論に適用するまでに至ったことはとてもうれしいことであった。河村たかし氏にとっても意義のある論文になったのではないと思う。（佐野直子）

現代の名古屋の大学生が持つ名古屋ことば意識

北森理聖

本論文は、2016 年現在において、名古屋の大学生世代の若者が名古屋ことば使用に関してどのような意識を持っているのか、どのようなことばを名古屋ことばであると捉えているのか、という問いを明らかにすることを目的とするものである。

第 1 章の方言学における先行研究では、方言学で論じられる「新方言」「ネオ方言」「気づかない方言」を概観し、上記の問題意識を明らかにする手がかりとする。第 2 章の名古屋の大学生に対する調査では、名古屋・尾張出身者の多くが、名古屋ことばの使用意識を持っているという結果となった。さらに、彼らが思い浮かべる名古屋ことばのイメージは、高年層の人々が認識する「伝統的な」名古屋ことばとは相反するものであることが明らかになった。筆者は、彼らのこのような言語意識と言語使用のありかたが「新方言」「ネオ方言」「気づかない方言」にあてはめて考察できると考えるが、特に「気づかない方言」に関しては、これを体系的なものとして見る視点を重視した。以上のことを踏まえて、現代の名古屋・尾張出身の若者には自分が名古屋ことばを話していると「気づかない」者が少ない、ということが意識調査から分かった。

0. 序論

1. 方言学における先行研究
2. 意識に関する調査
3. 結論

0. 序論

名古屋ことばを使用する話者は、自身がそれを使用していると自覚しているのだろうか。また、彼らはどのようなことばを名古屋ことばであると認識していて、彼らが実際に使用する名古屋ことばとはどのような姿であるのか。本論文は、このような問いを問題意識とし、現代の名古屋の大学生が持つ名古屋ことば意識について論じる。したがって、本研究には、2016 年現在の名古屋の大学生世代から見た名古屋ことばと、現在使用される名古屋ことばの姿を浮かび上がらせることができる、という意義がある。

第 1 章では、これまで方言学で論じられてきた、「伝統的な方言」とは異なる「方言」にまつわる種々の概念について、それらを名古屋ことばにあてはめることのできるものとしてとりあげる。さらに第 2 章では、名古屋の大学生に対する意識調査によって彼らの名古屋ことばに対する「方言」意識を分析し、筆者の問題意識について考察する。

1. 方言学における先行研究

本論文は大学生という若い世代に焦点を当てているため、本章では、若い世代によって主に使用されることが特徴である、「新方言」と「ネオ方言」という「新しい方言」の概念をとりあげる。従来の方言学が研究対象としていた「方言」は、NORMs¹といわれる人々によって話される、より古い姿を保ったことばであり、しばしば「伝統的な方言」といわれるものである。しかし、筆者がここで言及する「新しい方言」はこれとは異なり、従来の「伝統的な方言」から変容、逸脱したものである。また、これらの概念に加え、1.2.では、話者の意識と深い関係のある「気づかない方言」を概観する。

1.1. 新方言・ネオ方言とは

1.1.1. 新方言の概説

「新方言」とは、井上史雄によって提唱された「方言」の概念であり、若い世代に向けて使用者が多くなりつつある非標準語形で、使用者自身も「方言」扱いしているものを指している。この定義に含まれている新方言の条件として、年齢差、場面差、文体差の3点を抜き出すことができる。1点目の年齢差は、若い世代に使用者が増えつつあること、2点目の場面差は、そのことばが使用される場面が普段の日常会話であること、3点目の文体差は、共通語ではない、ということである。

新方言の例として、井上(2003)は、主に愛知県で使用される「ケッタ」「ケッター」を紹介している。これは「自転車」を意味するこの地域特有のことばであり、井上によると、これは1970年代に若者の間に広がった言い方であると推定される。また、「とても」「大変」という意で使用される名古屋ことば「デラ」も、佐藤(2002)において新方言の一例として紹介されている。

1.1.2. ネオ方言の概説

次に、「ネオ方言」とは、1987年に真田信治が提唱したスピーチスタイル²の概念である。これは、方言と標準語の接触の過程で、各地においてそれ以前の方言にはなかった新しい形が創造され、定着しつつあるある状況を認識してネーミングされた中間的スピーチスタイルをいい、全国各地において、音、語、文、文章、そして談話のそれぞれのレベルで観察される。

ネオ方言を創造し、好んで用いる話者の主な年齢層は、若年層であるが、これは、ネオ方言が生まれる背景と関係があると考えられる。この背景の一つに、「方言」の話し手が「方言」と標準語のバイリンガルになっていることがあるが、彼らは、会話する際、それらのことばを完全に分けて使用するわけではない。彼らが習得した2つ以上の言語変種は、互いに干渉し合い、混成された結果、ネオ方言が発生するのではないかと考えられる。

1.1.3. 新方言とネオ方言の比較

ここまで、本節では新方言とネオ方言についての概説をそれぞれ示してきたが、これら2つの概念

¹ 伝統的な方言学調査の典型的なインフォーマントである、他地域に移動しない年配の方の田舎の男性(non-mobile, older rural males)の頭文字語で、そのような調査方法を皮肉っていわれた表現。自分の居住地を一度も離れたことのないより年をとった男性ほど、「純粋な方言」、すなわち、他地域の「方言」や「標準語」に汚されていない「方言」を話すと思われていた(Swann, Deumert, Lillis&Mesthrie, 2004, p. 225)。

² 他と区別されるような特徴のある話し方をいう。話者は、話し相手や会話の話題、場面などの文脈によってスタイルを選択する(*ibid.*, 2004, pp. 299-300)。

には共通点や類似点と判断できる部分が多い。まず、これらが非標準形式のことばであるという点は基本的な共通点の一つであるが、ただ標準形式から逸脱しているだけでなく、これらはともに、それまでの「伝統的な」方言とも異なっている。そして、主に使用する世代が若者であるという点でも共通している。

一方で、ネオ方言は体系であるのに対し、新方言は断片化した特定の言い回しや単語に着目したものであり、体系化されていない、という相違点もある。図1は、この違いが概念図化されたものである。

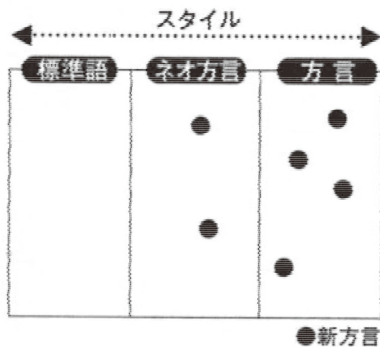


図1 新方言とネオ方言の位置付け (真田, 2004, p. 37)

さらに、ネオ方言は「標準語」の影響・干渉を受けていることを条件とするが、新方言はそれを条件としていない、という違いもある。井上がこれを新方言の条件に入れなかったことについて、「歴史的に共通語の影響があったかは判定困難で、内生的変化か、外来的変化かで事情が違う(井上, 2008, p. 63)」と述べ、「方言」の変化が「標準語」の影響・干渉を受けているかどうかに関してはあえて問題視しない姿勢をとっている。

1.2. 気づかない方言とは

筆者が本論文でテーマとする「方言」への意識について論を展開するにあたって、「気づかない」という話者の意識に焦点を当てる「気づかない方言」は、着目すべき概念である。よって、本節では名古屋ことばに含まれる「気づかない方言」について、それらを例示しながら、簡単に「気づかない方言」について説明する。

「気づかない方言」は、話者が「方言」だとは思っていない「方言」を指すものであり、「気づかれにくい方言」ともいわれる。篠崎(1996)は、これを「新しい地域差」という観点で捉え、「①現代において新しく発生した地域差」と「②現代において新しく発見された地域差」に二分した上で、後者はさらに「a. 共通語と形式は同じだが、用法が異なるもの」と「b. 共通語と形式(用法も)が異なるもの」に分けられる、としている。さらに、これは先述した新方言と同様に、体系化されたものではなく、個々の事象として取り出すことができるものである。篠崎が分類したものの例では、次のようなものが紹介されている。

①: 「模造紙」—タイヨーション、ピーシ、…

「藁半紙」—セイヨーション、バフンシ、…

「授業と授業の間の10分くらいの休み時間・20分くらいの長い休み時間」—ホーカ、ギョーカン…

(中略)

- ②a: 「朝起きて布団をしまうこと」—オコス、アゲル…
「蚊に血を吸われること」—アゲル、オコス…
②b: 「沈殿すること」—コズム、トゴル…
「仲間に入れてもらうときの掛け声」—カデテ、マゼテ…

(篠崎, 1996, p. 146)

上記の引用の中で、名古屋ことばに含まれるものは、①に分類される「ビーシ」と「ホーカ」である。また、次に紹介する言い回しも、名古屋ことばに特有の表現である。

言語学者のS氏(大正7年生まれ、名古屋出身)は「先生が本をヨンデミエル」のような「～シテミエル」の敬語形式を共通語と思っていたという。補助動詞としての「～シテミエル」ではなく、「先生がミエタ」のような敬語動詞としての用法は共通語と認められるから、この誤認も起こるべくして起こったものである。

(佐藤, 2002, p. 355)

この「～シテミエル」という補助動詞の言い回しは、「来る」の敬語動詞として用いられる共通語の「ミエル」と形式が重なるために共通語であると誤認されやすく、篠崎(1996)のいう分類では②のaにあたるものと考えられる。

以上、本節では、先行研究における名古屋ことばの「気づかない方言」について述べた。これらが現在の名古屋の大学生によってどのように意識、使用されているのかについては、次章で後述する。

1.3. まとめ

本章では、方言学で論じられる概念として「新方言」、「ネオ方言」、「気づかない方言」をとりあげて概観した。まず、新方言とネオ方言に関して、これらはともに若い世代を中心に使用されるという特徴のあることばであることから、名古屋の若者が現在話している名古屋ことばの実践を推測する上で重要な概念といえる。次に「気づかない方言」について、この世代の名古屋ことば話者は自身の名古屋ことばの実践に気づいているのかどうか、という使用意識を明らかにする上で、この概念で論じられる論点は手がかりになると考えられる。

また、本章で紹介した「気づかない方言」は、体系として論じられるものではなく断片であるという点も注目すべき点である。しかし、ここで、話者が「気づかない」で「方言」を話す、という意識のありようを分析するにあたっては、この断片的な「気づかない方言」の視点のみでは不十分であると考えられる。なぜなら、本論文が扱う名古屋ことばは、その中の特定の個々の要素に限定したものではなく、より包括的なものとしているためである。

筆者は「現代の名古屋の若者が話す名古屋ことばは、名古屋のネオ方言である」と仮定したことから、そうであるならば彼らは自身の名古屋ことばを十分に意識しているのか、という問いを明らかにすべく、次章の意識に関する調査を行った。

2. 意識に関する調査

2.1. 調査の概要

2.1.1. 調査目的

本調査は、2016 年現在の名古屋の大学生に対して、彼らの名古屋ことば使用に関する意識のありかたを知ることが目的とする。さらに、彼らが名古屋ことばをどのようなことばであるとしてとらえているのかについても考察する。

調査対象者を名古屋の大学生に設定した理由は、この世代が、日常生活においてそれ以前の高校生時代より多くのことばや「方言」に触れる機会が増え、自分とは異なる周囲の他者のことばを知ることによって自分のことばが何であるかを意識させられるようになる世代といえるためである。

2.1.2. 調査方法

調査方法には、量的調査の手法として手配りによる質問票の方式を採用した。

調査の実施場所は名古屋市立大学の滝子キャンパスと名古屋工業大学の 2 か所で、2016 年 1 月 20 日と 11 月 30 日に実施した。実施場所の選定にあたっては、学生の性別、出身地を考慮し、前者に通う学生は女子学生と愛知県内の出身が多いことが予想されたことから、この性別と出身の偏りを緩和するために、比較的男子学生と愛知県外出身者が多く在籍する名古屋工業大学を 2 つ目の実施場所に選んだ。配布部数は 1 月分が 100 部であり、11 月分が 70 部である。1 月分は全て名古屋市立大学の滝子キャンパスで配布し、11 月分は 40 部を同キャンパスで、30 部を名古屋工業大学で配布した。

1 月分と 11 月分の内容はほぼ同じであるが、11 月分については 1 月分の内容に加えて、Q1-3 では「一人暮らし」、Q3-1 では「好き」「愛着がある」の項目を追加した。Q1-3 の「一人暮らし」については集計の際の便宜を図ったものだが、Q3-1 の追加理由については後述する。

なお、調査の実施にあたっては、これが名古屋ことばに関する意識調査である旨をあらかじめ調査対象者に伝えている。また、「名古屋ことば」の定義は、質問票の説明文において「名古屋市を中心とした尾張地域一帯で話されていることば」と提示した。1 月の調査で配布した質問票は以下の通りである。

() 歳 性別 男・女

Q1-1 あなたの生まれ、育ちはどこですか？記入例を参考に下の線に示してください。今までに転居したことがある場合は、その経歴も示してください。(都道府県、市町村名で)

0 歳 ●-----● 現在

(記入例)

0 歳 ●-----×-----×-----● 現在

～6 歳
6 歳～18 歳
18 歳～

○○県○○市
××県××市
●●県●●市

Q1-2 あなたの両親の生まれ、育ちはどこですか？(都道府県、市町村名で)

父親 生まれ() 育ち()
母親 生まれ() 育ち()

Q1-3 あなたは現在、誰と同居していますか？○をつけてください。

1. 父親 2. 母親 3. 祖父 4. 祖母 5. 兄弟姉妹 6. その他()

Q2-1 あなたは、自分が名古屋ことばを話していると思いますか？

1. はい(→Q2-2) 2. いいえ(→Q3-1)

Q2-2 誰に対して話しますか？次のうち、あてはまるすべてに○をつけてください。

1. 家族 2. 親戚 3. 大学の友人 4. 高校の友人 5. 中学までの友人
6. バイト先の同僚 7. その他()

Q3-1 名古屋ことばについてどう思いますか？5段階であてはまる数字に○をつけてください。

	あてはまる			あてはまらない		
・かわいい	5	4	3	2	1	
・かっこいい	5	4	3	2	1	
・親しみやすい	5	4	3	2	1	
・みっともない	5	4	3	2	1	
・田舎っぽい	5	4	3	2	1	
・きたない	5	4	3	2	1	
・モテそう	5	4	3	2	1	
・頭がよさそう	5	4	3	2	1	

Q3-2 異性が名古屋ことばを話していたらどう思いますか？

()

Q3-3 名古屋ことばの普段使う言い回しや、思いつく典型的・特有な言い回しにはどういったものがありますか？

()

Q4-1 河村たかし名古屋市長の名古屋ことばについてどう思いますか？

1. 良い 2. 悪い 3. どちらともいえない

理由()

Q4-2 公的な場面で名古屋ことばを話すことについてどう思いますか？

1. 良い 2. 悪い 3. どちらともいえない

理由()

2.2. 調査結果・分析

有効回答数：1月20日配布分…100部中89部、11月30日配布分…70部中70部

性別

	男性	女性	無回答
1月20日配布分	29名	58名	2名
11月30日配布分	49名	21名	0名

Q1-1 あなたの生まれ、育ちはどこですか？

名古屋出身者	尾張出身者	三河出身者	愛知県外出身者
42名	53名	27名	37名

Q1-1 は、インフォーマントの出身³を次の方法で分類し、これ以降の設問に対する回答結果との相関関係を探ることを目的とする。分類は南（2007）の分類方法と、尾張と三河の境界線を参考に、尾張出身者、三河出身者、愛知県外出身者（以下、「県外出身者」）に分けた。ただし、尾張出身者については、名古屋市内の出身者（以下、「名古屋出身者」）とその他の尾張地域の出身者（以下、「尾張出身者」）に細分化している。ただし、全ての人が自身の出身地のことばを話すとは限らないため、出身者はあくまで出身者であり、直接的にその地域のことばの話者であるとは判断しない。

Q1-2 あなたの両親の生まれ、育ちはどこですか？⁴

	名古屋出身者	尾張出身者	三河出身者	県外出身者
両親とも名古屋	14名	2名	1名	1名
両親のどちらかが名古屋	15名	17名	2名	0名
両親とも尾張	0名	18名	1名	0名
両親のどちらかが尾張	1名	9名	2名	4名
両親とも三河	0名	1名	11名	0名
両親のどちらかが三河	1名	0名	7名	0名
両親とも地域不明の愛知県内	0名	2名	0名	0名
両親のどちらかが地域不明の愛知県内	0名	0名	0名	1名
両親とも県外	10名	4名	2名	29名
無回答	1名	0名	1名	2名

この設問の意義について、個人の言語能力の発達と言語意識に関して、日常生活の最も基本的な場面といえる家庭で話されることばの影響は重要である。そのため、インフォーマントだけでなく両親の出身を問う設問が必要であると考え、結果を分析に用いた。

³ 転居にともなって今までに暮らしてきた土地が複数あるインフォーマントについては、それらの中で最も長期間居住している土地を出身地とした。

⁴ 愛知県内の各市町村が両親の生まれ、育ちのどちらかに含まれていれば、より名古屋に近い土地が回答されている方を出身として定めた。これは、そのインフォーマントの両親の生まれと育ちのどちらかに、彼らが日常的に名古屋ことばを話していたり聞いていたりする可能性が高く、こうした事柄とインフォーマントの言語意識を関連づけるためには、名古屋により近い方を両親の出身として定めておく必要があると筆者が考えたためである。ただし、これによって名古屋に近い方に偏りがあることをここで断っておく。

Q1-3 あなたは現在、誰と同居していますか？

	名古屋出身者	尾張出身者	三河出身者	県外出身者
三世代同居	7名	18名	7名	0名
二世代同居	34名	33名	16名	14名
一人暮らし	0名	2名	3名	19名
その他 ⁵	0名	0名	1名	4名
無回答	1名	0名	0名	0名

これは主に、祖父母との同居と、名古屋ことばの使用意識との相関関係を探ることを目的とする設問である。筆者は、祖父母と同居している名古屋・尾張出身者は、核家族よりも名古屋ことばの使用意識が高いのではないかと予想した。使用意識と合わせた調査結果と考察は次節で後述する。

2.2.1. 名古屋ことばの使用意識**Q2-1 あなたは、自分が名古屋ことばを話していると思いますか？**

	名古屋出身者	尾張出身者	三河出身者	県外出身者
はい	35名	39名	3名	4名
いいえ	7名	14名	24名	33名

Q2-2 誰に対して話しますか？（Q2-1で「はい」と回答した人のみ回答）

家族	親戚	大学の友人	高校の友人	中学までの友人	バイト先の同僚	その他
68名	52名	65名	64名	53名	40名	1名

その他…バイト先の高齢のお客さん

①大学生の名古屋ことば使用意識

ここでは、調査で明らかになった名古屋の大学生の名古屋ことば使用意識について述べる。

Q2-1の調査結果の表から分かる通り、「自分が名古屋ことばを話していると思う」という意識を持つ名古屋・尾張出身者がかなり多いことが明らかになった。筆者は、名古屋ことば話者は主に名古屋・尾張出身者に属すると考えるが、ここで「はい」と回答したインフォーマントは名古屋出身者 42 名中 35 名、尾張出身者 53 名中 39 名で、「いいえ」を圧倒的に上回っている。このことから、大学生世代の名古屋ことば話者は、名古屋ことば使用意識のある者の方が多数派であると判断した。

次に、Q1-3で述べた祖父母との同居の有無と、Q2で明らかになった使用意識との関連について述べる。名古屋ことば話者が多く属すると考えられる名古屋出身者と尾張出身者に関して、祖父母と同居していると回答した「三世代同居」に分類されるインフォーマントは前者が 7 名、後者が 18 名であった。前者 7 名のうち使用意識があると回答したのは 6 名、後者 18 名のうち使用意識があると回答したのは 13 名で、使用意識があるインフォーマントの方が多いものの、そうでないインフォーマントも何名かおり、これは二世代同居や一人暮らしも含めた全体の使用意識の割合とほぼ同じであった。したがって、祖父母と同居している名古屋出身者と尾張出身者は名古屋ことばの使用意識が高いのではないかと、という筆者が予想した相関関係は明らかにすることができなかった。

②高年層の名古屋ことば使用意識

大学生に対する調査では高い使用意識を示す結果が表れた一方で、興味深いことに、同研究高年層

⁵ その他の内容については、三河出身者の 1 名と県外出身者 4 名のうちの 2 名が兄弟姉妹との同居であり、残りの県外出身者 2 名がそれぞれ祖父母との同居と祖母との同居である。

編の調査ではこれとは対照的な結果となった。これは 2016 年 1 月 13 日に名古屋市瑞穂区のコミュニティーセンターで実施されたもので、調査対象者はここに通う名古屋市内在住の 60 代から 90 代の女性である。ここでの調査はアンケート調査とインタビュー調査の 2 種類が行われているが、名古屋ことば使用の意識を問うアンケート調査での設問 (b)「あなたは名古屋ことばを話しますか？」について、以下のような結果が得られた。

興味深い点として、生まれも育ちも名古屋市内であるインフォーマントも (b)名古屋ことばを話すかどうかに関して「はい」と答えたのは 12 人中 5 人⁶と半分以下であった。(中略)名古屋ことばを話しているという意識を持つ話者はプレ調査のインフォーマントの中で 4 分の 1 程度しか存在しないという結果になった。

(戸松, 2016, p. 139)

このように同じ名古屋市内在住であっても、大学生世代の若者では先述のように高い割合で「自分は名古屋ことばを話している」という意識を持っているのに対し、名古屋市内のコミュニティーセンターに通う高年層ではそういった意識を持っているインフォーマントの方が稀で、言語意識に大きな世代差が存在していることが分かる。

しかし、だからといって後者は自分が「標準語」や共通語を話していると考えているわけでもないようである⁷。では、各世代の名古屋ことば話者は、それぞれどのようなことばを「名古屋ことば」とすると認識し、それをもって自分のことばは何であると考えているのだろうか。ここでは先に戸松 (2016) の調査対象者である高年層の女性インフォーマントについて、この問いを明らかにしたい。彼女らのこの認識については、インタビュー調査において明確に述べられた。このインタビューからは、高年層のインフォーマントは、自分たちの親の世代以前の人々が話していたことばこそが「ほんとの名古屋弁」であり、自分たちはそれを話すことができないと考えていることが明らかになった。そして、「ほんとの名古屋弁」とは語尾に「なも」がつくようなことばであると言及されており、これは上町ことばを指すと思われる。彼女らはそのような考えを持っていることから、自分たちの世代が話すことばは何となく名古屋周辺の「訛り」はあるものの、それは「上品」だった「ほんとの名古屋弁」と他のことばが混じってしまっている「だめ」で「汚い」ものとして認識している。彼女らは、自分たちのことばを「名古屋弁」と称することもあるようだが、それは彼女らが考える「ほんとの名古屋弁」とは異なるため、「あなたは名古屋ことばを話しますか？」という問いに自信を持って「はい」とは答えづらいようである。

③名古屋出身者と尾張出身者の名古屋ことば使用意識比較

「方言」使用の意識についてはジェンダー差があらわれる場合があるが、今回は特にそのような相関関係はみられなかった。本調査では、むしろ名古屋出身者か尾張出身者かという出身の違いにおいて、断定できるほどの数値ではないが少し差がついている。これが仮に統計学的に「存在する」と判断できるものであれば、筆者は次の 2 点の推論を述べることが可能ではないかと考える。

1 点目は、名古屋出身者と尾張出身者では、彼らのことばと尾張地域外のことばとの間、または共通語との間に違いがあることに気づく機会が多いか少ないかという差が各出身者の言語意識に表れるのではないかと、という推論である。名古屋市は日本の中核都市の一つであるため、比較的市外、愛知県外からの人口流入は多い。そのため、その人たちが話すよそのことばを耳にすることも多いが、名古屋市を除いた尾張では、尾張外からこの地域内への流入人口はそれより少ない。すると、尾張から

⁶ 戸松 (2016) のアンケート調査に回答した全インフォーマント 23 名のうち、名古屋生まれかつ名古屋育ちであると回答したのが 12 名であった。

⁷ 筆者は戸松 (2016) の調査に同行したのだが、そのインタビュー調査や、調査の合間の非公式な会話のやりとりからこのように推測した。

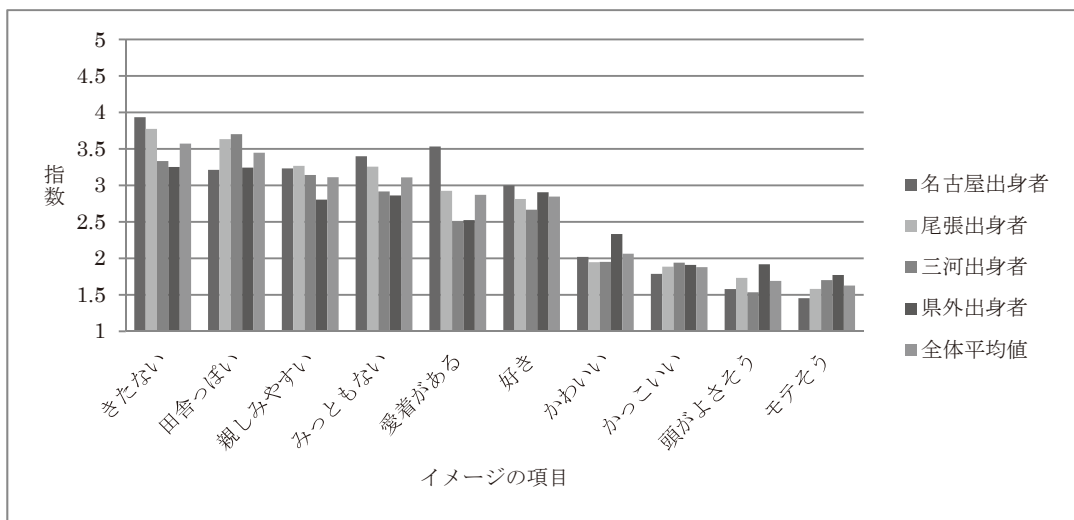
あまりよそに出たがらない傾向のあるこの地域の人々は、よその人を受け入れることが少ないだけでなく自分からよそに行くこともなく、名古屋出身者よりもよそのことばを耳にすることが少なくなる。したがって、「自分のことばはよそのことばとは違う」と気づく名古屋ことば話者は、尾張出身者よりも名古屋出身者に多いと思われる。

2点目は、インフォーマントが「名古屋ことばは名古屋市の生まれ、育ちの人が話すもの」と認識している場合、尾張出身者に比べて名古屋出身者の方が抵抗なく「自分は名古屋ことば話者だ」と表明できるのではないか、という推論である。このような認識が、名古屋出身者と尾張出身者の使用意識の差に反映した可能性もあると推測される。

2.2.2. 名古屋ことばのイメージ

①名古屋ことばそのものに対するイメージ

Q3-1 名古屋ことばについてどのようなイメージがありますか？⁸



表のイメージの項目の順を見て明らかであるように、「親しみやすい」を除いて比較的マイナスのイメージである「きたない」「田舎っぽい」「みっともない」が、全体平均値で指数の3を超える結果となっており、反対に、「親しみやすい」以外のプラスのイメージは比較的低い指数を示している。このことから、名古屋ことばにはプラスイメージよりマイナスイメージの方が付随しやすいといえる。しかし、その一方で、イメージの項目の中で最も高い全体平均値を示した「きたない」でもって、その数値は3.5を少し上回る程度にとどまっている。したがって、名古屋ことばには、あまり固定化されたイメージが定まっていないのではないか、と筆者は考える。

②出身別による名古屋ことばイメージ

ここでは、出身地別の指数の差の比較によって分かることについて説明する。その一つは、名古屋出身者と尾張出身者を名古屋ことばにとっての「うち」の者、三河出身者と県外出身者を「そと」の者であるとしたとき、「みっともない」「きたない」の項目で「うち」と「そと」に比較的大きな差が存在し、いずれも「うち」の方がより高い指数を示すということである。すなわち、普段から名古屋

⁸ 質問票に示した5段階の数字を指数とし、イメージの項目は全体平均値が指数を高く示したものから順に並び替えた。

ことばの「うち」にいる者の方が、より名古屋ことばを「きたないもの」「みっともないもの」として認識しており、「うち」の自己評価が低いといえる。このような名古屋出身者と尾張出身者の自己評価の低さは、以下の先行研究⁹からも裏打ちされるものである。

「名古屋弁」の評価に明らかな地域差の存在が認められる。すなわち、三重側ではプラスに評価する人が多く、一方、お膝元の愛知側、そして岐阜側ではマイナスに評価する人が多いのである。名古屋から地理的に遠ざかるにつれて「名古屋弁」に好意を寄せる人の比率が高くなることが、ことさらに興味深い。(中略) ちなみに、三重側は近畿方言の行われる地であるとはいえ、近年、次第に中京文化圏になりつつある地域である。名古屋に通勤・通学する人も多いのである。

(真田, 2005, p. 132)

この真田(2005)の調査は、「名古屋から地理的に遠ざかるにつれて『名古屋弁』に好意を寄せる人の比率が高くなる」という部分において、筆者の行った調査と共通している。ただし、この調査においては、筆者が「県外出身者」として一つにまとめた岐阜県出身と三重県出身のインフォーマントが分けられており、岐阜県出身のインフォーマントは愛知県出身のインフォーマントと同様に名古屋ことばをマイナスに評価する人が多かったという。真田はこのような結果が表れた理由について、マイナスに評価したインフォーマントの大部分が連母音の融合現象について指摘したことを述べたうえで、「いわば近親関係にあるものゆえの憎悪といったことがあるだろうか(真田, 2005, p. 134)」と推察している。つまり、岐阜県で話されることばは名古屋ことばの言語的特徴を多く含んでいる¹⁰ため、岐阜県のインフォーマントと近畿方言を話す三重県のインフォーマントとでは、名古屋ことばに対する視線が異なるということである。

以上のことから、「うち」の人々の名古屋ことばへの評価は低いといえるが、だからといって彼らがそれを話さないというわけではないことは、Q2-1の結果から明らかである。これについて筆者は、「うち」の人々は名古屋ことばに対してより強くマイナスイメージを持っている一方で、愛着も同時に持っているためにそれを使用しているのではないか、という仮説を立てたことから、2回目の調査で配布したアンケートに Q3-1 で「好き」「愛着がある」の項目を追加した。結果としては、「好き」に関してはそれほど高い数値は示されなかったものの、「愛着がある」に関しては名古屋出身者がその次の尾張出身者に 0.5 以上の差を開いて高い数値を示し、ある程度名古屋ことばに愛着を持っている人が多いことが分かった。しかし、使用意識の高い名古屋出身者と尾張出身者のこれについての数値は、それぞれ平均で約 3.5 と約 2.9 であり、筆者が立てた仮説の実証に用いることができるほど高い数値は表れなかったため、この仮説の実証には至らなかった。

⁹ この先行研究のデータは、1978 年度と 1979 年度に、真田が相山女学園大学で行った講義の受講生たちとのフィールドワークによって集められたものである。フィールドワークは老年層の人々を対象としており、「名古屋弁」は周辺地域からどのように評価されているかを明らかにしようとするものである。

¹⁰ 都竹通年雄氏による方言区画論は、岐阜県と愛知県の「方言」をまとめて「ギア方言」としており、ここから、これら二県のことばが似通った言語的特徴を持つことが推測される。

③名古屋ことば話者に対するイメージ調査結果

Q3-2 異性が名古屋ことばを話していたらどう思いますか？¹¹

男性から女性に対する意見		無回答 3 名
プラス評価 16 名	どちらでもない 38 名	マイナス評価 21 名
かわいいと思う (3)	特に何とも思わない (22)	いやです (2)
キュンとします	違和感はない (2)	ちょっといや (2)
ほれる	最近あまり違和感を感じなくなってきた	びっくりする、ドキッとする (悪い意味で)
好感がもてる	名古屋の人なんだと思う (7)	少々抵抗を感じる
いいと思う	名古屋弁やん	好印象は抱かない
良い子なんだなと	モテるための戦略であると捉える	嬉しくはない
面白い人だなと思う	方言萌えを狙っているのかな、あざといな、と思う	あまり良く感じない (2)
ユニークな子だと思う	関西弁のほうがかわいい	あまり好めない
親しみやすそう	博多弁の方が良いです	ひどかったらひく
親近感がわく (2)	意思疎通ができればそれでよい	丁寧に話してほしい
同属意識		直してほしい
自分も使っているので良いと思う		きれいな言葉を話して欲しい
別にいいと思う。場合によっては良い点になりえる		やめていただきたい
		かわいくはない
		あまりかわいくはない、三重や京都と比べると…
		違和感をもつ
		名古屋ことばは少しキツイイメージがあるから、話しかけづらいと思います
		田舎の方の人だと思う

女性から男性に対する意見		無回答 3 名
プラス評価 19 名	どちらでもない 52 名	マイナス評価 5 名
かわいいと思う	特に何とも思わない (25)	きたない
いいと思う (2)	特に気にならない (5)	違和感をもつ (2)
仲間意識	男：特になにも 女：やめた方がいい	良いイメージはない
親近感がわく (4)	違和感はない (2)	田舎っぽいな、と思う
親しみやすい (5)	名古屋の人なんだと思う (8)	
はなしやすい	度合いによる (8)	

¹¹ 表中の「プラス評価」「どちらでもない」「マイナス評価」の分類について、これらはインフォーマントによるものではなく、回答内容を筆者が判定したものである。ほぼ同じ意見を述べていると筆者が判断した回答は、ある程度内容を省略または言い換えて表に示した。同じものとしては集計できないまでも、関連性のある意見であると思われるものについては、点線で区切って示している。

共感できる	程度と場による	
自分が話すから OK	祖父母と住んでるのかなあと思う	
別にいいと思う (2)	悪い印象は受けない	
名古屋が好きなんだと感じる		

性別無回答者		
プラス評価 1名	どちらでもない 1名	マイナス評価 0名
同郷の人ですね	TPO をわきまえていればなにも問題はないと思う	

④名古屋ことば話者に対するイメージ分析

Q3-2に対する回答結果で最も多く見られた意見が「特に何とも思わない」というものだが、この意見はインフォーマントの性別や出身に関係なく、幅広くみられた。これらに反するものとして、筆者がマイナス評価に分類した「違和感をもつ」や「少々抵抗を感じる」といった意見が少数ながら存在する。しかし、多数の人は、異性が名古屋ことばを話していても、それによって特にその人に対して特定の印象をつけたりプラスマイナスの評価を下したりはしていないようである。また、「名古屋の人なんだと思う」という回答が、男性インフォーマントで7名、女性インフォーマントで8名から得られた。

⑤名古屋ことば話者へのマイナス評価

女性から男性に対するマイナス評価の意見に比べて男性から女性に対するマイナス評価の意見が多く見られ、この点において、ジェンダー差が存在する。そこで、マイナス評価の意見については、特に男性から女性に対する意見に着目して分析を行う。

まず、「いやです」から「ひどかったらひく」までの意見は、女性の名古屋ことば使用に対して嫌悪感や抵抗感を抱くという点で共通するものとして、一つに区切った。筆者は、このような意見が調査結果として多く見られたことは、Q3-1 で明らかになった「きたない」「田舎っぽい」「みっともない」といった名古屋ことばのマイナスイメージが高いことと強い結びつきがあるのではないかと考えた。このように回答したインフォーマントは、名古屋ことばに上記のようなマイナスイメージを強く付随させているため、女性が名古屋ことばを話すのを聞いた際にはそのようなイメージが浮かび、それが嫌悪感や抵抗感につながっていると思われる。さらに、次の「丁寧に話してほしい」から「やめていただきたい」までは、女性の名古屋ことば使用は単に嫌悪感や抵抗感の対象となるだけでなく、そのままにしておくのは望ましくないもの、矯正した方がよいものだという意思を反映する意見である。

その次に続く「かわいくはない」と「あまりかわいくはない、三重や京都と比べると…」という2つの意見では、「方言」使用が「モテ」に関連付けられていることがわかる。¹²この関連性の点において、これらは筆者が「プラス評価」に分類した「かわいいと思う」「キュンとします」「ほれる」と、「どちらでもない」に分類した「モテるための戦略であると捉える」から「博多弁の方が良いです」という意見と同類のものであるといえるため、これらの意見についてここでまとめて考察する。まず、異性名古屋ことば使用と「モテ」とのこの関連性について、これに関する意見を述べたインフォーマントはほぼ全員が男性であった。彼らの多くは、女性名古屋ことば使用について、それがかわいいかかわいくないか、という点を重要視している。さらに、「関西弁のほうがかわいい」「博多弁の方が良いです」「あまりかわいくはない、三重や京都と比べると…」という意見からは、名古屋ことばが他の「方言」と比較されてかわいいかかわいくないかを判定されていることがわかる。異性名古屋

¹² これと深いかわりのある論点として「方言」のコスプレ化があるが、松本（2017）がこれについて詳しく述べているため、参照されたい。

ことば使用を「かわいいと思う」とするインフォーマントも男女合わせて4名いるものの、このように「他の方言の方がかわいい」とする意見や先述のマイナス評価の意見の多さの方が際立って多くみられ、Q3-1での「かわいい」に対する評価が低かったことと「モテそう」に至っては項目の中で最下位だったことは、このQ3-2の調査結果でも共通する認識であるといえる。以上のようなことから、名古屋ことばが「モテ」や「方言萌え」の道具としてプラスの効果を発揮できるとは言い難い。

⑥名古屋ことばと親しみやすさ

女性から男性に対しては「親近感がわく」や「親しみやすい」といった意見や、「(評価は、異性が話す名古屋ことばの) 度合いによる」という意見が多かった。「親近感がわく」や「親しみやすい」という意見については、Q3-1で「親しみやすい」の項目が比較的高い指数を示した調査結果と一致するものといえる。また、これらの意見と同じ分類に入るものに、「同属意識」や「仲間意識」という回答があった。このことから、名古屋ことば話者は自分と同じく名古屋ことば話者である者に対して、名古屋ことばを使用することによって親近感や連帯感を表すことが可能であり、ここに、名古屋ことばの「集団語的性格（陣内, 2007, p. 58）」をみることができる。

⑦度合いの高い名古屋ことば・度合いの低い名古屋ことば

後者の「度合いによる」という意見は、具体的には「やりすぎはいや、自分と同じぐらいなら」「河村さんほどでなければ気にならない。一でも十でもない」「自分も話すので特に意識しない。あまりにひどいと少しいや。」などがこれに含まれる。これら3つの意見は、このように回答したインフォーマント自身がどのぐらいの基準で度合いの判定をしているのかに触れて回答されていたため、筆者が選んでここで紹介した。こうした意見について、「度合いによる」といっても、度合いの高い方がマイナス評価で度合いの低い方がプラス評価であることは回答内容から明白である。

さらに、上記の「やりすぎはいや、自分と同じぐらいなら」「自分も話すので特に意識しない。あまりにひどいと少しいや。」という意見からは、自身の名古屋ことばは度合いの低いものであると認識しており、それに下す評価はプラスでもマイナスでもないことが読み取れる。それに対して、「河村さんほどでなければ気にならない。一でも十でもない」という意見にみられるように、河村氏の話す名古屋ことばは度合いが高く、気になってしまうものとされるようである。

⑧大学生が認識する名古屋ことばの姿

Q3-3 名古屋ことばの普段使う言い回しや、思いつく典型的・特有の言い回しにはどういったものがありますか？

語尾		
～しやー/しやあ (26)	～やりやー/やりやあ (4)	～にやー
～だがん (22)	～りん (3)	～だみや
～だが (16)	～こりん	～へん
～だがー/だがあ (10)	～やー (2)	～がん
～だがや (8)	～してみやー (2)	～がね
～がや (4)	～こや/こやー (2)	～でしょう
～だがね (5)	～してこやー/してこやあ (2)	～だって
～だぎや/だぎやー (5)	～だに→ (2)	しよーぜ→ (提案)
～みや/みやー/みやあ (7)	～きやあ	～なくない？
～やん (7)	～しときやあ	～しとるが
～じゃん (6)	～やらー	
～だら/だらあ (6)	～りやー	

動詞 (活用形含む)	名詞	オノマトペ	接続詞
机をつる (24) ～しとる (10) ～しとるが かぎをかう (9) ほかる (3) 米をかす (2) ～しとった (2) かぎをかける (2) ～してみえる いこまい 行つてまう やつとる おる ～しとりゃーす	えびふりゃー (10) ¹³ 放課 (9) けった (8) どべ (2) 車校 放課後 あんた	ときんときん (4) とっきんとっきん (4) ときとき しゃびしゃび (3) やかんがちんちんに熱い (3) ちんちこちん あつちんちん かばんがばーばー	～だで (5) ～だもんで (3) ～なもんで ～やで

副詞	形容詞	イントネーション
でら (23) どえりゃー/どえりゃあ (7) どら でえーら	どえりゃー/どえりゃあ (7) えらい (6) どえらい	いる↗ (2) くつ↗

その他			
ない→ん	～しんとかん	「ら」抜き言葉	知らない
やらんかった	～やらなかん	語尾があがるのが気になる	なし
～かん	～しなかん	わからん	
いっとかんとかん	～せんとかん	わからない (3)	

注意すべき点として、これらの中には名古屋ことば特有の言い回しとは言い難いものも含まれている。特にこのことが明確に指摘できるのは、「～じゃん」「～だら/だらあ」「～りん」「～こりん」に対してである。これらは名古屋ことばと地理的に境界を接する三河ことばのステレオタイプともいえる極めて特徴的な語尾であり、名古屋ことばと三河ことばが混同された可能性が高い。また、動詞の「かぎをかける」と名詞の「放課後」は共通語に存在する表現であるにもかかわらず、ここで回答されている。これらには、それぞれ「かぎをかける」という意の「かぎをかう」と「(学校の) 休み時間」という意の「放課」という名古屋ことばがあるために、それらと混同されたと思われる。

⑨断片的な「気づかれない方言」

全体を通して見ると、「～だがん」などの語尾の多くや、形容詞、接続詞に分類されるものについて、下町ことばをベースとした名古屋ことばが数多く回答されている。「でら」や「けった」といった新方

¹³ これは、1980年代にタレントのタモリによって全国的に発信された造語であるといわれ、実際に使用されることはほとんどない。そうであるにもかかわらず名古屋ことばの決まり文句のような典型として思い浮かべられる、いわばステレオタイプといえよう。

言を挙げたインフォーマントも目立った。しかし、先行研究において「気づかない方言」の具体例として挙げられていた「放課」までもが、ここで9名によって回答されている。このことから、先行研究として紹介した篠崎（1996）が著わされた当時と現在とでは状況が変化していると考えられる。つまり、20年前には「気づかない方言」として指摘されていた名古屋ことばが、現在、少なくともこの世代のインフォーマントには気づかれるものへと変化しているということである。¹⁴

以上のように回答数が比較的多くみられる名古屋ことばとは反対に、この設問で回答されづらい名古屋ことばとして、筆者は次の2点があるのではないかと考える。

1点目は、上町ことばと武家ことばである。上町ことばに関しては、これにあたる回答は動詞の「～しとりゃーす」のみで、この世代にとって上町ことばは、名古屋ことばの普段使う言い回しや典型的・特有の言い回しであると認識されないようである。これは、高年層の人々の主張と大きく異なる。

2点目は、東京語や共通語と一致すると考えられがちな名古屋ことばである。具体的には、アクセントや断片的な「気づかない方言」がこれにあたると考えられるが、先述したように、今までは「気づかれない方言」とされていた名古屋ことばでも、本調査を行った2016年時点では話者自身に気づかれるようになってきている「放課」のような表現もある。しかしその一方で、現時点でもやはり話者に気づかれにくいままの「気づかれない名古屋ことば」も存在するのではないかとと思われる。そして、この代表格として挙げられるのが、第2章で例示した補助動詞の尊敬語としての「～してみえる」であると筆者は考える。これを回答したインフォーマントは1名のみであり、現時点でも気づかれにくい状態のままであるといえる。そして、アクセントについては、名古屋ことばのアクセントの大部分は東京式アクセントと重なることから、それとは異なる一部分が共通語と区別されにくくなっていることが、この設問でのアクセントに対する回答率の低さの要因の一つではないかと筆者は分析した。

2.2.3. 河村たかし氏と名古屋ことば

Q4-1 河村たかし名古屋市長の名古屋ことばについてどう思いますか？

全体の3段階評価

良い	悪い	どちらともいえない	無回答
10名	85名	58名	6名

出身地別の評価理由

名古屋出身者の意見

良い	わざとらしいけれどPRになる。 市長らしい。名古屋の代表。 頑張ってるから。
どちらでもない	少しわざとらしすぎる。/ちょっと大げさだけど使うこと自体はいいと思う。 名古屋ことばより誇張表現が気になるから。/本当にあれならしょうがないけど誇張してる感が否めない。 人の言葉なので。 不快感は感じない。 あまり関心がない。 無回答（2）
悪い	汚い。/汚く聞こえる。/汚く聞こえる。わざとらしい。/汚い、名古屋人全員があの様に

¹⁴ 例として、中日新聞「なごや特走隊」（2006年5月1日掲載記事）にみられるようなメディアは、それまで「気づかれない方言」であったものが2000年代以降には気づかれるようになってきたきっかけとして、大きな役割を果たすと考えられる。

	話していると思われたくない、わざとらしい。/汚いし、何を言ってるのか分からないから。わざとらしい。(3) /わざと(?)使っている感がある。/わざわざ使わなくてもよい。わざと使っている感がある。
	度が過ぎる。/誇張しすぎだと思う。/程度がひどいから。/強調しすぎだと思う。/使いすぎ。/くだい。/くせ強すぎる。
	無理をしている気がする。/無理してる感がある。
	あれは名古屋ことばではない。
	今の名古屋民はおみゃーさんとか言わないと思う。作りすぎ。
	名古屋の人はそんな名古屋弁しゃべらないし、他の地方の人に誤解されるから本当にやめてほしい。
	極端。日常会話であれだけ使うと思われたくない。
	イメージ付けのつもりかもしれないが、日常で使う範囲で使ってほしい。
	名古屋のイメージを悪くしてる。あんな風に使う人はいない。
	名古屋市のイメージをますます損ねているように感じる。
	標準語を話してほしい。
	全国的にわかりやすい言葉で話すべき。理解できない人がいるとよくない。
	減多に聞くことのない言い回しで理解しにくいことがある。

尾張出身者の意見

良い	親しみやすい。政治に対する堅いイメージが和らぐ。 名古屋の人だとわかりやすい。/名古屋の特徴押していけるし象徴としていいと思う。/名古屋が好きなんだと思うし、自信をもっていいと思う。
どちらでもない	わざとらしい。 過度。/やりすぎはあまり好感をもてない。/誇張しすぎていると思う。 ふだんからなじみのあることばなので。ただ、やや大げさかなと思います。 アピールという点では良いと思うが、あまり過剰に使うのもどうかと思う。 地域の特色にはなっているがわざとらしい。 たまにわざとらしさを不快に感じる一方、使うことで残していこうとする姿勢を評価する。 わりやり使っている感があるが、地域のことを思っていることだろう。 名古屋をアピールするのは分かりますが、少し違和感を感じます。 あまり気にならない。 場をわかまえてほしいと思う。 テレビでやっているとおもしろくてみちゃう。 知らないから。/あんまり耳にしないのでわからないから。 無回答 (3)
悪い	汚い、かつこわるい。/きたない。/ちょっときたない。/わざとらしい、きたない。/下品。/リアリティーがない。きたない。/使いすぎて汚く聞こえるから。/汚いし、今時あんな人いない。 わざとらしい。/地元の人からするとわざとらしく聞こえて若干不愉快。 大げさすぎる。/やりすぎ。/使いすぎ。/ちょっと大げさなイメージがある。/誇張しすぎ。/名古屋弁を誇張して使っているから。 聴こえが汚く、名古屋に対して悪いイメージを与えかねない。不快。

	やりすぎではあると思うが、名古屋のイメージづくりには貢献していると思う。そのイメージ自体が悪いとも思うが。 だいぶ先鋭化されたステレオタイプで、県外の人に変なイメージを持たれそうだから。あれくらい使っていると思われるのがいやだ。 名古屋の人でもあまり使わないようなことも平気でいっているから。
	聞きとれない。 市の長なのだから、標準語で誰にでもわかりやすく話してほしい。 公的な場で使われると分かりにくくていやだ。 名古屋人だから使うのはいいと思うけれど、正式な場では使わないで欲しいから。 強調しすぎ、公共の場で立場がある人が話すなら少し意識してきれいに喋ってほしい。
	キャラ作り。 ビジネス名古屋ことばの感じがする。
	頭が悪そう、なぜか不快感。
	無回答（1）

三河出身者の意見

良い	「名古屋」の市長感があって良いと思うが、言葉づかいが汚くも感じる。
どちらでもない	やりすぎ。/名古屋ことばを強調しすぎている。 名古屋のアピールにはなるが、ちょっと押しつけがましい。 公の場はきちんと話すべきとも思うけど、名古屋アピールもできると思うから。 名古屋のPRになっていると思う。 商売道具の名古屋弁。 愛知県に住んでいるのであまり気にならないから。 好きにすればいいと思う。/どうでもいい。 無回答（2）
悪い	きれいでないから。/しゃべり方が汚い、個人的にあまり好きではない。/きたない感じがする。品格が下がる。 わざとらしい。（2） やりすぎ。 みんなしゃべらない、あんなふうに。 そこまで使っている人はいないのに、使っていると思われそう。 ちょっとパフォーマンス感が…。 とってつけたように聞こえはするけどそれもPRの1つだと思います。 市長にしては少し馴れ馴れしすぎる。 言葉使いが市長としてなっていない。無理に方言を使って逆に名古屋の印象を悪くしているように思える。 公人として共通語を話さないのはどうかと思う。 変だと思う。 あの人に興味がなから。

県外出身者の意見

良い	あの人は親しみやすい感じでよい。 名古屋の人ですし何もおかしくはない。
どちらでもない	やりすぎかなあと思う。 ふだん皆が使うことばとはだいぶ離れていると感じるが、アピールすることは悪いことではないと思う。 他県出身のため。 他県の人からみると、名古屋ってそういうしゃべり方なんだな、と思うだけ。 公の場だとあまり良くないかもしれない。 ただ、聞き取り辛かったです。 それが名古屋ことばであると最近まで知らなかったから。 興味を持ったことがない。/きいたことがない。/あまり聞いたことがないため。/印象がない。/知らない。(4) /わからない。/なんとなく。 無回答 (3)
悪い	きたない。/きたならしい。/汚いイメージ。 やりすぎ、名古屋の人全員がそんなふうだと思われるといやだ。 わざとらしい。/わざと過度にやっているようで気になる。 狙っているようにみえる。/無理やり使っているように思えるから。 キャラづくりを感じる。 政治的パフォーマンスである。 公人は共通語を使うべきだと思うから。 何を言っているかわからない。/意味が通じないのでそういう点で良くないと思う。/ききとりにくい。 無回答 (3)

河村たかし名古屋市長¹⁵は現代の名古屋において、名古屋ことば話者を代表する一人といえる。彼の名古屋ことばに対する評価を分析することは、名古屋の大学生たちが河村氏の実践としての名古屋ことばを指標としたとき、どのようなことばが自分たちの認識する名古屋ことば、あるいは自分たちの実践する名古屋ことばであるのか、という彼らの「方言」意識を表明するのかを明らかにすることができる、という点で意義がある。

Q4-1 では、河村氏の名古屋ことば使用に対して「悪い」と評価したインフォーマントが全体の半数以上にのぼった。筆者の普段の会話で彼の名古屋ことばに関する話題があがったとき、「市長の名古屋弁はやりすぎ」「話し方が汚い」などと聞くことが多かった。そのため、筆者は「市長の名古屋ことば使用に対して悪い印象を持つ人が多いのではないか」と予想し、調査結果は予想通りのものであった。

調査結果の理由については、特に、「汚い」「やりすぎ」「わざとらしい」というマイナス評価の理由が、この設問の意義について先述した筆者の問いを明らかにするのに手がかりとなる。これら3つの意見は非常に互いに密接に関係した意見ということができ、また、Q3-1 や Q3-2 の調査結果とも連関がある。1 つ目の「汚い」について、これを Q3-1 の調査結果とあわせて考察したとき、河村氏の使用する名古屋ことばの度合いがかなり高いことを考慮すると、この度合いの高さによってより一層名古屋ことばの「汚い」というマイナスイメージが聞き手に強く印象づけられるのではないかと考えられる。これは、Q3-2 に対して「度合いによる」とした意見について、筆者が述べた分析と共通するものであるといえよう。また、ここにおいて、河村氏の名古屋ことばの度合いが高いことを示す表現に

¹⁵ 河村氏の名古屋ことばに対する意識や使用について、詳しくは井上 (2017) を参照されたい。

は、単に「度合いが高い」ということばが用いられるのではなく、「程度がひどい」や「大げさ」などといった、「度合いが高い名古屋ことばは悪いもの」とすることばが用いられることが多かった。

そして、「やりすぎ」「わざとらしい」という意見からは、大学生の名古屋ことば話者が、河村氏の名古屋ことばと自分たちの名古屋ことばは異なると考えていることが読み取れる。この点については、名古屋出身者による「あれは名古屋ことばではない」や「名古屋の人はそんな名古屋弁しゃべらないし、他の地方の人に誤解されるから本当にやめてほしい」といった意見でもはっきりと述べられている。

このようなマイナス評価が多数派の意見としてみられる一方で、河村氏の名古屋ことばを前向きにとらえようとするものもあった。そのような意見には、名古屋地域の PR やアピール、イメージづけに関連した言及をするものが多くみられた。

Q4-2 公的な場面で名古屋ことばを話すことについてどう思いますか？

全体の3段階評価

良い	悪い	どちらともいえない	無回答
13名	61名	78名	7名

出身地別の評価理由

名古屋出身者の意見

良い	少しくだけた感じがあって良いと思う。 そこまで恥じるものでもない。/特に恥ずかしい言い回しとも思えない。 方言にそこまで私的なニュアンスがあるとは思わないから。 軽い感じならよいのでは一。
どちらでもない	方言だから悪いことでも良いことともいえないと思う。(2) 悪いと思う人はいるだろうな…という印象。 場所によって良いときと悪いときとがあると思います。/きちんとしたところでは名古屋弁は合わない。/相手にもよるかも。 行儀があまりよろしくないと思うが、悪いとは思わない。 変な感じはする。 名古屋を代表してる場合はよい。 何とも思わない。/気にならない。/伝わるのならあまり気にしない。 無回答 (5)
悪い	汚い。/汚い、敬語が少ない。/あまりきれいでない。 公の場では丁寧に話すべき。/きちんとした言葉を使うべき！！/公的な場面では公用語を使うべきだと思う。/できる限り標準語が望ましいと思う。/マナーとしては標準語を話すべき。/礼儀が悪いように感じる。/フォーマル感がない。 そもそも公的な場であまり方言を話すべきではない。 名古屋ことばに限らず方言を使うのは良くないと思う。 共通語を使わないとそごが生まれるから。 全国的にわかりやすい言葉で話すべき。理解できない人がいるとよくない。 友人の集まりなら OK だが会社の会議ではみっともない。 口調がキツクきこえる。/相手にがさつな印象を与えるのではないかと思う。 あまり印象よく思わない。 名古屋に住んでる人が名古屋弁を使うのは関西の人が関西弁を使うのと同じで良い悪いで

	判断できるものじゃないと思う。
--	-----------------

尾張出身者の意見

良い	個性。/個性だと思う。すてき！！ 使いたい人は使えばいいと思います。 地元が分かるから。 みんな使っているから。
どちらでもない	個性だからどちらでもいいと思う。 河村たかし市長ほどに極端でなければいい。 どちらかといえば、使わない方が良いように思う。 意識して治すことも難しいから公的な場面ででしてしまうのは仕方ないから。 身にしみついているので、自然と出るなら仕方ない。 方言が出てしまう程度ならば何とも思わないが、あえて使うものでもないと思う。 方言と意識があるなら全ての人にわかるように意識すべきだと思う。 自然にでしてしまうのはしょうがないが、できるだけ標準語で話すべき。 方言と同じであると思うから仕方ない。 人が育った環境によるから。 PR、愛着の点では良いが、公的な場では分かりやすく、聞き取りやすくする必要あり。 別の地方と混同して誤解を招いたりするかもしれないが、自分にとっては通じるため。 名古屋以外に対してはよくない、真面目な場では避けた方がいい。 特に何でもいいと思うから。でも正式な場では、標準語がいいと思う。 会議等では標準語を用いるべきではあると思うが、その他はすきずきでよい。 敬語で話すときは方言はない方が良くいかなと思う。 くせがすごい。 ありっちゃあり。 特に無し。/特に何も思わない、関心がない。 無回答 (4)
悪い	標準語で話す方が良いと思う。(8) /全国民に伝わることばを選ぶべき。/公的な場ではきちんとした言葉を使うべきだと思うから。 公的な場面では方言は名古屋弁に限らず良くないと思う。 名古屋ことばのみならず方言をつかうべきでないと思うから。 かなりくだけているので公的な場面にはそぐわない。 公的な場では名古屋ことばは汚いと思うから。でも無意識で使っていると思う。 きたない。/少し下品に感じられてしまうから。 あまり好感はもたない。 ちょっとうるさく感じる。。 だらしない印象。常識がない印象を与えてしまいそう。/丁寧な表現には思えない。 公的な場で使われると分かりにくくていやだ。 よろしくないと思う。 アホ。 無回答 (1)

三河出身者の意見

良い	正式な場でなければよいと思う。
どちらでもない	伝わるのなら問題ないかと。良い点も特にないですが。/きちんと伝わるならいいと思う。 皆が分かる言葉で公の場は伝えることも必要かなと思うから。 悪くはないが共通語の方が良いと思う。/公的な場では、標準語が好ましいと思う。 公的な場面だから。 名古屋らしさを出せるが、公的な場面にはあまり向かないから。 少しでもいい言い方だと思うから。 普通に方言として会話に出る分には違和感を感じない。 気づかずにしてしまうものだと思う。 特に方言ぶさはあまりないと思う。 必要な時は使えばいいと思う(観光PR、地元PRなど)。 個人的に好きではないがそれが文化なら仕方ないかもしれない。 好きにすればいいと思う。/どうでもいい。 無回答(3)
悪い	汚い。/何となく汚い。 丁寧でない。 名古屋に関わりがない人でも理解できるなら可。 分からない人もいるから。/相手に伝わらなかったり、マナーとしては良くないと思う。 名古屋にいればいいと思うが、東京にいるときは名古屋弁をしゃべりたくない。 無回答(1)

県外出身者の意見

良い	親しみやすいから。 恥ずかしいような話し方では無いと思います。 通じる限りはよい。
どちらでもない	程度による。 伝わる言葉であれば、良いと思う。/名古屋市内ならいいんじゃないですか。通じればそれでいいです。/通じればよい。 自分も標準語ではないので、まあいいのでは…と。 名古屋言葉が悪いとは思えない。 それが方言であるから。 普段から使っているなら。 公的な場では標準語を話すのが常識。/公的な場面では公用語を使うべき。 場面によるとおもいます。 特に思わない。/特に気にしない。/あまりきいたことがない。/わからない。/なんとなく。 無回答(6)
悪い	汚いイメージ。/少しきたくない。/他の地方の人が聞くことばが汚い印象を受けると思う。 礼儀が悪そうに聞こえる。 あまり品があるとは思えない。 共通語を話すべき。/標準語の方が通じると思う。/公的な場面では全国の人がわかる言葉で話すべき。

伝わらない。/どういう意味か分からない言葉があるといけないから。 共通語を使うことを拒否する態度は、あまりに内向きで馬鹿馬鹿しくもあると思うから。
--

Q4-2 では「どちらともいえない」が「悪い」を上回るものの、「良い」と評価するインフォーマントは少数派で、やはりそれほど好ましい態度とは思われないようである。また、Q4-2 の結果では Q4-1 と同様に「汚い」から、とする意見も何名かに見られたが、名古屋ことばと「標準語」、共通語は場面によって使い分けられるべきものであり、私的な場面で名古屋ことばを話すことはよいが、公的な場面で名古屋ことばはその場面に相応しくない、とする意見がここではより多く回答された。

2.3. まとめ

本章では、名古屋の大学生に対する意識調査から、現在の名古屋ことばの実態を示した。

まず、Q2-1 の結果では、名古屋・尾張出身者は、名古屋ことばの使用意識のあるインフォーマントが大多数であった。このことから、彼らは自分が名古屋ことば話者であることを自覚している可能性が高いといえる。また、高年層との比較によっては、このような言語意識には世代差があることが明らかにになった。

さらに、イメージに関する調査結果からは、名古屋ことばがマイナスイメージによって語られることが多いことが分かった。また、これを分析することで、彼らが下町ことばをベースとした名古屋ことばを「名古屋ことば」として認識していることを間接的に確認できた。

続く Q4-1 の調査結果からは、河村氏の名古屋ことば使用が主にマイナスに評価されること、そして、彼の名古屋ことばと名古屋の大学生の認識する名古屋ことばが異なるものであることが分かった。

3. 結論

現代は、人々の言語使用能力としては共通語にその優位性があるものの、「方言」はプラスのものとして価値評価されているといわれる。筆者の意識調査によって明らかになった、名古屋の大学生の名古屋ことば使用に関する意識の高さは、「自分は『方言』を話す」ということを表明しやすいこのような状況に沿ったものであるといえる。

その一方で、彼らの意識と実践に乖離がある場合も存在する。筆者は「気づかない方言」の概念に着目して、これを名古屋ことばにあてはめた。現在の名古屋ことばにおける「気づかない方言」とは、話者同士や、話者ではないよそからの視線がそれぞれ認識している、名古屋ことばの姿と実践の違いから生まれるものであると考える。しかし、「方言」を体系として論じるにあたっては、先行研究で紹介した断片的な「気づかない方言」だけでなく、体系的な「気づかない方言」についても論じる必要がある。

筆者は、名古屋ことばについて体系的な「気づかない方言」が発生する要因として、次のようなことが挙げられると考えた。

まず 1 点目に「方言」全般を通していえることは、現代において、人々が「方言」と共通語のバイリンガルであるということである。さらに、「方言」は一人に一つではなく、一人の話者が複数の「方言」を操ることもありうる。ネオ方言の形成で論じられるように、「方言」と共通語の両方を話すバイリンガルの人々はこれらを完全に分けて使用するわけではない。したがって、話者本人は共通語を話しているつもりであってもその実践が名古屋ことばである場合があり、これは体系的な「気づかない方言」であるといえる。

2 点目は、名古屋ことば話者は名古屋圏との結びつきが強いことから、彼らが実践する名古屋こと

ばと他のことばとの違いに気づく機会が、他地域の「方言」話者に比べて少ない、ということである。さらに、名古屋出身者と尾張出身者を比較すると、より後者の方にこの傾向があることが推測される。つまり、彼らの方がより体系的な「気づかない方言」を実践している可能性が高い。

3点目は、名古屋ことばは近世以降、言語的に大きく変容したことから、「伝統的な」名古屋ことばと現代の名古屋ことばは異なるものであり、それらに対する態度は人によって様々であることである。高年層の人々について、彼女らが認識する「名古屋ことば」は純粋な上町ことばであった。そして、これは高年層の実施で既に混じっているため、彼女らは名古屋ことばの使用意識が低い。

これに対して、大学生世代の名古屋ことば話者にとって、彼らが認識する「名古屋ことば」は下町ことばをベースとしたものであり、高年層が話す度合いの高いものも、自身が話す度合いの低いものも、両方が含まれる。ただし、河村氏が話す度合いの高い名古屋ことばは、パフォーマンスとしてわざと度合いを高く話しているという点で「偽物」の名古屋ことばであると判断される。彼らの実践といえる度合いの低い名古屋ことばについて、これを体系としてみると、共通語と度合いの高い名古屋ことばとが混じり合ったネオ方言であると筆者は考える。そして、そこには、先行研究で論じられる新方言や「気づかない方言」といった、断片としての「方言」も含まれている。

以上のことを整理すると、「名古屋ことば」というラベルが貼られたことばの容器の中身は、世代によって、また話者によって様々である。したがって、自分が「名古屋ことば」として認識するその姿と他者の認識するそれが、異なっている場合がある。体系的な「気づかない名古屋ことば」の発生要因の3点を通して見ると、名古屋の大学生世代は、体系的な「気づかない名古屋ことば」に比較的気づきやすい状況に置かれているといえよう。

大学生という若い世代にこのような言語状況が論じられるならば、体系的な「気づかれない方言」は今後なくなっていくのか、という問いが立てられる。筆者はこれについて、名古屋ことばを取り巻く環境が変化する以上、ことばも変容を続け、常に新しい体系が生じさせる可能性を持っているため、今後、体系的な「気づかない名古屋ことば」がなくなるとは言い難いと考えている。

参考文献

- Joan Swann, Ana Deumert, Theresa Lillis & Rajend Mesthrie (2004) *A dictionary of sociolinguistics* Edinburgh University Press
- 井上歩(2017)『河村たかしは言語政策をしているのか—河村たかし名古屋市長への「聞き書き」による言語意識調査—』名古屋市立大学人文社会学部国際文化学科 2016 年度卒業論文
- 井上史雄(2003)『日本語は年速一キロで動く』講談社現代新書
- 井上史雄(2007)『変わる方言 動く標準語』ちくま新書
- 井上史雄(2008)『社会方言学論考—新方言の基盤—』明治書院
- 芥子川律治(1971)『名古屋方言の研究—江戸時代編—』泰文堂
- 佐藤亮一監修(2002)『お国ことばを知る 方言の地図帳』小学館
- 真田信治(2000)『脱・標準語の時代』小学館文庫
- 真田信治(2002)『方言の日本地図 ことばの旅』講談社
- 真田信治(2004)「ネオ方言はどのように生まれるのか」岩波書店編集部編『フィールドワークは楽しい』岩波ジュニア新書
- 真田信治(2005)『都道府県別気持ち伝わる名方言 141』講談社+α 新書
- 真田信治(2006)『社会言語学の展望』くろしお出版
- 篠崎晃一(1996)「気づかない方言と新しい地域差」小林隆・篠崎晃一・大西拓一郎編(1996)『方言

の現在』明治書院

戸松優芽（2016）「名古屋ことば研究 高齢層編 名古屋ことばに対する認識の縦の変化」名古屋市立大学人文社会学部国際文化学科 佐野直子研究室『ことば研究年報』第3号 HIME 企画

名古屋大都市圏研究会編（2011）『新版図説名古屋圏』古今書院

成田徹男（2013）「名古屋のことば」山田明・吉田一彦編『名古屋の観光力』風媒社

日本国語大辞典第二版編集委員会・小学館国語辞典編集部編（2001）『日本国語大辞典第二版第十一卷』小学館

林上（2016）『名古屋圏の都市地理学』風媒社

舟橋武志（2005）『名古屋弁の構造』ブックショップマイタウン

松本小奈津（2017）『名古屋ことばコスプレ化の可能性』名古屋市立大学人文社会学部国際文化学科 2016 年度卒業論文

南裕美（2007）『移り変わる方言意識—東海地方の大学生の意識を中心に—』名古屋市立大学人文社会学部国際文化学科 2006 年度卒業論文

山田明（2013）「名古屋の観光まちづくり」山田明・吉田一彦編『名古屋の観光力』風媒社

卒業論文へのコメント

今年度の佐野ゼミにおいて、「名古屋ことば」を中心としてそれぞれの卒論のテーマを設定した際、北森論文は大学生がどのような「名古屋ことば」意識を持っているかを問いた。筆者自身は名古屋の出身でない一方で、同期生たちが「名古屋ことばを話していない」という意識を持っているのでは、という問題意識が出発点であった。しかしその2回にわたる質問紙調査の中で、大学生たちはむしろ積極的に自身が「名古屋ことばを話している」と自己申告することが明らかになる。「方言」に対する意識やその使用のあり方が大きく変化している中で、本論文は変容の最前線ともいえる若者の方言使用の意識調査という、非常に難しいテーマに挑むことになった。

まず「名古屋ことば」それ自体の不安定さ、すなわち江戸時代に形成された階層性の高いことばの中でもっとも下層のことばであった下町ことばのみが現在まで生き残り、大都市であるがゆえの混淆も起きていながら、名古屋圏の住民自身がそれほど移動を経験しないがゆえの言語意識のうすさを指摘する。そして、「方言」が方言学の中でどのようにとらえられてきたか、その変容を大量の先行研究から丁寧に追ひ、都市化流動化する生活の中でもそれぞれの地域独自のことばの使用があることを考えるための「ネオ方言」、「新方言」、「気づかない方言」などの概念が紹介される。

そして、それを実際に 170 人ほどの名古屋の大学生に対して実施した質問票調査の分析に利用しようとするが、若者の極めて不安定で多様な「名古屋ことば」意識は、確証の持てないことは言わない、という筆者の徹底した慎重な姿勢とある意味相容れないところもあり、その分析に非常に苦しむことになった。全体としても問題意識がやや拡散してしまったきらいもある。質問票が自由回答欄が多かったがゆえに、統計的な傾向というよりも、その「多様さ」「変容」が強く反映されたこともあるだろう。しかしその分、若者が非常に自覚的な「名古屋ことば」意識を持ちつつある一方で、その意識がグラデーションになっていること、反発も愛着もある一方で「当たり前」の存在でもあること、さらに名古屋ことばへの知識・意識がかなりメディアの言説とも関係していることが感じられ、現在の若者の「名古屋ことば」意識の複雑さの一面をかいま見ることができたことはとても興味深い。文章はやや冗長なところもあるが非常に丁寧で、文献引用も的確である。

「気づかない方言」はむしろ続いていく、という著者の結論にははっとさせられた。「方言」とは、現在、記述化から漏れ落ちるような「人びとが話すという事実」を包括的に示す概念になりつつあるということであろう。（佐野直子）

名古屋ことばコスプレ化の可能性

松本小奈津

本論文は、田中の提唱する「方言コスプレ」をベースに、名古屋ことばの語られづらいイメージについて、メディア（新聞記事、ツイッター）における言説の調査を行い、名古屋ことばのコスプレ化の可能性を検討するものである。

第1章では、「方言コスプレ」について解説を行った。田中によると、「方言コスプレ」とは、特定のキャラクターを担う方言を一時的に着脱する行為である。方言がコスプレされるには、特定のイメージとの密接なつながりが必要であった。続く第2章では新聞記事、第3章ではツイッターにおいて、名古屋ことばについて言説分析を行った。第2章の新聞記事における調査では〈名古屋弁〉〈名古屋ことば〉を含む記事の内容を考察し、文字の名古屋ことばと音声の名古屋ことばでは、ポジティブなイメージまたはネガティブなイメージをうける頻度が異なることを発見した。第3章のツイッターにおける調査では名古屋ことばを他地域のことばと比較し、名古屋ことばの特徴を探った。その結果、名古屋ことばの話者による「迷い」の態度が明らかになった。

以上の結果を受けて、名古屋ことばのコスプレ化の可能性を検討した。第2章、第3章で行ったメディア調査において、イメージ定着の前段階である名古屋ことばの断片化が観察されたため、名古屋ことばはコスプレの前段階にある、という結論に至った。

0. 序論

1. 方言の価値観の変遷と「方言コスプレ」
2. 新聞記事における名古屋ことばイメージ調査
3. ツイッターにおける現在の名古屋ことばの使用実態についての調査
4. 結論

0. 序論

テレビ、ラジオ、雑誌、土産物など、日常生活において生育地から遠く離れた地域のことばを見聞きする例を挙げていけば、枚挙にいとまがない。共通語の普及に伴う言文一致運動により、方言の使用に対する弾圧が行われていた時代を振り返れば、ここ半世紀で方言に対する価値観は大きく転換した。

そのなかで筆者が注目したのは、いくつかの方言に対して特定のイメージが付随している点である。

「京都弁はモテる」「博多弁はかわいい」¹といったフレーズを見かけたことはないだろうか。このイメージはテレビ・雑誌を代表とするマスメディアによって、多くの人々の間で共有・使用されている。さらにはそのイメージの発動を目的に、生育地とは関係のない方言を会話に織り交ぜる行動が確認でき、田中ゆかりはそのことを「方言コスプレ」であると定義付ける（田中, 2011）。

本論文では、筆者の出身地である名古屋を中心に話されているであろう「名古屋ことば²」に注目する。京都弁、博多弁等の方言への非常にポジティブなイメージに対して、名古屋ことばは「下品」「汚い」などネガティブなイメージとともに述べられることが多い。しかしその一方で、名古屋ことばがメディアや商業分野と結びつき、様々な方法で発信されているのもまた事実である。名古屋ことばのもつこの二面性の正体を明らかにした上で、名古屋ことばのコスプレ化の可能性を検討することを本論文の目的とする。

そのために、第1章では「方言コスプレ」について、「方言のおもちゃ化」との関連を中心に田中ゆかりの議論をもとに解説する。そのうえで、現在の名古屋ことばのイメージがどのようなものなのか明らかにするために、第2章では新聞記事において、名古屋ことばがいつ、どのようなかたちで使用され、どう語られるのかを検証し、第3章ではツイッターにおいてつぶやかれる名古屋ことばの特徴を、他地域のことばと比較し分析する。以上の調査を踏まえたうえで、結論では、「名古屋ことばはコスプレし得るか」について、筆者の見解を述べる。

1. 方言の価値観の変遷と「方言コスプレ」

本論文の目的は名古屋ことば³のコスプレ化の可能性を検討することである。そのためにまず本章では、本論文の基軸である田中ゆかりの提示する「方言コスプレ」についての概要を説明したのち、「方言コスプレ」が行われるための条件を確認する。

田中ゆかりの「方言コスプレ」論を含む、現在の方言の特殊性を理解するために、まず辞書における方言の意味を確認する。

方言…1、一定の地域社会に行われる言語。一つの国語が地域によって別々な発達をなし、音韻・文法・語彙などの上で相違のあるいくつかの言語圏に分かれたとき、それぞれの地域の言語体系という。

2、共通語・標準語に対して、ある地方で用いられる特有の言葉。俚言。

3、特定の階層に使われる独自の言葉。隠語、俗語。

（『デジタル大辞泉』、小学館）

（1）（2）にあるように、方言の地域性が強く示されている。ここには、方言が生育地を離れ様々な分野で使用されることに対する記述はみられない。

¹ 「キュンと来ない男子はいない！女子が使うと可愛い方言集めました♡」 mery <http://mery.jp/103426>

（2016/10/11 取得）において男性からの人気が高い方言として京都弁、博多弁、広島弁、大阪弁が挙げられている。また、「方言女子はモテる！方言がかわいい都道府県ランキングや方言女子の魅力を大公開！」 welq <https://welq.jp/10756>（2016/10/11 取得）においても女子の方言がかわいいランキング 1位 京都府、2位 福岡県、3位 大阪府、4位 東京都、5位 青森県、6位 広島県と紹介されている。

² 第1章に明記。「名古屋を中心に話されていることば」の総称として使用。

³ なお、広く使われている呼び方が「〇〇弁」であるのに対し、本論文においてはそれらを排除するために、すべての方言の呼称を「〇〇ことば」に統一して論を進める。

1.1. 方言価値観の転換

方言に撲滅の時代が存在し、標準語との中立期を経て、娯楽の時代に突入したことは、名古屋ことばプロジェクト概要において、すでに解説した。ここでは、方言が娯楽としてとらえられるに至った、1980年のターニングポイントに関して、より重点的に解説を行う。

1980年代の方言の価値観の転換は、方言を個性と捉える価値観の浸透から始まった。方言大会や方言講習会など方言話者が自ら方言をコンテンツとして楽しむ企画や、方言を売りにする企画が立ち上がり、さらにそのことがメディアによって肯定的に報道されるようになった(田中, 2011, p. 58)。

そして2000年代には、「方言ブーム」が始まった。この方言ブームの際に顕著であった行為の1つが、本論文で扱う「方言コスプレ」である。田中は、この方言ブームは、新たな価値観の付与によって引き起こされたと指摘する。

二〇〇〇年代の記事の特徴として、「方言コスプレ」を例とした「方言」をはやりとしてとらえるものが目立つことが指摘できる。「方言」を「遊び」「おもしろいもの」として取り上げており、そこには一九七〇年代にはみられた「方言」を娯楽とすることに対するネガティブな記事や投書⁴はみられない。「方言」が価値あるものという位置づけが確立され、それを「おもしろいもの」「かっこいいもの」として認識・受容する「方言おもちゃ化」が一般の感覚として受け入れられてきたことが分かる。

(*ibid.*, p. 62)

田中はこの、方言を娯楽ととらえる価値観が、1990年代には既にある分野において認められ始めており、2000年代の方言ブームへとつながる大きな橋渡しとなっていたことを指摘する。このある分野というのは、「打ちことば」である。

打ちことばとは、インターネットや携帯メールをはじめとする電子機器を媒体とした新しいコミュニケーションツールであり、1990年代以降に普及した。打ちことばは、音声を伴う対面のコミュニケーションに比べ、イントネーションやアクセントに留意することなく使用できるため、生育地ではない「ニセの」方言を娯楽として使用する方言のおもちゃ化とは非常に相性が良いといえる。

打ちことばが普及する1990年代以前の、人々が方言と共通語のバイリンガルであった時代においては、より公的な共通語に対して、方言は「くだけた話しことば」として機能していた。この方言の使用と、「親密さ」とのつながりがあったために、1990年代に打ちことばが普及した際には、親密さを表現するために逆説的に方言の使用が活発に行われた(*ibid.*, pp. 14-15)。打ちことばによって使用が安定した方言のおもちゃ化は、テレビなどのメディアや創作物に広く取り上げられ、のちの「方言コスプレ」を引き起こした。

1.2. 「方言コスプレ」とその条件

先述したように、方言のおもちゃ化によって引き起こされた方言ブームの1つが「方言コスプレ」である、というのが田中の指摘である。「方言コスプレ」に関して田中は以下のように解説している。

話し手自身が本来身に着けている生まれ育った土地の「方言」(生育地方言)とは関わりなく、日本社会で生活する人々の頭の中にあるイメージとしての「〇〇方言」を、その場その場で演出しようとする

⁴ 例として「「方言がはずかしい」友達でさえ老夫婦自殺 八幡」(1972年1月16日 西日本新聞)「就職試験と方言コンプレックス」(1976年10月26日 朝日新聞「天声人語」)が挙げられる(田中, 2011, p. 52)(表記において筆者による修正あり)

るキャラクター、雰囲気、内容に合わせて臨時的に着脱することを指している。

(*ibid.*, p. 3)

キャラクターを一時的に着脱するという従来のコスプレにおける行為を、ことばにおいて実行するのが方言コスプレである。ここに示されるのは、方言がキャラクター化したということであり、「方言おもちゃ化」との大きな違いはこれである。

方言のおもちゃ化と方言コスプレは、生育地の方言かどうかが使用に関係ない点では共通しているが、方言を娯楽としてとらえるというだけの方言おもちゃ化とは異なり、ある方言が方言コスプレとして使用されるには、「人々の頭の中にある特定のイメージ」の付随が条件といえる。よって、方言であればすべてが「コスプレ」として着脱されるわけではない。方言コスプレは、非常に限られたいくつかの方言にのみ見える現象なのである。

また、コスプレされうる方言は、本来の方言とは切り離され、人々のイメージを再現する程度のイントネーション、語彙、アクセントのみで構成される。このことについて田中は以下のように述べる。

「方言コスプレ」で用いられることばは、ホンモノの「方言」である必要は、何重もの意味においてない。まず、話し手自身の育った土地の方言である「生育地方言」である必要もないし、「〇〇弁」や「△△方言」といっても使用される際にその正確さが要求されるわけでもない。もっといえば、ホンモノの「方言」に触れたことがあるか、知識があるのかさえ問われない。多くの人が、「〇〇弁」や「△△弁」として共有する「らしさ」が感じられればよいのである。

(*ibid.*, p. 4)

ここまで、田中の提示する「方言コスプレ」についての解説を行った⁵。本論文において重要な見解は(1) 方言と共通語のバイリンガルであった時代に方言が「くだけたはなしことば」として機能していたために、のちに「親密さ」を表現するツールとなっていたこと(2) 方言で「遊ぶ」価値観が浸透したこと(3) 方言をコスプレするには、一定のイメージとの強い結びつきが要求されるという点である。

2. 新聞記事における名古屋ことばイメージ調査

ここまで、方言の価値観が転換から、方言コスプレに至るまでの経緯を確認した。本章からは、名古屋ことばプロジェクト概要で解説した情報を踏まえ、名古屋ことばのイメージ調査を行う。イメージ調査の対象として、マスメディアの1つである新聞記事を選択した。2015年10月時点で55,364,197世帯のうち44,246,688世帯が新聞を購読しており、これは1世帯に0.8部の割合で新聞が読まれていることになる⁶。発行刊数、かつ購読者が多いことに加え、取り扱う情報量も膨大であり、様々な分野にわたって調査を行うことができるために、調査媒体として適切である。

⁵ 同じく共通語をベースに方言の着脱を遊ぶ用法に「方言のアクセサリー化(小林, 2004)」と呼ばれるものもあり、広義ではともに方言の一時的な着脱を楽しむという同じ行為のことを指すが、「アクセサリー」とあるようにこれは方言に一定のキャラを持たせる段階を踏んでいない。断片化した方言を共通語につける「だけ」の行為であり、狭義では方言コスプレとは異なる。これを方言コスプレ発生の前段階と捉えることも出来る。

⁶ 日本新聞協会経營業務調べ <http://www.pressnet.or.jp/data/circulation/circulation01.php> (2016/12/29 取得)

2.1. 新聞調査 概要

数ある新聞社の中でも、東海三県において購読数の多い中日新聞（発行部数：2,453,410 部/日⁷）と、全国紙である朝日新聞（発行部数：10,797,295 部/日⁸）において調査を行う。調査期間は、2000年1月1日から2016年9月31日に刊行されたものとする。本調査は名古屋ことばのコスプレ化の可能性を探ることを目的として行うため、より「現在の」名古屋ことばのイメージを考察することが望ましい。よって、以降に行う調査の結果次第では、より適切な調査を行うために、調査期間は適宜変更する。

調査にあたってまず、〈名古屋弁/なごやべん〉と〈名古屋言葉/名古屋ことば/なごやことば〉の2種類の表記があることに注目し、表記のゆれについて数的な調査を行う。そののちに、名古屋ことばのイメージへ言及するような記事を抽出し、分析を行う。

2.2. 名古屋ことばの表記のゆれ

新聞記事において、名古屋ことばを指す呼称は、1つではない。本論文においては「名古屋ことば」を採用しているが、一般的な「名古屋弁」に加え、「名古屋ことば」の呼称も新聞記事に使用される。

まずはじめに、なぜ呼称が複数あるのか、いつからあるのか、また、法則があるとするならば、どのような場合に使用されるのかを分析する。

そのために、朝日新聞と中日新聞において、〈名古屋弁/なごやべん〉と〈名古屋言葉/名古屋ことば/なごやことば〉を含む記事を新聞社ごとに抽出した（表1）。

表1 朝日新聞と中日新聞における〈名古屋弁/なごやべん〉〈名古屋言葉/名古屋ことば/なごやことば〉の記事数

	名古屋弁	なごやべん	名古屋言葉	名古屋ことば	なごやことば
朝日新聞	437	0	8	14	1
中日新聞	900	0	14	34	0

※縦軸…新聞社 横軸…検索ワード

広く一般的に認知されている〈名古屋弁〉の使用が最も多いものの、〈名古屋言葉/名古屋ことば〉の使用も少なからず確認できる。

さらに、〈名古屋弁〉〈名古屋言葉/名古屋ことば〉の3つの呼称に絞り、新聞社ごとの使用回数の内訳を、年別にそれぞれの表にまとめた（表2、表3）。

表2 2000年から2016年の朝日新聞における〈名古屋弁〉〈名古屋言葉〉〈名古屋ことば〉を含む記事数（年別）

年	名古屋弁	名古屋言葉	名古屋ことば	合計
2000	26	1	0	27
2001	28	0	0	28
2002	27	0	0	27
2003	19	0	0	19
2004	30	0	0	30
2005	33	0	0	33
2006	27	2	0	29

⁷ 中日新聞ホームページ <http://www.chunichi.co.jp/annai/press/>（2017/1/10 取得）

⁸ 朝日新聞の発行部数と販売エリアより <http://adv.asahi.com/2012/004.pdf>（2017/1/10 取得）

2007	22	0	0	22
2008	17	0	0	17
2009	50	1	6	57
2010	31	0	5	39
2011	15	0	0	16
2012	26	1	0	30
2013	15	0	0	16
2014	16	2	2	20
2015	14	1	1	14
2016	9	0	0	9
合計	435	8	14	457

表 3 2000 年から 2016 年の中日新聞における〈名古屋弁〉〈名古屋言葉〉〈名古屋ことば〉を含む記事数（年別）

年	名古屋弁	名古屋言葉	名古屋ことば	合計
2000	52	0	0	52
2001	50	0	0	50
2002	60	1	0	61
2003	46	2	0	48
2004	61	0	0	61
2005	73	0	0	73
2006	63	0	0	63
2007	52	0	0	52
2008	31	1	1	33
2009	80	4	17	101
2010	69	2	11	82
2011	35	0	0	37
2012	41	2	0	43
2013	32	1	4	46
2014	23	0	1	28
2015	57	1	0	60
2016	21	0	0	28
合計	852	14	34	900

表 2、表 3 からは、朝日新聞・中日新聞ともに、2009 年に名古屋ことば自体に対する注目度がそれまで比べ高くなるとともに、〈名古屋言葉/名古屋ことば〉が使用されはじめたことが確認できる。

この 2009 年とは、河村たかし氏が名古屋市長に初当選を果たした年である（以後河村市長）。彼が同年 4 月 27 日の名古屋市長選挙にむけての街頭演説を名古屋ことばで行い、多くの人々の注目を集め、メディアを賑わせた。河村市長が公の場で名古屋ことばを使用することに対しては、否定的な意見が多い。そのことを知りつつも、名古屋ことばを使用し続ける河村市長は、自身の言語意識についてこう語る。

『汚い名古屋弁使うな』とか『品がない』とか言われたが、言語は生き方そのもの。わしはこれから『名古屋ことば』を貫きますよ。やめれーせん。これから名古屋が庶民革命をやって、東京、大阪に勝とうというとき、言葉への自信を確立せないかん。

(2009年4月27日中日新聞朝刊 朝刊名古屋版16頁)

また、河村市長は、一般的な呼称である「名古屋弁」でなく、「名古屋ことば」を使用している。これは恣意的なものではなく、明確な理由を伴うことが、自身の公式なツイッターアカウントにおいて述べられていた。

標準語 なる言葉は 差別用語 との説あり なぜ 伝来の言葉を 標準化せななんのか かといっ
て通じんといかんもんで 「共通語、なんとかことば」の表現が ただしいんだぎゃあ

(河村たかし ツイッターより 2016/11/1 取得)

河村市長は、自身の公約に名古屋ことばの復権を掲げるが、その公約における表記も「名古屋ことば」である。こういった河村市長の言動や政策に付随するように、新聞記事における〈名古屋ことば〉の使用がみられるのも、2009年を皮切りにしてのことである。

この結果を受けて、筆者が調査したところ、〈名古屋ことば〉が使用されている記事には、ほぼすべてに河村市長が登場した。特に朝日新聞においては、〈名古屋ことば〉が使用されるすべての記事に河村市長が登場した。中日新聞では、河村市長に関するトピック以外にも〈名古屋ことば〉が使用されるが、観光やみやげものの領域に限定されていた。

このことから、〈名古屋ことば〉が河村市長に対して、非常に意図的に使用されているといえる。しかし、うらをかえせば、〈名古屋ことば〉はいまだ河村市長のカテゴリーから抜け出せないでいることになる。表2、表3に示されるように、〈名古屋ことば〉の使用頻度を鑑みても、恒常的な使用には至っておらず、現時点では〈名古屋弁〉に代わり得る呼称とはいえない。

このように、2009年が名古屋ことばの変遷において新しいタームへ入るひとつのターニングポイントであったとすると、以降の調査には同年以後の記事を追うことで、名古屋ことばの現在の姿をとらえることができるとしてよいのではないだろうか。

2.3. 新聞記事における名古屋ことばのイメージ調査

ここまで、〈名古屋ことば〉と河村市長との密接なつながりを明らかにした。したがって、ここからは、大半を占めている〈名古屋弁〉のみに絞り、名古屋ことばに対する好意的なイメージを述べるものと、否定的なイメージを述べるものを抽出し、考察を行う。

調査対象としたのは、2009年1月1日から2016年9月31日の朝日新聞、中日新聞の記事のうち、〈名古屋弁〉を含むものである。これにあてはまる記事は朝日新聞に176件、中日新聞に346件であった。

2.3.1. 名古屋ことばのイメージに言及する記事の考察

調査対象とした記事のうち、名古屋ことばのイメージへ言及する記事のみを抽出し、新聞社ごとにまとめた(表4、表5)。これらは、名古屋ことばのイメージに直接的な影響を及ぼすものである。なお、以降の考察にて使用するため、記事には記号をふった。

表 4 名古屋ことばに対する直接的な評価をする記事【朝日新聞】

記号	日付	内容
a	2009 年 04 月 03 日・朝刊・オピニオン 2	河村さんに望むもの。それはことばの品格です。～中略～（河村市長の）選挙での第一声が「どえりゃあうれいいですわ。皆さんが期待しとるでよう。これ、やらなんたら堀川でも名古屋港でも沈めてちょう、言っとるんだわ」。かつてのカレーライスの CM 以降、 <u>汚い名古屋弁</u> 、大衆におもねる名古屋弁が横行しだしたかに思えます。
b	2009 年 07 月 29 日・朝刊・生活 1	「私は名古屋で生まれ育った生粋の地元っ子。日常生活のほとんどの場面でごく普通の名古屋弁を使っています。名古屋弁は <u>泥臭いとか汚い</u> とかよく言われますが、私にしてみれば郷土の愛すべき言葉です。」
c	2009 年 12 月 07 日・朝刊・名古屋・1 地方	4 月の選挙中にも、「（河村市長の）言葉が <u>汚い</u> 」との批判が相次いだが、（市長は）名古屋弁で貫き通した。
d	2012 年 04 月 12 日・朝刊・淡路・1 地方	名古屋弁は「ぎゃあとか、みゃあとかうるさい」
e	2012 年 11 月 29 日・夕刊・be1	端正な線がかかれたまじめでハンサムなフラーと、ミソ味や地元デパートに執着し、国際都市になりきれないコンプレックスを抱え、「みゃあみゃあ」しゃべる <u>泥臭い人</u> として描かれた名古屋人とのギャップが、笑いを誘う。
f	2010 年 05 月 09 日・朝刊・名古屋・1 地方	「河村・名古屋市長、説明不足」元支援団体代表ら座談会／座談会 ～中略～浅井氏は、「（河村市長は）結論に達した理由をしゃべるのが下手。理由の一つは市長の名古屋弁にもあると思う。方言は文化的には素晴らしいが、情緒的な言葉で論理的な話をするには向かない。『間違っとうる』と言われると、どうして間違いなのかという理念が飛んでしまう」との持論を展開した。
g	2014 年 11 月 09 日・朝刊・名古屋 a + C 4 面	また、名古屋市が 09 年に行った市政アンケートで「名古屋弁に対するイメージ」を尋ねたところ、20 代と 30 代は「汚い」が 4 割超でトップ。「田舎的」という回答もあり、特に若い世代の評価が否定的であることがわかった。
h	2009 年 05 月 21 日・朝刊・オピニオン 2	名古屋にも（東京のように）山の手や下町言葉があるのだろうか。時々、子供のころに聞いた料理旅館の女将（おかみ）と隠居した女将の対話を思い出す。今の名古屋弁を駆使するテレビタレントや市長さんとはちよつと違って、 <u>まるやかでふくらみがあり、その上リズム感がある言葉だった</u> ように記憶している。
i	2010 年 02 月 09 日・朝刊・オピニオン 2	名古屋弁は、400 年の歴史が磨き上げた誇りと品格のある言葉です。「そうだなも」「ちよーでやあよ」「やっとかめだなも」は、まさに名古屋弁です。本来、 <u>人を包み込み、いたわるような温かみのある響きのある、上品な「なもなも言葉」</u> です。地域によって、アクセントなどが異なるようにも思います。
j	2010 年 04 月 10 日・夕刊・1 総合	名古屋弁は何となく「 <u>汚い</u> 」というイメージがあるのはなぜか。名古屋市出身の安文吉・南山大学教授（64）＝近代文学＝は「仲間同士の内輪の言葉と余所行きの丁寧な言葉の使い分けが誤っているから」と指摘する。～中略～江戸時代の共通語、古語が今に生きているのも特徴。「米を研ぐ」ことを「米をかす」が代表的。「ようけ」「ぎょうさん」など京ことばや、「失礼します」のことを「御無礼します」と言うなど武家言葉も入っている。「名古屋弁は、 <u>上品で温かみのある言葉なんですよ</u> 。」
k	2010 年 06 月 20 日・朝刊・テレビ 1	名古屋の元気なおばちゃん 4 人組が主人公の人情ミステリー。原作は名古屋出身の清水義範の小説。4 人が男優を演じると聞いて身構えたが、個性派キャストの自然体の演技に引き込まれた。～中略～謎解きのスリルよりも、おばあちゃん 4 人のはじけぶりが魅力。「やっとかめ（ひさしぶり）」「わきゃあもんが（若者が）」といった、 <u>名古屋弁の響</u>

		<u>きも温かい</u> 。
l	2011年01月25日・朝刊・1社会	名古屋弁の <u>親しみやすさ</u> が生み出す好感

表5 名古屋ことばに対する直接的な評価をする記事【中日新聞】

記号	日付	内容
m	2009年04月27日・朝刊・朝刊市民版	激しい選挙戦を制して新市長に選ばれた河村たかしさん(60)は26日、中日新聞のインタビューに応じた。圧勝となった要因について、「庶民の勝利」と高らかに宣言。～中略～今回の争点の一つになった。「汚い名古屋弁使うな」とか「品がない」とか言われたが、言語は生き方そのもの。わしはこれから「名古屋ことば」を貫きますよ。やめれ一せん。これから名古屋が庶民革命をやって、東京、大阪に勝とうというとき、言葉への自信を確立せなかん。
n	2009年05月02日・朝刊・朝刊二社	名古屋市の河村たかし市長は一日、就任のあいさつのため知事公館を訪ね、神田真秋知事と面会した。～中略～会談で河村市長は、「前回知事選で民主党が(対立候補を)ぶつけたから。いろんな運命がある」とわだかまりはないようだったが、互いに皮肉も忘れない。「河村さんの名古屋弁は品がないという声をよく聞く」(知事)「言葉にきれい汚いがあるのか」(市長)
o	2009年05月03日・朝刊・朝刊二社	選挙中、支援者から「 <u>言葉が下品</u> 」などと批判されても、貫いた河村市長。「歴史やアイデンティティーを考える突破口になる」と話している。
p	2009年06月01日・朝刊・朝刊二社	名古屋市の河村たかし市長が就任してから、河村市長あての声が二百件以上も寄せられている。～中略～名古屋弁は「 <u>聞き苦しい</u> 」「 <u>もうちょっときれいにしゃべって</u> 」などだった。
q	2010年01月21日・朝刊・朝刊市民版	名古屋弁をテーマにした討論会が二十日、千種区の千種文化小劇場で開かれた。「名古屋ことばの復権」を目指す河村たかし市長も駆けつけ、「名古屋弁がなぜ汚いと思われるか」などについて四人のパネリストらと話し合った。～中略～会場からは、「 <u>市長の言葉は汚い</u> 」との声も出たが、河村市長は「言葉にきれい、汚いはありません」と反論した。
r	2010年01月25日・夕刊・夕刊一面	「うみゃあジュースの飲んでちょー」などと河村たかし名古屋市長の声が流れる自販機が市内に登場する。人気市長の名古屋弁に目をつけるとは、飲料メーカーも「うみゃあ」こと考えたものだ。～中略～でも、市長の名古屋弁には「 <u>汚いでいかん</u> 」との苦情も。全国の人に「これが本当の名古屋弁」と思われては確かに困る。もうちょっと「うみゃあ」こと、しゃべってもらえんかね、市長さん。
s	2010年01月19日・朝刊・朝刊近郊総合	名古屋市熱田区の老舗うなぎ料理店「あつた蓬莱(ほうらい)軒」の四代目女将(おかみ)で十一日に八十八歳で亡くなった鈴木せき子さんのお別れ会が十八日、中区のホテルで開かれた。～中略～常連の建築業吉野力夫さん(56)＝緑区藤塚＝「おばあちゃん <u>のきれいな名古屋弁は言葉の文化にも貢献した</u> 。」と悼んだ。
t	2010年01月18日・夕刊・夕刊一面	ひつまぶしは、名古屋めしの代表格として、全国的にも名高くなった。商標権を持つ「あつた蓬莱軒」八十八歳の人生を全うした名物女将(おかみ)、鈴木せきこさんは、他店の使用を禁じなかった。おおらかな人だった。 <u>おおらかでやさしい名古屋弁</u> を、ごく自然に使っていた。
u	2010年1月06日・朝刊・朝刊市	『 <u>温かい名古屋弁</u> 宗春かるた完成」かるたを作ったのは企画会社「ポーノプランニング」(岐阜県美濃加茂市)の大野健代

	民総合	表(48)。昨年十一月に岐阜県の方言かるたを発売したのに続く第二弾で、「名古屋でも地域の温かい言葉を残そう」と、一年がかりで作成した。
v	2010年01月21日・朝刊・朝刊市民版	名古屋弁をテーマにした討論会が二十日、千種区の千種文化小劇場で開かれた。「名古屋ことばの復権」を目指す河村たかし市長も駆けつけ、「 <u>名古屋弁がなぜ汚いと思われるか</u> 」などについて四人のパネリストらと話し合った。市の主催で、百八十人が参加した。安田文吉南山大学教授は「 <u>温かみがあって、おおらかでやさしいのが名古屋弁の特徴。歴史的に豊かだった土地柄を表している</u> 」と指摘した。
r	2012年03月24日・朝刊・朝刊市民版	名古屋弁の普及に尽力した中洲大須の老舗うなぎ店「やっこ」の元女将（おかみ）、杉野美代子さん＝享年（87）＝が亡くなった。 <u>名古屋弁が本来持っている柔らかで優雅な語り口の伝承者の死に、関係者からは惜しむ声が上がっている。</u> ～中略～「やっこのおばちゃんの名古屋弁は、 <u>温かみがあつて美しかった</u> 」。杉野さんとともに名古屋弁の普及活動に取り組んだ大須演芸席亭の足立秀夫さん（78）は振り返る。
x	2012年09月25日・朝刊・朝刊県内総合	中日くらし友の会（石田千尋会長）の公開講演会が二十四日、名古屋市中区の中日新聞本社で開かれた。南山大文学部教授の安田文吉さんが、会員や一般の参加者七十五人を前に、名古屋弁と名古屋の食文化について講演した。 「なごや飲食（おんじき）夜話」（中日新聞出版）の自著をもとに話した安田さんは、名古屋弁について「 <u>汚い言葉といわれるが、温かみがあるし、丁寧でまろやか</u> 。『にいさま』『ねえさま』のように相手と呼ぶのに必ず『さま』をつけて尊敬もする」と、その味わいを指摘。
y	2016年07月20日・朝刊・朝刊カルチャー	本誌朝刊の政治漫画作者で名古屋市出身の佐藤正明さん（67）が、地元の方言に迫るエッセ一本『名古屋弁』（風媒社）を刊行した。「きもい（窮屈）」「こっすい（ずるい）」など百五十語以上を紹介。意味や語源について、政治漫画歴三十年の風刺力で語り尽くす。～中略～「タモリさんがネタにしたくらいだから、名古屋弁自体が <u>面白い</u> のは間違いない」と佐藤さん。

新聞記事において、名古屋ことばのイメージは、上記にまとめたもののほかにも、様々な方法で示される。たとえば、人物の発した名古屋ことばをそのまま名古屋ことばで表記するものや、名古屋ことばで書かれた商品を紹介するものなどが記事にされたとする。そのような記事は、たとえイメージに対して言及する単語をともなわなくとも、新聞社によって、名古屋ことばの使用が「好意的」に受け取られていると捉えることができる。つまり、名古屋ことばが使用されたという事実が記事にされた時点で、読み手は、名古屋ことばが好意的に受け取られていると判断することができる。

これらの記事は、好意的な態度を、間接的に表現するものとして、名古屋ことばのイメージに影響しうするため、考察に値する。よって、3.3.2.では好意的な態度を間接的に表現する記事を抽出する。

なお、これと同様に、人物の発した名古屋ことばが標準語に修正されていた場合は、新聞社が、読み手が名古屋ことばの使用を「否定的」に受け取ると予測したか、あるいは名古屋ことばが不適切であると判断されたとみなすことができる。3.3.3.では否定的な態度を間接的に表現する記事を抽出する。

2.3.2. 名古屋ことばへの好意的な態度を間接的に表現する記事

まず、名古屋ことばへの好意的な態度を間接的に表現する記事を抽出したい。

そのために、調査対象とした記事の中から、(1)人物のセリフが名古屋ことばで表記される記事(2)文字で書かれた名古屋ことばが、そのまま表記されている記事(3)見出しに名古屋ことばが使用されている記事を抽出した(表6)。さらに、その一例を表7にまとめた。

表6 名古屋ことばが使用された実例の数（重複あり）

	(1) 人物のセリフが名古屋ことばで表記されるもの	(2) 文字で書かれた名古屋ことばが、そのまま表記されているもの	(3) 見出しに名古屋ことばが使用されているもの
朝日新聞（全176件）	65件	17件	12件
中日新聞（全346件）	92件	75件	57件

表7 名古屋ことばが使用された記事の一例

	新聞社	内容
(1) 人物のセリフが名古屋ことばで表記されるもの	朝日	「河村流」が、すべてをのみ込んだ。名古屋市の「トリプル投票」は、河村たかし前名古屋市長が思い描いた通りの結果になった。～中略～「政治を変えてくれ、という市民のどえらい期待が実った。歴史的な日だ」。市長選で、「当選確実」の知らせを受けた河村氏は、東区の個人事務所前の大型トラック荷台を解放してつくった「特設ステージ」に立ち、満面の笑みで語った。
	朝日	河村氏は名古屋市議会では公約をめぐって民主党の市議団とは決定的に対立している。それでも、「えりやあすんませんね。長いこと待ってたでやあて。」ときりだす名古屋弁での演説は全国どこへ行っても人気があるため、民主党は愛知選挙区の公認候補への応援演説は求めず、愛知以外の各地での応援を要請するとみられる。
	朝日	「キャッチボールはしていた。ワシが投げると、みんな逃げるんだよ。受ける相手がいない。名古屋弁で言うと、「お前、怖いでよ。ピッチャーやりやあすな。キャッチャーやりやあせ」ってな。「とろいこと言やあすな」て、言い返すけど、投げさせてくれないんだ。
	中日	中部国際空港で格安航空会社（LCC）の国内線が就航した三十一日、ジェットスター・ジャパンの札幌線とエアアジア・ジャパンの福岡線に記者二人がそれぞれ搭乗し、～中略～エアアジアの福岡線では、「しゃちほこりパン」を二百円で販売していた。形は名古屋城の金シャチで、名古屋名物の「小倉トースト」をヒントに小倉あんと生クリームを詰めている。鮮やかな赤色の制服を着た女性客室乗務員が名古屋弁で「みんな買わんとあかんよ」とアピールすると、機内に笑いが起きた。
	中日	名古屋日豪ニュージランド協会（名古屋市中川区）と名古屋姉妹友好都市協会（同市中区）のクリスマスパーティが四日夕、市内のホテルであった。～中略～オーストラリア大使館のニコラス・ケイ等書記官は「名古屋メシはどえりやうみやうそうですね」と名古屋弁で話し、会場を沸かせた。
	中日	開幕初日、プロアマ戦を終えた片山は顔をしかめていた。「歩けているから、取りあえずやる。期待はなし」。2週間前の開幕戦を腰痛で欠場したばかり。本調子には遠いはずが、この日は全選手でただ一人の5アンダー。満面の笑みを浮かべ「和合だから（スコアが）出ることもある。攻め方だけで乗り切れた」と胸を張った。～中略～快晴の汗ばむほどの陽気の中で、スコアを伸ばすたびに歓声が上がった。「名古屋のファンは天候に負けないほど暖かい。どえりやあ湧きましたね。」名古屋弁のリップサービスも和合への愛着を感じさせる。
	中日	名古屋市長に初当選した河村たかし氏（60）は27日朝、名古屋市東区の自宅兼事務所で報道各社の取材に応じた。～中略～最後は報道陣に対し、「気軽に付き合ってちょう。自然体でやらんと人生疲れるでよ」と河村節で結んだ。

(2) 文字で書かれた名古屋ことばが、そのまま表記されているもの	朝日	名古屋を中心に注目のロックバンドが集合する「でらロックフェスティバル WITH JUNKS」が4月4日、名古屋・新栄のクラブダイヤモンドホールで開かれる。
	中日	名古屋が生んだロックバンド「センチメンタル・シティ・ロマンス」が結成四十周年を迎え、記念の無料コンサートを十月十三日、愛知県尾張旭市の県森林公園で開く。約二十年前、東京に拠点を移したが、メンバーらの地元愛は今も変わらない。コンサートのタイトルは、名古屋弁で「えんでにゃーの」(いいんじゃないの)。
	中日	西区那古野の円頓寺商店街にある金毘羅神社に、名古屋弁で書かれたおみくじがある。「 <u>不平不満があつても心の持ちようだがね。運はついとるでよ。</u> 」などと書かれており、初詣に訪れた参拝客たちの間でも「面白い」と話題になっている。～中略～現在は藤田さんが自宅でパソコンとプリンターを使って和紙に印刷し、手作業で一つ一つ折り畳んでいる。包みには手作りの消しゴムはんこで「こんぴら」の文字を押すなどこだわりの出来だ。
(3) 見出しに名古屋ことばが使用されているもの	朝日	「 <u>どえらけにゃあ面白い街に</u> 」河村・名古屋市長、初定例会で気勢【名古屋】
	朝日	「『 <u>なんだわあ</u> 』は便利 <u>なんだわあ</u> 自己見つめる、複数の方言 荻世いをら【名古屋】」
	中日	「 <u>できたでよ名古屋弁かるた おぼえてちょ～</u> 」
	中日	名古屋弁と丹後弁 <u>どえりゃー似とる</u> 京丹後市、交流を調査へ

朝日新聞が、中日新聞よりも、名古屋ことばの記述をより慎重に行っている。〈名古屋弁〉の表記があるすべての記事に対する、(1) 人物の発した名古屋ことばがそのまま表記されている記事の割合は、朝日新聞と中日新聞では大きく変わらないが、(2) 文字で書かれた名古屋ことばが、そのまま表記されている記事や、(3) 見出しに名古屋ことばが使用されている記事においては、中日新聞と比較すると割合が大きく下がる。

2.3.3. 名古屋ことばへの否定的な態度を間接的に表現する記事

記事は、朝日新聞で4件、中日新聞で8件みられた。以下に、その一例を紹介する。ただし、「標準語に修正された」という判断は、人物が発言したと思われる名古屋ことばが、「です」「ます」といった敬語に修正されているものに限定することで、発言の要約によって名古屋ことばが削られたものとの差別化を図った。

名古屋弁をテーマにした討論会が二十日、千種区の千種文化小劇場で開かれた。「名古屋ことばの復権」を目指す河村たかし市長も駆け付け、「名古屋弁がなぜ汚いと思われるか」などについて四人のパネリストらと話し合った。

(中略)

会場からは、「市長さんのことばは汚い」との声も出たが、河村市長は「言葉にきれい、汚いはありません」と反論した。

(2010年01月21日 朝刊 朝刊市民版 16頁)

九日に開かれた名古屋港管理組合の六月定例会で、組合議員の立松県議(自民)が、組合管理者の河村たかし名古屋市長に「公の場では標準語を使って」などと要望し、名古屋弁を身上とする河村市長が「名古屋言葉は失礼ですか。言葉にきれいもきたないもない」などと気色ばんで応戦する一幕があった。

立松県議は、伊勢湾などを対象に国が選定を進める国際コンテナ戦略港湾に絡む質問で「(名古屋弁では)誤解を招き、成就するものも成就しない。」などと指摘。これに対し河村市長も「言葉は自分の生活そのもの。言葉を標準化するというのは間違い」と持論を展開した。

(中日新聞 2010年06月10日 朝刊県内版 14頁)

名古屋ことばが標準語に修正されている記事の傾向をみると、修正対象のほとんどが河村市長の発言であった。修正が行われる場面は様々であり、その規則性を明示するには至らなかった。

2.4. 調査結果と考察

ここまで、名古屋ことばのイメージへ言及する言葉を含む新聞記事の抽出と、名古屋ことばへの好意的な態度を間接的に表現する記事、名古屋ことばへの否定的な意思を間接的に表現する記事の抽出を行った。この記事を適宜引用しつつ、名古屋ことばのイメージにまつわる考察を行う。

名古屋ことばに対するイメージとして、最も頻繁に付随されていたものは、「下品」「汚い」など否定的な言葉であった。しかし、その一方で、名古屋ことばはさまざまな分野に使用されている。したがって、名古屋ことばのイメージが「汚い」「下品」である、と断定するのは尚早である。以降に、このネガティブなイメージを突破口に考察を進める。

はじめに、表4、表5の名古屋ことばに直接的な評価をする記事のうち、否定的な評価を述べる部分だけを抜粋し、以下にまとめた。

- a: (河村市長の) 汚い名古屋弁、大衆におもねる名古屋弁
- b: 名古屋弁は泥臭いとか汚いとかよく言われますが、
- c: (河村市長の) 言葉が汚い
- d: 名古屋弁は「ぎゃあとか、みゃあとかうるさい」
- e: 「みゃあみゃあ」しゃべる泥臭い人
- f: (方言は) 情緒的な言葉で論理的な話をするには向かない。
- g: 「汚い」が4割超でトップ。「田舎的」という回答もあり、特に若い世代の評価が否定的である
- j: 名古屋弁は何となく「汚い」
- m: 「汚い名古屋弁使うな」とか「品がない」とか言われたが、
- n: 「河村さんの名古屋弁は品がないという声をよく聞く」
- o: (河村市長の) 言葉が下品
- p: (河村市長の) 名古屋弁は「聞き苦しい」「もうちょっときれいにしゃべって」
- q: 市長の言葉は汚い
- r: 市長の名古屋弁には「汚いでいかん」との苦情も

このように、「汚い」「下品」など、否定的なイメージが付随されているのは、ほとんどが「音声の名古屋ことば」である。芥子川が「下町ことばは上町ことばに比べ上品さに欠ける。あくどいともいえ、きたないとも、どぎついともいえる(芥子川, 1971, p. 43)」と指摘したように、下町ことばの音の持つ不快感が影響しているものと推測できる。

ネガティブなイメージが付随される名古屋ことばが、音声の名古屋ことばに集約されるのであれば、音声の名古屋ことばと、文字の名古屋ことばとを、分けて考察するのが適切である。まず、音声の名古屋ことばについての考察を続けて行う。

2.4.1. 調査結果と考察—音声の名古屋ことば—

名古屋ことばに「下品」「汚い」等の否定的なイメージが付与されるのは、音声の名古屋ことばである場合が非常に多いとしたが、音声の名古屋ことばのすべてが否定的に受け取られるわけではない。というのも、表 4、表 5 にまとめた、名古屋ことばのイメージへ言及する言葉を含む新聞記事には、発話された名古屋ことばが好意的にうけとられるものもあるからである。その記事の一例を転載する。

r：名古屋弁の普及に尽力した中洲大須の老舗うなぎ店「やっこ」の元女将（おかみ）、杉野美代子さん＝享年（87）＝が亡くなった。名古屋弁が本来持っている柔らかで優雅な語り口の伝承者の死に、関係者からは惜しむ声が上がっている。～中略～「やっこのおばちゃんの名古屋弁は、温かみがあって美しかった」。杉野さんとともに名古屋弁の普及活動に取り組んだ大須演芸席亭の足立秀夫さん（78）は振り返る。

ここで、名古屋ことばに直接的な評価をする記事のうち、否定的な評価を述べるものと、この 2 つの好意的な評価を述べる記事とを比較する。すると前者の記事における「名古屋ことば」が指すのはほとんどが下町ことばであり、後者の記事における「名古屋ことば」が指すのは、一貫して上町ことばであることが分かる。名古屋ことばが「汚い」「下品」と称される際の名古屋ことばは、「下町ことば」を指すのである。

それでは、上町ことばがほとんど伝承せず、途絶えてしまった現代において、下町ことばを主体とする名古屋ことばが発話された場合、必ず否定的にとられるのかといえ、決してそうではない。

表 6、表 7 では、「名古屋ことばが使用されること自体が、好意的に受け取られている証拠である」としたうえで、記事における名古屋ことばの使用を量的に調査し、そのいくつかを抽出した。その中には、発話された下町ことばも含まれる。これは、同じ発話された下町ことばでも、否定的にとられる場合と好意的にとられる場合の両方があることを示している。表 6、表 7 の記事のうち、発話された名古屋ことば（下町ことば）を含む記事を以下に転載する。

河村氏は名古屋市議会では公約をめぐって民主党の市議団とは決定的に対立している。それでも、「えりゃあすんませんね。長いこと待ってたでやあて。」ときりだ名古屋弁での演説は全国どこへ行っても人気があるため、民主党は愛知占拠奥の公認候補への応援演説は求めず、愛知以外の各地での応援を要請するとみられる。

（朝日新聞 2010 年 06 月 01 日 朝刊 1 社会）

中部国際空港で格安航空会社（LCC）の国内線が就航した三十一日、ジェットスター・ジャパンの札幌線とエアアジア・ジャパンの福岡線に記者二人がそれぞれ搭乗し、～中略～エアアジアの福岡線では、「しゃちほっこりパン」を二百円で販売していた。形は名古屋城の金シャチで、名古屋名物の「小倉トースト」をヒントに小倉あんと生クリームを詰めている。鮮やかな赤色の制服を着た女性客室乗務員が名古屋弁で「みんな買わんとあかんよ」とアピールすると、機内に笑いが起きた。

（中日新聞 2013 年 04 月 01 日 朝刊 朝刊社会）

開幕初日、プロアマ戦を終えた片山は顔をしかめていた。「歩けているから、取りあえずやる。期待はなし」。2 週間前の開幕戦を腰痛で欠場したばかり。本調子には遠いはずが、この日は全選手でただ一人の 5 アンダー。満面の笑みを浮かべ「和合だから（スコアが）出ることもある。攻め方だけで乗り切れた」と胸を張った。（中略）快晴の汗ばむほどの陽気の中で、スコアを伸ばすたびに歓声が上がった。「名古屋のファンは天候に負けないほど暖かい。どえりゃあ湧きましたね。」名古屋弁のリップサービスも和合への愛着を感じさせる。

(中日新聞 2015年05月02日 朝刊 朝刊運動3面)

上記の3つの記事からは、発話された名古屋ことば(下町ことば)が非常に好意的に受け取られている様子がうかがえる。とくに注目すべきなのは、表4、表5において否定的なイメージで述べられていたはずの「河村市長の名古屋ことば」が、一転して好意的な態度で語られている点である。同一人物の話す名古屋ことばにおいても評価が分かれるとすると、その判断の基準は音や人物など固定的な要因にあるのではなく、タイミングや状況など、変動性がある要因にあるという考察が可能である。

2.4.2. 調査結果と考察—文字の名古屋ことば—

好意的に受け取られる名古屋ことばには、音声の名古屋ことばと、文字の名古屋ことばの双方が含まれる。以下に、文字の名古屋ことばを好意的に評価する記事をいくつか転載する。

名古屋が生んだロックバンド「センチメンタル・シティ・ロマンス」が結成四十周年を迎え、記念の無料コンサートを十月十三日、愛知県尾張旭市の県森林公園で開く。約二十年前、東京に拠点を移したが、メンバーらの地元愛は今も変わらない。コンサートのタイトルは、名古屋弁で「えんでにゃーの」(いいんじゃないの)。
(2013年9月25日 中日新聞夕刊 夕刊二社 12頁)

西区那古野の円頓寺商店街にある金毘羅神社に、名古屋弁で書かれたおみくじがある。「不平不満があっても心の持ちようだがね。運はついとるでよ。」などと書かれており、初詣に訪れた参拝客たちの間でも「面白い」と話題になっている。
(2015年1月7日 中日新聞朝刊 朝刊市民版総合 15頁)

上記のものと同様に、文字の名古屋ことばはイベントや団体の名前に使用されるもの、土産物などに使用されるものがほとんどで、それらは総じて好意的に述べられている。ただし、「記事にされること自体が好意的にとらえられている」と述べたように、否定的に評価するものはそもそも記事にされていない可能性もあるが、少なくとも名古屋ことばの使用を咎めるような記事は見られなかった。よって、新聞記事において、文字の名古屋ことばは、総じて好意的に述べられていると結論付けたい。

2.4.3. 調査結果と考察—名古屋ことばを好意的に受け取る記事—

第1章で述べた、方言価値観の変遷の中を振り返ると、方言に対する好意を示す心理的な理由が、2点述べられている。方言が親密性を表すツールとなっていたことと、方言が娯楽にカテゴライズされたことである。このことを念頭に置き、名古屋ことばを好意的に述べる記事を考察する。

表7にまとめた、「女性客室乗務員が名古屋弁で『みんな買わんとあかんよ』とアピールすると、機内に笑いが起きた」という記述には、客室乗務員が方言を話す、という状況に、笑いが起こるようなおもしろさ、が発生していると捉えることができ、ここには明らかに「方言おもちゃ化」の感性が現れている。

また、「名古屋弁のリップサービスも和合への愛着を感じさせる」の一文においても、名古屋ことばを使用することが、愛着の表現である、と捉えられている。名古屋ことばの使用が、「親密さを表現するツールである」と、新聞社は判断したのだ。

このように、第1章にて述べた、(1) 方言と共通語のバイリンガルであった時代に方言が「くだけはなしことば」として機能していたために、のちに「親密さ」を表現するツールとなっていたこと(2) 方言で「遊ぶ」価値観が浸透したことが、名古屋ことばの使用が好意的に受け取られる際の要因になっているという推測が可能である。

名古屋ことばは、その一部は「下品」「汚い」などのネガティブなイメージを伴うが、一方で「温か

い」「美しい」と称されたり、使用が好意的に受け取られることもあり、イメージが定まっていない状態である、と定義することができる。

3. ツイッターにおける現在の名古屋ことばの使用実態についての調査

本章では、名古屋ことばのコスプレ化の可能性を検討するために、名古屋ことばが今現在どのような使用されているのかを明らかにしたい。さらに、すでにコスプレ化が完了している方言や、コスプレ化していない方言と比較しつつ行うことで、名古屋ことば独自の特徴を考察したい。

3.1. 調査対象の妥当性

田中は、方言を娯楽と捉える価値観が、打ちことばの領域で醸成されてきたと指摘した。したがって、名古屋ことばのコスプレ化の可能性を検討するにあたって、同じく打ちことばの領域において調査を行うのが妥当である。また、打ちことばは、名古屋ことばが書かれた場合に比較的好意的に受け取られるという、名古屋ことばの特性とも相性がよい。

検索機能など、調査しやすい機能を備えており、かつ第三者に対してオープンな打ちことばのツールは数多く存在するが、本論文ではツイッターを採用した。

ツイッターは世界で1億人、国内で1400万人⁹が利用するソーシャルネットワークサービス（以下sns）での1つある。snsはスマートフォン等の普及も相まって、利用者が急増しているメディアの一つであり、ツイッター、facebook、instagramなどが代表される。写真の共有を主な目的とするinstagramを除き、ツイッター・facebookはともに文章を投稿、共有することを目的としたsnsである。

しかし、ツイッターはfacebookに比べ投稿に対するハードルが低く、その発言は「つぶやき¹⁰」と呼ばれる。1回の「つぶやき」における文字数には制限があり、140字以内で構成される。つぶやきは数珠つなぎで蓄積されていき、これをタイムラインと呼ぶ。タイムラインに自身のつぶやきを追加する行為が「投稿」にあたるが、この投稿に対するハードルの低さを、枝はツイッターの「シンプル」な点にあると説明する。

その象徴が「百四十字」という文字制限である。Twitterには最大で百四十字までしか投稿できない。二言三言つづれば終わってしまう短さだ。「タイトル」という概念すらない。このシンプルさと、そもそも「つぶやき」なのでほかのユーザーからの反応を期待しなくても良いという気楽さが、投稿する際のしきいをぐっと下げている。

（枝，2009，p. 23）

こういった、投稿に対するハードルの低さから、より気軽に、簡潔な発言を行える点がツイッターの魅力の1つである。数あるsnsのなかで最も特定のトピックに対する率直な意見の収集がしやすいために、打ちことばのツールの中でも、ツイッターを調査媒体とした。

⁹ 2012年1月時点のデータ。財務省調べ

<http://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/h24/html/nc123220.html>（2016/11/18 取得）

¹⁰ 日本では投稿することを「つぶやき」とするが本来これは「ツイート」と呼ばれ、小鳥がさえずるなどの意味を持つtwitterから来ている。（枝，2009 p. 28）

3.2. ツイッターにおける調査

先述したように、投稿されたつぶやきは、数珠繋ぎ状のタイムラインに表示される。検索欄に単語やフレーズを入力すれば、その単語やフレーズが含まれるツイートのみを抽出することができる。ただし、非公開を設定するユーザーのつぶやきは、そのユーザーをフォロー¹¹していない第3者からは閲覧できないシステムとなっているため、完全な調査は不可能である。

まず、10月26日から同月30日の5日間、〈名古屋ことば〉〈名古屋弁〉が含まれるツイートを検索した。なお、「リツイート¹²」されたつぶやきや、「bot¹³」によるつぶやきは、内容が重複するため、調査対象外とする。また、参考データとして、9月1日から10月31日までの〈名古屋ことば〉を含むつぶやきの数も検索した。

また、名古屋ことばを含むつぶやきの特徴を明らかにするために、〈大阪弁〉〈京都弁〉〈静岡弁〉〈岐阜弁〉〈三河弁〉の文字を含むつぶやきと比較するかたちで検証する。

比較対象とした〈大阪弁〉〈京都弁〉は、イメージを強く伴うことばとして選択した。反対に、近隣県で話されている〈静岡弁〉〈岐阜弁〉や、愛知県内で話される〈三河弁〉は、〈大阪弁〉〈京都弁〉に比べ、特定のイメージ語との結びつきが弱いことばとして選択した。

以下に、2016年10月30日につぶやかれたそれぞれの方言名を含むツイートの数を表にした(表8)。

表8 2016年10月30日の〈名古屋弁〉〈大阪弁〉〈京都弁〉〈静岡弁〉〈岐阜弁〉〈三河弁〉を含むつぶやき

検索ワード	名古屋弁	大阪弁	京都弁	静岡弁	岐阜弁	三河弁
つぶやき数	178	369	223	31	45	36

〈名古屋弁〉のつぶやきの数は178件で、これは〈大阪弁〉〈京都弁〉に次ぎ3番目に多い。

次に、30日につぶやかれた〈名古屋弁〉をいくつかの項目に分類した(表9)。用意した項目とその内訳、分類ごとのつぶやきは以下の通りである。他地域のことばも同様に分類し比較対象とすることで、〈名古屋弁〉を含むつぶやきの特徴を説明したい。

表9 名古屋ことばを含むつぶやきの分類結果(全178件)

(a) メディアなどで広く知られる名古屋ことばのイメージや常識に対して、こうではない、と指摘するもの(8件)
・ テレビやラジオでよく耳にする名古屋弁は下町言葉。それとは別に、うわ町言葉と呼ばれる名古屋弁がある。
・ 名古屋弁なんて使ってる人市長以外見たことないです…
・ 東京で職質受けとき 「名古屋から来たのに、名古屋弁で喋らないんだね」
(b) 話者自身がまたは他人が名古屋ことばを話していると断定するなど、名古屋ことばの認識にゆぎのないもの(44件)
・ この前職場で名古屋弁出たのめっちゃ恥ずかしかった

¹¹ 「追う、ついてゆく」を意味する follow を語源とする専用語である。自身のタイムラインにはフォローしているユーザーのつぶやきのみが表示される。これと反対に、自身をフォローするユーザーをフォロワーと呼ぶ。また、あるユーザーが「非公開」を設定していても、フォロー「申請」の「許可」が下ることによりそのユーザーのつぶやきを閲覧できる。

¹² ほかのユーザーがつぶやいたつぶやきを、自身のフォロワーに拡散するための機能である。特定のつぶやきに対して、リツイートのコマンドを選択すれば、自身をフォローするユーザー各々のタイムラインに、そのつぶやきを投稿した本来のユーザーをフォローしていなくても、リツイートされたつぶやきが表示される。リツイートを直訳すると「再投稿」になるが、その効用から「拡散」と表現するのがより適切である。

¹³ ユーザーの操作なしに、自動で、指定したつぶやきが一定時間毎につぶやかれる機能で、同じ情報を何度も発信する際に利便性が高い。生身の人間でない、ご当地のゆるキャラや二次元のキャラクターがアカウントを持つ際に多く利用される。

・愛知の子と話してたら無意識に出た <u>名古屋弁</u>
(c) 自分が話者かどうか、また特定の単語やフレーズが名古屋ことばかどうか疑問やまよいのあるもの (23)
・<u>名古屋弁</u>、喋れんし分からん (笑) ・あれ?～だに?って<u>名古屋弁</u>? ・名古屋ってさ、標準語?関西弁?<u>名古屋弁</u>?
(d) 名古屋ことばを紹介するもの (26)
・母音の発音に a 音と e 音をあわせた a 音があるのは英語と<u>名古屋弁</u>だけ。 ・標準語だと思っていたのに<u>名古屋弁</u>だった言葉がものすごく多くて往生こいとるもんでいかんわ ・今日はイベントががんばりや～ ちなみに『がや』は<u>名古屋弁</u>だがや。
(e) 名古屋ことばに対する内部からの、または外部からの評価、感想 (23)
・<u>名古屋弁</u>カッコ悪すぎわろた ・<u>名古屋弁</u>まじで汚いありえない ・ラジオ聴くと嫌でも<u>名古屋弁</u>きく あんなの誰考えたんかしら。
(f) つぶやきの中で表記された名古屋ことばに対して、名古屋弁と表示するもの (20)
・明日労働してくないみゃ～～～～ (名古屋弁意識) ・名古屋の jk か…で最高だがあ (名古屋弁風) ・あといつも通り食べすぎて胃がどえらいでてる (名古屋弁?)
(g) 他人のつぶやきに対して名古屋ことばを指摘するもの (4)
・<u>名古屋弁</u>になつとるがやw ・無理に<u>名古屋弁</u>つかうなやwwwwwwwwwwwwwwww
(h) 自分が名古屋ことば話者であること自体を、または単語やフレーズが名古屋ことばであると気づいたことを報告するもの (3)
・なんか関西弁多めの<u>名古屋弁</u>?もはいってるのかな～(;´・ω・) ・「だだくさ」って<u>名古屋弁</u>なのか…普通に使ってた
(i) その他名古屋ことばとの関係が薄いつぶやきや、分類が難しいもの (27)

以上の調査をふまえて、特筆したい点は3つある。まず、やはり名古屋ことばに対する否定的なつぶやきが多いことである。上記の表の (e) とした、〈名古屋弁〉に対する感想を述べるつぶやきの全 23 件のうち実に 11 件が「汚い」「かっこわるい」等、否定的な評価を述べるものであった。

2つ目に、〈名古屋弁〉には名古屋ことばの実態に対する疑問や指摘を含むつぶやきが、著しく多いことである。上記の (a) としたメディアなどで広く知られる名古屋ことばのイメージや常識に対して、こうではない、と指摘するつぶやきと、上記の (c) にまとめたような、ことばに対する疑問ふくむつぶやきを、そのことばを含むつぶやき全体に対してのパーセンテージで表すと、〈大阪弁〉2%〈京都弁〉0.8%〈静岡弁〉5%〈岐阜弁〉3%〈三河弁〉2%に対し、〈名古屋弁〉は20%にのぼった。

〈名古屋弁〉を含む疑問のつぶやきは、おおまかに「名古屋ことばの中身を問うもの」「自分が名古屋ことばをはなしているのかどうか」「自分が話していることばはなにか」「名古屋で話されていることばはなにか」の4つに分類できる。中でも、「名古屋ことばの中身を問うもの」が最も多い。また、「自分が話していることばはなにか」「名古屋で話されていることばはなにか」という、‘名古屋において話されていることばが、名古屋ことばだけではない’ことに対する指摘は、他地域のことばを含むつぶやきにはみられない。

そして、〈名古屋弁〉の特徴の3つ目は、名古屋ことば話者たちが名古屋ことばを使用した際に、そうであると示すつぶやきが多く見られた点である。ただ単語やフレーズを紹介するものとは区別して、自身の発言に対して後から括弧書きなどで方言であったことを示すかたちをとるものに限定している。上表の (f) に分類した。

同様のつぶやきは全178件中28件とかなりの数があった。割合で表すと〈大阪弁〉0%〈京都弁〉0%〈静岡弁〉16%〈岐阜弁〉2%〈三河弁〉2%に対して〈名古屋弁〉は11%であり、他地域のことばと比較すると、〈名古屋弁〉ユーザーが名古屋ことばであることを示す傾向は顕著であるといえる。この傾向は〈静岡弁〉にも同様に強くでている。しかし、〈静岡弁〉は〈名古屋弁〉よりも割合としては多いが、そもそもつぶやきの数自体が少なく、〈名古屋弁〉が178件中20件であるのに対して、〈静岡弁〉は31件中5件であった。

〈名古屋弁〉を含むつぶやきを、〈大阪弁〉〈京都弁〉¹⁴〈静岡弁〉〈岐阜弁〉〈三河弁〉を含むつぶやきと比較すると、名古屋ことばは、他地域のことばに比べ、ことばの実態に対する疑問や、間違った認識に対する意見を述べるつぶやきが突出して多くつぶやかれていることが明らかになった。

こういった、〈名古屋弁〉を含むつぶやきにおけることばに対する疑問の多さや、「こうではない」「本当はこうだ」と指摘するつぶやきが多いことには、名古屋ことばに不確定要素が多いことが要因ではないだろうか。名古屋ことばに対する定義が明確でないために、「自分が話すのは名古屋ことばなのか?」「どれが本当の名古屋ことばなのか?」という疑問が生まれ、間違った認識に対する「本当の名古屋ことばはこうだ」「〇〇は名古屋ことばだ」というつぶやきが頻繁に投稿される可能性がある。

また、名古屋ことばを使用した際に、名古屋ことばであることを示すつぶやきが、他地域の言ことばと比較した際に多くみられた。

4. 結論

本論文では、「名古屋ことばはコスプレされ得るか」という問題意識をもとに、新聞記事、snsを利用して、名古屋ことばについての言説分析を行った。ここまでの調査をふまえ、名古屋ことばのコスプレ化の可能性について考察したい。

第1章で述べたように、コスプレ化に必要な条件は特定のイメージとの密接なつながりであるが、現時点の調査では、名古屋ことばが特定のイメージを獲得したという結果は得られなかった。「下品」「汚い」というイメージも、名古屋ことば全体に適応するものではないことが、新聞記事における調査において明らかになった。よって、特定のイメージの定着の可能性を検討したい。

イメージの定着の前段階としてみられるのが、方言の断片化である。ことばが断片化するというのは、ある言語形態を構成する様々な要素の中から、特定のイントネーション、アクセント、単語、フレーズのみがその方言を代表し、表現するようになることであると筆者は定義する。方言がコスプレ化する際に、こういった現象が起こることについては、第1章で引用したように、田中も言及している。

断片化することによって、アクセントやイントネーションにとらわれすぎない‘気軽な使用’が可能になり、アニメやドラマ等で強い印象を与えるキャラクターを発動するツールとして使用され得る機会が生まれる。それが特定のイメージ語の獲得につながるのだ。

結論からいうと、今回の調査において、名古屋ことばの断片化の兆しがみられた。以下に、名古屋

¹⁴ 既にイメージが確立している、とした〈大阪弁〉〈京都弁〉を調査したことで、イメージが定まっているというのがどういった状態であるのかを確認することができた。特に〈京都弁〉においては、アニメやゲームのキャラクターに対する「萌え」を助長させるツールの1つとなっていたり、本論文ではとても述べられないようなアダルトな分野との強い結びつきが観察された。反対に、〈京都弁〉事態に対する、ことばの中身に言及するようなつぶやきは、ほとんど見られなかった。このことから、コスプレ化が進み切った〈京都弁〉は、コミュニケーションツールとしての役割すらも超越し、〈京都弁〉自体が、経済的価値を生み出す商品として扱われているのではないだろうかというのが筆者の見解である。そのために、〈京都弁〉を含むつぶやきには、消費者としてのつぶやきが殆どであるのだ。

ことばの断片化を裏付ける記事を引用する。

①名古屋日豪ニュージールランド協会（名古屋市中川区）と名古屋姉妹友好都市協会（同市中区）のクリスマスパーティが四日夕、市内のホテルであった。～中略～オーストラリア大使館のニコラス・ケイ等書記官は「名古屋メシはどえりゃーうみゃーそうですね」と名古屋弁で話し、会場を沸かせた。

（中日新聞 2013 年 12 月 05 日 朝刊 朝刊県内版 18 頁）

②名古屋の女子高生の武勇伝を映画化した、「ビリギャル～学年ビリのギャルが一年で偏差値を四〇上げて慶応大学に現役合格した話～」の撮影が二九日、学問の神様で知られる千種区赤坂町の上野天満宮であった。主演の有村架純さん（21）、伊藤淳史さん（31）が神社で映画のヒットを祈願した。（中略）有村さんは、「でらおもしろいで、みにこやー」と名古屋弁で PR していた。

（中日新聞 2015 年 1 月 30 日 朝刊 朝刊市民総合 19 頁）

①の記事のオーストラリア大使館のニコラス・ケイ等書記官と、②の記事の女優は、ともに名古屋出身者ではない。生育地でない話者が、名古屋ことばを使用するには、名古屋ことばであることを彷彿させるイントネーションや特定の単語に対する、大衆の共通認識が必要である。つまり、世間の人々が、記事にされたような短いフレーズのみで、名古屋ことばであると認識できなければ、この行為は成立しないのだ。これはことばの断片化が進んでいる結果にほかならない。

一方、ツイッターにおいては、名古屋ことばユーザーが主体となって、断片化を進行させる動きが確認できた。というのも、第 3 章で明らかにしたように、名古屋ことばの話者が、〈名古屋弁〉であることを名乗りつつ、名古屋ことばを記述する行動が広く観察されたからである。文字の名古屋ことばは、そもそもアクセントやイントネーションに留意する必要がなく、その一部分を記述するというのはまさに、ことばの断片化を助長する行為ではないだろうか。また、「名乗る」という行為によって、その断片化したことばに名前を付けることができるのだ。これは、人々が、断片化した名古屋ことばを、そうであると認識するようになるための、重要な下積みなのではないだろうか。先に紹介した、新聞記事においてみられた名古屋ことばの断片化の兆候は、こういった地道な積み重ねの結果と捉えることもできる。

名古屋ことばは、特定のイメージが確立しておらず、実態が定まっていないことに対する話者による疑問や意見が多いことばであった。しかしそのなかでも、方言コスプレ化に向けての、地道な種まきとその成果の一部が、メディア調査において確認できた。

筆者の出身地である名古屋のことばが、近い未来、よりポジティブなイメージを伴い、現在よりも活き活きと使用されるのではないかという希望をここに記して、本論文の結びとしたい。

参考文献

- 枝洋樹（2009）「Twitter とは何か？」枝洋樹、林信行、小林弘人編『Twitter の衝撃』日経 BP 社出版局
- 江端義夫（2013）『愛知県のことば』明治書院
- 尾崎喜光（1996）「学校生活における方言」小林隆、篠崎晃一、大西拓一郎編『方言の現在』明治書院
- 北森理聖（2017）『現代の名古屋の大学生が持つ名古屋ことば意識』名古屋市立大学 人文社会学部 国際文化学科 2016 年度卒業論文
- 芥子川律治（1970）『名古屋方言の研究』泰文堂

- 小林隆(1996)「現代方言の特質」小林隆、篠崎晃一、大西拓一郎編『方言の現在』明治書院
真田信治(2001)『方言は絶滅するのか』PHP新書
竹内俊男(1982)『東海のことば地図』株式会社六法出版社
田中ゆかり(2011)『方言コスプレの時代』岩波新書
二代目勤勉亭親不孝(2002)『声に出してよみてゃあ名古屋弁』株式会社すばる舎
戸松優芽(2016)「名古屋ことば研究 高年層編 名古屋ことばに対する認識の縦の変化」名古屋市
立大学人文社会学部国際文化学科 佐野直子研究室『ことば研究年報』第3号 HIME 企画
舟橋武志(2005)『名古屋弁の構造』ブックショップマイタウン

卒業論文へのコメント

今年度の佐野ゼミにおいて、「名古屋ことば」を中心としてそれぞれの卒論のテーマを設定した際、松本論文は「メディア」を対象とした分析ということになった。「名古屋ことば」それ自体がどのように使用されているか、ではなく、「名古屋ことば」がどのように評価されているか、というメタな言説分析が中心となる中で、本論文は田中ゆかりの『方言コスプレ』論を軸にして、「名古屋ことば」のコスプレ化は可能なのかを考察している。

問題意識やテーマ設定は非常に独自性が高い。特に、単に「方言コスプレ」を中心にするのではなく、「標準語に対するあらゆる方言全般」に見られる「方言のおもちゃ化」と、その中でも特に「コスプレ化」が可能になる一部の方言があり、そこに段階がはっきり見られることを喝破した点が興味深い。そして、その中で「名古屋ことば」の持つイメージのブレ(方言の娯楽化に伴う「方言」としての価値の上昇の影響を受けつつも、下町ことばには「汚い」というイメージが今も強くつきまとい、その一方で「上町ことば」が称揚される)を新聞記事の言説から観察し、そこには「書かれた名古屋ことば」と「発話された名古屋ことば」への評価の違いがあると主張する。そして、ツイッター分析においても、「名古屋ことば」の使用そのものではなく「名古屋弁」(と他の「○○弁」)という単語それ自体を検索するというメタ言語的言説分析を行い、「名古屋ことばとはなんなのか」を若者たちが模索している実態を明らかにしている。「方言」の1つである「名古屋ことば」を意識化して娯楽化した、おもちゃにしたい、でもコスプレするにはまだ足りない、という話者たちの現在進行形のせめぎ合いがとても興味深い。

ただし筆者の視点やカンの鋭さ、豊富な資料の提示に対して、文章力や論文の構成が追いついていない感があるのが残念である。表の使い方なども見づらさが残り、筆者がなぜこのような分析に至ったのかを追うのが読者として少々難しく、分析の鋭さに感心しつつ飛躍も感じてしまう。十分な論点の整理ができれば、現在の方言研究に一石を投じるだけの非常に意義の高い論文になったであろうと思われる。(佐野直子)

方言の商品化はいかにして可能になるのか

池ヶ谷 遊

方言はかつて、公の場に姿を表すことばではなかった。しかし、近年は「方言商品」と呼ばれるものまでもが登場するほどに、方言の価値評価は上昇してきている。

本論文では、そうした方言商品がいかにして生まれ得るのか、その理論的分析を行っている。そもそも、言語と商品を結びつける研究分野は、言語学の歴史の中では非常に新しいものである。まずは、なぜこの分野が新興分野であるのかを説明することを通して「ことば」と価値の問題の歴史を考察した。そして方言が商品となる以前の「ことば」の商品の例について触れ、その後、方言の価値評価の変遷を引用した上で方言商品とそれまでのことばの商品の違いについて言及した。結果として、方言商品、とりわけ「方言ネーミング」と呼ばれるような商品の登場の背景には、方言の最も新しい価値評価である「娯楽」的な要素や、それまでに見られなかった、「アクセサリー」とも言われる現代的な方言の機能が見出せることが分かった。

0. 序論

1. ことばの価値について
2. 方言以前の言語商品
3. 方言の商品化
4. 結論

0. 序論

近年、「方言ブーム」が叫ばれて久しく、方言を取り扱った事象を目にする、または耳にすることは日常生活の中で多々ある。2010年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」での土佐弁、2013年のNHKドラマ「あまちゃん」での岩手方言など、主人公が方言を話すテレビドラマのブームは記憶に新しい。「あまちゃん」作中内での台詞「じゃじゃじゃ」は株式会社ユーキャンが発表するその年の新語・流行語大賞の2013年度年間大賞に選ばれており、その「方言ブーム」の過熱ぶりを表していたともいえよう。こうしたメディアにおける方言のもてはやしは2017年現在、多少収まりつつあるようにも見える。しかし、後述するが方言が虐げられ、ましてやメディアにおいて話題に取り上げられることなどあり得なかった年月を考えれば、現在もまだまだ「ブーム」の最中にある、といってもよいだろう。

また、方言を見聞きする機会はメディア上だけではない。方言を「商品」として扱う事例も非常に増えている。各地の方言をそのまま商品にしたものとして、「〇〇語（弁）辞典」「〇〇語（弁）講座」といった類の書籍が書店に並んでいるし、方言が羅列された手ぬぐいや湯のみ、のれんなどのみやげ物などはおなじみの商品である。また、とりわけ近年目にするのが増えたのがご当地の菓子等のパッケージに地域の方言を採用したものである。商品名に方言の特徴的な語尾が使われていたり、印刷

された商品の説明文の部分に方言が採用されていることもある。これらは今や駅の売店、高速道路のサービスエリアなど、みやげ物を扱う場所では欠かせないものとなっている。

方言はかつて、公の場では姿を現すことのないことばであった。田舎くさい、土着のことばを使つては「お里が知れる」というわけだ。それがなぜ、近年は表立ってメディア上にも登場し、数々の方言商品が販売されるまでに至ったのか。本論文では、その「方言の商品化」のプロセスについて、方言の価値の変遷、また方言以外の「ことばの商品化」の歴史の変遷と比較しながら、理論的な考察を行う。方言の商品化は、方言をとりまく長い歴史を鑑みると非常に新鮮な、新興の産業分野であるといえる。その盛り上がりの最中にある今現在の状況からこの問題を分析することに本論文の意義はあるのではないかと考える。

1. ことばの価値について

言うまでもなく、方言は「ことば」の一種である。ことばが「商品」となり流通する、それはすなわち特定のことに一定の経済的価値付けがなされていることを意味する。ではそもそも、ことばが価値を持ちうるとはどういうことなのであろうか。価値があるから商品となる、この問題を避けてはことばの商品化のプロセスは分析不可能であろう。本章では、ことばの価値付けに関して、学術的な歴史を検討しながら考察してみたい。

1.1. ことばに価値をつけることの可否

実は、「ことばの価値」が社会科学の分析対象となったのはごく最近のことである。1980年代以降になりやうと、フランスのピエール・ブルデュー (Pierre Bourdieu 1930-2002) やダニエル・バッジオーニ (Daniel Baggioni 1945-1998)、ドイツのフロリアン・クルマス (Florian Coulmas 1949-) らがことばと経済性を絡めた内容の著書を発表し、その領域に足を踏み入れた。

しかしながら、これら先駆者たちの論述においては注意を要する点がある。それは「経済」という語の捉え方である。

ブルデューは、著書『話すということ—言語的交換のエコノミー』の中で、タイトルにあるように言語の持つエコノミー(経済性)について触れているが、「要するに、経済主義か文化主義かといったありきたりの二者択一を乗り越えて、象徴的交換のエコノミー [= 機構] を精緻に練り上げていかねばならない (ブルデュー, 1982=1993, pp. 23-24)」と述べるように、エコノミーという語を、他者との物々交換、ここでは「コミュニケーションにおける発話の交換の仕組み」を指すのに用いている。ことばの値段づけ、商品化を分析する本論文での「経済性」とは意味合いが異なる。また、ブルデューは言語の「市場」という概念にも言及しているが、これもまた、本論文で取り上げるような「商品」が売買される「経済市場」を示す語ではない。

この社会哲学と袂を分かつために肝要なのは、(中略) すぐれてコミュニケーションの諸連関である言語的交換＝言葉のやりとりもまた、象徴的権力の錯綜した連関の束であり、そこでは発話者ないし発話者集団相互におのおの力関係が発言するものだ、ということを忘れてはならない、ということである。

(ブルデュー, 1982=1993, p. 23)

ここで述べられている「(発話者や発話者集団間の) 力関係」が、ブルデューの分析する「市場」にあたる。言語の経済的価値を述べる用語ではなく、言語の権力性、政治性といったものを表現した語とみるほうが妥当である。

バッジオーニもまた、エコノミー (économie) という語を用いているが、ブルデューの述べる「エコノミー [=機構]」に比較的近い概念として捉えている。例えば著書「ヨーロッパの言語と国民」の中で「éco-は、écologie エコロジー (生態学) を参照させると同時に、諸言語の様々な交換の économie エコノミー (経済学) をも参照させる (バッジオーニ, 1997=2006, p. 13)」と述べる部分がわかりやすい。ここでも、コミュニケーションの中で行われる言語の交換機構を「エコノミー」として用いている。

このように、近年みられはじめた「ことばの経済性」についての考察といっても、それは「何々をいくらで売る」とか「どれを売れば儲かる」とか、そういった下世話な「経済」の話ではなかった。

その中で 1992 年に『ことばの経済学』を上梓し、具体的に言語を「商品」としてとらえ、その経済価値を論じたクルマスが、「経済」と言語学を関連付ける研究分野の嚆矢と言えるかもしれない。言語学それ自体は比較的長い歴史をもつはずであるが、なぜことばの価値についての分析の登場はこれほど最近まで待たなくてはならなかったのだろうか。ここでいうことばとは方言に限ったものではなく、一般に「〇〇語」と呼ばれる、公的な言語 (共通語等) においても同様で、その商品としての価値は長らく分析の対象とはされてこなかった。これには言語学が社会科学として発展してきた歴史の中に理由がある。言語学が近代的に発達した研究分野となる上で、「言語はみな平等である」という視点が非常に重要な意味を持っていたからである。

かつて、近代における最初の科学的な言語研究は、歴史言語学、あるいは比較言語学と呼ばれるものであった。ある特定の、あるいは複数の言語を過去の文献等と比較し、その言語の「昔の形」を解き明かしたり、複数の言語間の共通性を見出そうとするものである。こういった研究が盛んであったのは、比較言語学者の黒田龍之助が「世間では、原初の言語とか、『アダムとイブの言語』というようなものを追求したいと考える人が決して少なくない (黒田, 2011, p. 46)」と述べるように、その時点での言語は最も複雑な形であり、時代をさかのぼればより「シンプル」な、様々な分化がなされる以前の「原初の形」を見出すことができる、という考えが優勢であったためである。すなわち言語を通時的に観察し、複雑で高度な言語と、シンプルで低度な言語を比較するというわけである。この「複雑で高度な言語」、「単純で低度な言語」、という考え方は、その言語が用いられる文化・文明の発達の度合いと比例するとも考えられていた。この理論は過去に存在した言語だけでなく、その時「生きている」言語にも当てはめられたため、未開・未発展な文化の地域では低度な言語が、より発展した地域では高度な言語が用いられているとされ、平等で客観的な観察の視点が欠落していた。

そうした歴史から脱却し新たに登場した記述言語学では、そういった言語間の優劣を否定した。それまでの視点から一転し、様々な言語はみな「平等」で、高度・低度という対照はなく、すべてが同じ「価値」をもつことばであり、そうした視点で客観的に言語を分析・記述することが前提となった。この点を端的に表した田中克彦による記述を以下に引用する。

言語そのものを、それとしてとり出すことを目標とする言語学にとっては、その言語が、文字をもつていようがいまいが、国家の言語であろうがあるまいが、あるいは近代国家の中で追いつめられた、数千人、数百人の小さな狩猟集団の言語であろうが、言語の構造そのものの研究にとっては等価であり、研究対象としては対等なのである。

(田中, 1993, pp. 155-156)

しかしこの新たな視点こそが、「ことばの価値」分析を長らく「タブー」とする結果となった。ことばに価値をつける、すなわちそれは一つの言語と別の言語を比べたとき、それぞれに異なる評価をつけ、優劣関係を形作ることである。特定のことばだけが商品となりうるのは、そのことばが他のことばと比較したとき、より高い価値を持つからであり、そういった優劣付けはまさに、近代以降の言語学がタブーとした視点そのものであった。また、科学的な言語の平等性が叫ばれるようになる以前にヨーロッパを中心に波及した「言語ナショナリズム」という思想もこのタブーの補強に一役買ってい

る。言語ナショナリズムにおいて叫ばれた「話者集団＝言語(母語)」という、個人と言語、そして国民としてのアイデンティティとのつながりの考え方が、言語に優劣をつけることへの抵抗を大きくした。すなわち、その話し手と非常に強く結びついている言語の価値を評価し、優劣をつけることは、その話者という人間自身を評価し、優劣をつけることにつながりかねないからである。こうしたつながりをみれば、言語ナショナリズムという思想が19世紀以降勢いを増すにつれて、科学的な言語の平等性が叫ばれ始めた、といえるかもしれない。

こうした歴史の存在ゆえ、ことばの価値についての議論はごく最近までなされることがなかったのである。

1.2. 「言語の平等性」理念の限界

前述の近代以降の言語学の立場、すなわち「すべての言語は平等である」という理念は、現代の言語学でも大前提となるものである。ではなぜ、タブーであるはずのことばの価値付けを認めなければ存在しえない「ことばの価値論」が近年になり登場したのだろうか。

これは、長らく近代以降の言語学を支えてきた「言語の平等性」理論の限界が露呈したためであると筆者は考える。以降の章で後述するが、「ことばの価値論」が登場する以前より、ことばの売り買いというものは実際には存在していた。「言語の平等性」が科学的分野において叫ばれている間にも、「売れる言語」と「売れない言語」(売れない、というよりはそもそも商品にされていない言語、と言ったほうが正しいかもしれない)が存在しており、すなわちそれは現実の言語間の価値の差の存在を示している。また、この対比は「標準語・共通語」と「方言」の関係にも当てはまる。「言語の平等性」という理念が、言語を均質なまとまりとして観察することで、それを客観的に記述可能な分析対象に昇華させ、言語学を近代的な社会科学の一分野にまで発展させたことは間違いない。その理念は「現実には存在する言語の優劣」を覆い隠すことになってしまったが、20世紀末、21世紀になり、ついに覆い隠しきることができなくなった。言語はそれだけ現実に売られているのである。現在、方言までもが商品化されているという事実も、ことばの価値論というタブーが言語の平等性という理念から漏れ出てきたことと無関係ではないのではないだろうか。

1.3. ことばの価値をどう表すか 一井上史雄の例

では、具体的にことばの価値はどう表されるのだろうか。まずは、方言研究で著名な井上史雄の提唱する2つの価値基準を引用して考察する。

言語の価値には、知的価値と情的価値がある。またその両方に絶対的価値と相対的価値がある。言語の市場価値は知的価値に対応する。また言語の情的価値は、言語への愛着心、言語忠誠心と関係する。

(井上, 2011, p. 47)

このように、井上は言語の価値を知的価値、情的価値の2種類に分類して分析している。ここで井上の主張する「知的価値」とは、その言語が「使えるか」あるいは「売り物にできるか」どうかを指している。「言語の市場価値は知的価値に対応する」の記述にある通り、言語の「売り買い」に関わる、つまり「お金になる」ような経済的価値はこの知的価値が担っているとされる。それは公の場で用いられるほどの地位を持っていたり、あるいはその言語を使用して仕事を得たり、雇用を生み出したり、もっとくだけて言えば、その言語を使っていかに多くの人々とコミュニケーションがとれるか、ということでもある。こうした見方をすれば、英語や中国語は世界の中でも非常に知的価値の高い言語である、と言うことができるだろう。しかし一つ注意しておかなければならないのは、その言語を用いる「話者の数」がそのまま知的価値を表すわけではない、という点である。日本語の話者数は世界全

体で見ても上位に位置し、それを用いてコミュニケーションを取る人数は非常に多い。しかし、日本語は知的価値の高い言語とはいえないのである¹。それはなぜかといえば、取引に用いられる範囲が非常に狭く、日本語を学んでも職業選択の幅がそれほど広がるわけではないからである。つまりここでいう「知的価値」とは、グローバルな視点を持って見たとき、その言語を学習することでいかに話者にとって役立つのか、の度合いを示すものといえる。

そういった知的価値と反比例するとされるものが「情的価値」である。「絶対的情的価値」は、個人の「母語」としての価値で、すなわちだれにとっても存在し、愛着心や忠誠心といった感情に関連するもので、「相対的情的価値」は、その言語を他の外国語と対比したときのとらえ方を指すとされ、その言語を学ぶ学習者の数と反比例すると井上は分析する（井上, 2011, p. 48）。話者の数が少ないような言語ほど、それを話す人（主にその言語を学んだ外国人だろう）が現れたとき、「こんなにマイナーな私たちのことばを話せるのですか」と、驚き、賞賛される例がこれにあたり、その言語を母語とする話者が多数の話者を持つ他の言語（外国語）とその地位を比較し、「少数であり」、「珍しい」ことを誇りとするような価値を指す。いわばマイナーな言語の「なわばり意識」のようなものとも言えるかもしれない。多くの人が学ぶ言語は有用性が高い、つまり知的価値が高くなるが、逆にその言語への愛着は薄くなり、相対的情的価値は低くなる（*ibid.*, p. 48）。

こうした価値の違いは「〇〇語」と名付けられるような様々ないわゆる「標準語」の間だけでなく、同一言語内での「標準語」と「方言」の間にも現れる。当然ながら、標準語は知的価値が高く、情的価値は低い。方言はその真逆となる。

知的価値と情的価値、という井上による2つの分類を引用したが、それに付け加え、ことばが商品となる、つまり「市場」に上がり、値付けがなされるということを考察するにあたって重要と思われる井上の記述を2つ引用しておく。

本章では、言語の情緒的価値について述べる。言語の市場価値、経済価値、知的価値という本書全体の構想からはずれるテーマであるが、公平を期するためには、ぜひとも言及しなければならない。

(*ibid.*, p. 47)

一つ目の記述は井上が「言語の情的価値」について述べる章の冒頭からの引用である。言語の「市場価値」、「経済価値」、「知的価値」という3つの価値（経済価値はすなわち市場価値であり、その市場価値に対応するものが知的価値である、する井上の主張によれば、この3つの価値はほぼ同じ意味にとらえていると思われるが）を並列にならべ、言語の「情的価値」についてはその並びからは外れるテーマである、としている。果たしてそうだろうか。言語のもつ情的価値というのは経済価値とは無関係なのだろうか。

そして二つ目の記述は以下の通りである。

しかしながら、言語選択は純粋に知的判断、市場の需要のみに支配されるわけではない。情的・心理的要因が、知的・実用的な要因以外に言語選択に影響を与える。自由経済としての経済原則の貫徹が予想されるが、心理的・情的要素が制約し、制御する。…（略）言語選択がなされるのは、デパート、店、および商品の、より良いイメージとランキングのためで、情的な要因にもよる。

(*ibid.*, p. 50)

一つ目と二つ目の記述は明らかに矛盾していることが分かる。一つ目の記述で言語の市場価値、経済価値からは離れたテーマであるとした情的価値が、二つ目の記述では、店や商品に使用する言語を

¹ しかし1970年頃までは「売れない」言語であった日本語も、高度経済成長期以降、世界的に学習者が増えたことでその知的価値は徐々に上昇し「売れる」言語へ変貌しつつある、とされている（*ibid.*, p. 32）

選択する際の要因になっている、とされている。店や商品の「より良いイメージ」や「ランキング」というのは要するに「よく売れる」ということであり、経済的な価値の指標となる。その経済的な価値と、言語の情的価値は実は無関係ではない、というのがこの二つ目の記述である。ここで言えることは、言語を商品化するということは、井上が一見矛盾ともとれるような論理をやむを得ず記述せざるを得ないほどにその要因が複雑に絡み合っているということである。事実、方言商品の事例をみると、もはや「市場価値」＝「経済価値」＝「知的価値」というイコールの関係は成り立たないように思えるし、さらにいえばそこから推し量られる言語の価値というものは「知的価値」「情的価値」という2分類に当てはめることすら眉唾ものである。

1.4. ことばの価値をどう表すか ―クルマスの例

ことばと経済学を結びつけた先駆者であるクルマスは、言語の価値を二つの側面から分析している。クルマスは「我々は一つの言語を、さまざまな理由から他の一つの言語より価値があると見なし得る」(クルマス, 1992=1993, p. 60)と述べるように、20世紀以降の言語学におけるタブーを飛び越え、現実的な言語の価値の問題に踏み込んでいる。まずクルマスは言語に限らず「財」としての商品を考え、経済学的な視点からこう述べている。

財の価値の問題を追求すると、必然的にこの概念の二重の経済的意味にぶつかる。あるものの使用価値と、他のものと交換する際の価値である。

(クルマス, 1992=1993, p. 61)

使用価値とは、その物の実用性としての価値であり、交換価値とはつまりいくらの値段がつけられるか、を表すものである。そして「言語が使用価値と交換価値を有するか否かという問題については肯定的な答えをする必然性は明らか (*ibid.*, p. 62)」であるとしている。したがってここでは「使用価値」と「交換価値」を、クルマスが分析に用いた言語の二つの価値として扱う。

使用価値がその言語の実用性の高さを表すとすれば、すなわちそれは井上の定義するところの「知的価値」にあたり、そしてその知的価値の高さが「経済価値」の高さとなる。この認識の一致については、クルマスが「一つの言語の経済価値が、その話し手の数と相関関係を持つ (*ibid.*, p. 63)」ことを肯定しているところから推察できる。ただ、ここで一つ留意すべき点として、クルマスは「使用価値」と「交換価値」の関係のパラドクスについて指摘している。それは「大きな使用価値のあるもの、たとえば水が、わずかな交換価値しか持ちえないのに対し、まったく役に立たないもの、たとえば宝石が非常に高い交換価値を有していること (*ibid.*, p. 61)」である。このパラドクスが言語にも当てはまるものかどうかについてクルマスは言及していないが、井上の主張を当てはめれば、「使用価値」の高さと「交換価値」の高さはイコールとなるはずである。

ただし、井上による定義のところでも述べた通り、ある言語の話者の数がそのまま経済価値に当てはまるわけではない点についてはクルマスも以下の記述の中で指摘している。

ところで、言語集団の大きさと言語の経済価値との間のこの関係は、どの程度一般化できるだろうか。世界の最も人数の多い一五²の言語集団を観察し、その際、必然的にヨーロッパの範囲を越えて視野を拡大すると、「大きければ大きいほど価値が高い」という単純な計算では割り切れないことがわかる。

(*ibid.*, p. 66)

² 中国語、英語、スペイン語、ヒンディー語、ロシア語、ベンガル語、ポルトガル語、日本語、フランス語、ドイツ語、アラビア語、ジャワ語、マラーティー語、タミル語、イタリア語の15。(*ibid.*, p. 65)

井上による「知的価値」の主張の部分でも述べたが、言語の経済的な価値は実際は話者の数ではなく、その「実用性」が重要になる。また、話者数と実用性の関係は、話者数が増えていけば実用性もどんどん高まる、というものではない。「十名から成る言語集団に属する人々の有する可能性は、二人から成る最小の言語集団が有する可能性よりも疑いもなく大きい (*ibid.*, p. 67)」としつつも、「ある言語集団の話者数がすこし多くても少なくとも、いや、なんなら、数百万人多くても少なくとも、ある程度話者数を越えたとなんの役割も演じない (*ibid.*)」と述べている。これは、話者の数が増えるにつれてコミュニケーションの可能性が広がることは事実であるが、実際にある一人の話者が物理的にコミュニケーションを構築する相手は限られており、実用性が話者数の増大と比例して上昇していくわけではないことを示している³。

1.5. まとめ

本章では、言語商品を分析するにあたって避けることのできないことばの「価値」の問題について考察した。言語の平等性理念により言語間に優劣をつけることがタブーとされ、長らくことばの価値の問題は言語学の対象からは外されてきた。その中で「言語」と「商品」の関係を考察した先駆けともいえるクルマス、井上史雄の二者によることばの価値の定義を引用した。

言語の知的価値が経済価値に対応する点は比較的想像しやすい。また、知的価値と使用価値はどちらも言語の「実用性」と言い換えることができるが、言語が人間活動においてコミュニケーションの手段として用いられている限り、その言語の価値を現実的な実用性で計るのは妥当だろう。しかし、実用性のみが言語の経済価値を計る尺度とは言い切れない。後述する方言商品の事例では、井上のほめかすように、実用性の面では捉え切れない価値が存在しているように思える。

2. 方言以前の言語商品

「言語の平等性」理念は、言語学の近代的な発展には寄与する点も多いが、現実におこっていることばの「売り買い」についてはそれを封じ込め、語らぬ立場であった。しかし、現実ではことばは実際に「商品」となっている。本章ではその具体的な「現実」を取り上げ、商品化のプロセスについて言及する。

方言が商品となり、人気を博していることは序論で述べたが、その商品化は比較的新しい事象である。方言が商品化される以前、そもそも「ことば」というものが実際に商品として売られることにはどのような事例があったのだろうか。まずは、方言以前の「ことば」の商品化について考察する。

2.1. 言語商品の例 一本

ことばが商品として売られる事例、その先駆けになったものは、「本」だといえそうである。15世紀後半、活版印刷の発明によりそれまで手写に頼るのみであった書物の作成に一大革命が起こった。この革命により、それまでは上位階級の知識人にのみ「秘儀」的に伝わる存在であった書物が大量に作成・販売され、広く流通することになった。アメリカの政治学者ベネディクト・アンダーソンは、ナショナリズムの芽生えを考察した著書の中で「本は、最初の近代的大量生産工業商品であった（ア

³ ただし、クルマスはマスメディアを通した非相互的なコミュニケーションは分析から度外視している。また現在はインターネットを通じたコミュニケーションも盛んであるところから、クルマスが当時考察した話者数と実用性の関係は変容していることも否めない。

ンダーソン, 1983=1997, p. 61)」と述べている。ことばの商品化の先駆けが書物であり、その書物は大量生産による販売・流通の近代的な「工業商品」の先駆けでもあったのである。

そして当時販売された本と、現代、特にごく最近観察されるような方言商品の登場に至るまでの商品化言語との間には重要な共通点があると筆者は考える。それはともに「語学学習」がキーワードとなる点である。

活版印刷の登場以降広く流通していった当時の本は、聖書の翻訳本が中心であった。それまではラテン語のみが宗教における「秘儀」的な覇権を握っていたが、地域の俗語に聖書が翻訳されたことで、上位階級のみに許されてきた特権が一般大衆へも普及していく。書物の出現によるこうした宗教改革を含む当時の西欧の変容を「(第一次)エコ言語⁴革命」と呼ぶバジオーニは、聖書の翻訳本の登場と一般大衆の関係をこう分析する。

しかし書物の出現によって、(中略)キリスト教徒ひとりひとりが、個人的レベルで、聖書と対峙するようになる。読むことの作法は、もはや聴くことによって覚えられるべきものではなく、唯一、読むことによって覚えられるべきものとなるのである。

(バジオーニ, 1997=2006, p. 61)

それまで読み書きというものを知らず口語のみの世界で生きていた人々は、書物の出現によりラテン語という「外国語」の翻訳聖書を通して、「読み書き」の能力を学ぶことになったのである。当時の翻訳聖書は宗教的な秘儀の伝達とともに、いわば「学習参考書」としての役割を持っていたと言える。こうした言語学習ということばの商品性は、次節で述べる、現代に至るまでのことばの商品の例にもつながっていく。

2.2. 言語商品の例 ―語学学習

では、近世以降の言語商品にはどのようなものがあるだろうか。「ことば」が売られる事例、それは書物の出現以降、現在でも、外国語教育・外国語習得といった語学学習の分野が代表例となる。中国語を学ぶために書店でテキストを買い、英語を学ぶために英会話学校に通う、または外国語の検定試験を受ける、こういった事例はごくごく身近なものだろう。これらも一種の「ことばの商品化」といえるのである。

この分野における商品は、比較的経済的な価値の分析がしやすい。クルマスが「言語の商品性は、外国語習得あるいは外国語教育の分野でもっとも明瞭に現れる(クルマス, 1992=1993, p. 94)」と述べているように、価値をもつことばの種類、数、需要といった、経済市場的な要素(商品性)がある程度目に見える形で現れてくるからである。例えば書店に並ぶ外国語のテキストを考えてみる。外国語学習コーナーの圧倒的大多数を占めるのは英語のテキストであろう。文法書から単語帳、リスニング教材まで幅広く、膨大な数の書籍が並んでいる。これは英語を母語とする話者の数が多いため、ではなく、英語を学習する人の需要が非常に大きいためである。フランス語のコーナーは英語よりも小さく、アラビア語のコーナーはさらに小さなものと思われるが、こういった書籍の種類が数の需要の大小をそのまま表し、それがそのまま経済的価値をあらわすという点で、この分野は言語の経済学的分析に適しているともいえる。また、語学学校における外国語教育では、クルマスの指摘する、言語の商品性の特徴が如実にみられる。すなわちそれは「需要を満たしても、それが売り手の所有している商品在庫の減少につながらないということ(*ibid.*, p. 96)」である。つまりこれは、英会話学校の教師は、生徒に英語を教えることで自分の英語力を失うことはない、といった例を指す。これは売

⁴ 言語を、大きなコミュニケーションの空間を構成する「エコロジー(生態系)」と、言語交換という「エコノミー(経済性) [= 機構]」の2つの側面から捉え、分析するのにバジオーニが用いた用語。(バジオーニ, 1997=2006)

れば売だけ在庫が減るという当たり前の現象とは一線を画した、言語特有の商品性であるといえる。

また、「その言語を獲得する一人一人によって、言語に価値が付与される (*ibid.*, p. 96)」という点もまた、クルマスの指摘する言語特有の商品性である。ある言語を外国語として学ぶ人が増えるほど、世界でその言語が有用になっていき、その言語が有用になればなるほど、その言語を学ぶ人もまた増えていく、というものである。こんにち英語が握っている世界的な共通語としての覇権も、こうした言語の商品性をもつサイクルが生み出した産物であろう。

こうした外国語習得・外国語教育の分野の分析は、経済的要素が明瞭で、言語の商品性を浮かび上がらせるには適しているかもしれないが、より現代的な、方言までもが商品となる今現在の状況を考察するにあたっては注意しておくべき点があると筆者は考える。それは、こうした外国語産業の分野は常に「ある言語＝標準語」と、「別の言語（＝標準語、外国語）」との対比で価値が計られる、という点である。この点と方言との関連については第3章で後述する。

また、こうした外国語産業は1990年代以降、主にヨーロッパで「多言語話者（マルチリンガル）」が奨励されたことで、一気に活気づいた。この場合の「多言語話者」は、「自身の国の国語・公用語（標準語）」以外にも複数の「外国語（標準語）」を習得した人を指す。現在に見られるような方言と標準語のバイリンガル状況を奨励したわけでは決してない。あんな言語を学べば有用ですよ、こんな言語を学べば地位が上がりますよ、といったふうに、「外国語」の売り込みが勢いづいた時代とも言える。

この流れは現在においても失われたわけではない。日本においても、英語学習はますます推し進められている。現在においても「売られることば」の代表例が様々な外国語（標準語）であることは否定できない。しかし、こうした「外国語（標準語）」のみが売られてきた中にそれまでの言語の商品化とは性格を異にする言語商品が現れてくる。それが次章で述べる「方言商品」である。

3. 方言の商品化

本章では、今現在観察されるような「方言商品」の事例を挙げ、その特徴と、商品化プロセスの理論的な考察を行う。

3.1. 方言価値の変遷

まず以下では、具体的な方言商品とその商品化の特徴について考察する前に、日本の方言の価値そのものの、言い換えれば「方言の取り扱い方」の変遷について述べておく。これは、方言の価値評価が、方言の商品化の特徴と深く関わっていると筆者は考えるためである。

序論でも触れたとおり、方言はかつて公の場に姿をあらわすことばではなかった。方言に対する姿勢として、井上史雄の提唱する「方言の社会的3類型」を引用してその歴史を概説する。

日本の方言は、大きくわけて三つの社会的類型を経たとされる。井上（2011）によればそれは、戦前は「撲滅」の時代、戦後は「中立（記述）」の時代、そして今は「娯楽」の時代である。またそれぞれの時代について、「標準語の時代」、「共通語の時代」、「東京語の時代」というとらえ方もなされている。井上は「撲滅」時代以前、つまり近代以前の江戸前後期についての「京ことばの時代」と「江戸語の時代」という2類型を加えた5類型も用いているが、「方言価値」を考察する本論文においては、諸方言の形成過程を述べた近代以前の2類型は考察せず、「標準語」なるものが誕生し、その対比によって方言の価値が捉えられ始めた以降の類型である3類型を引用して考察することとする。

3.1.1. 「撲滅」の時代

戦前までの第1類型である「撲滅」の時代には、方言は公の場からは排除されるべきことばであるとされた。また、「標準語の時代」とあるように、この時代にいわゆる「標準語」という概念が公的に導入され⁵、方言はその普及の「邪魔者」とみなされ、撲滅されることになる。標準語の普及には学校教育が一番いい手段であり、沖縄県や東北地方の「方言札(ふだ)」⁶を使った方言撲滅運動が典型であった。(井上, 2011, p. 145)

3.1.2. 「中立」の時代

戦後になり、客観的・中立的な記述の対象として方言を扱う考え方が生まれた時代は、第2類型の「中立(記述)」の時代とされる。井上によればこれは「共通語の時代」でもあり、「戦後、国語教育の世界でも、日本語教育の世界でも、「標準語」ということばをやめて、『共通語』と置きかえるようにした(*ibid.*, p. 145)」ところから、そう呼んでいる。方言を撲滅していた時代から徐々に、人々が場面に応じて共通語と方言を使い分け、両立していくことが目指された。実際、社会言語学者である田中ゆかりが「一九八〇年代ごろには、この『共通語』の普及により、日本語社会における多くの人が『方言』と『共通語』のバイリンガルとなり、程度の差こそあれ、場面に応じた『方言』と『共通語』の包括的なスタイルとしての使い分け能力をもつようになった(田中, 2011, p. 43)」と述べるように、方言と共通語の使い分けはかなりの程度で達成された。

この時代に方言への価値評価はマイナスの姿勢から中立になったとされる。しかし、「場面に応じて使い分ける」ということはすなわち、「方言を使うには適さない」場面が存在するということでもある。方言が撲滅の対象であった時代よりは幾分その対立関係も弱まっているかもしれないが、依然として「標準語 vs 方言」の対比は強く残っているのである。この点をしてこの時代を「中立」と呼べるかどうかについては一考すべき点であると筆者は考える。

3.1.3. 「娯楽」の時代

最も新しい類型は第3類型の「娯楽」の時代である。たとえば方言を用いたテレビやラジオ番組が放送される、方言に関するイベントが開かれる、といったものが含まれる。方言商品が販売されるのも、この第3類型に含まれる。つまりは今現在の方言ブームを取り巻く状況がこれにあたり、方言への価値評価はついにプラスになった。時期的な始まりについて井上は「マスコミや商品での方言使用などを考慮すると、1970年代後半から方言ブームが始まったようである(井上, 2011, p. 145)」と分析するが、「中立」の時代と時期的に大きく重なっていると思われ、明確な区分は難しい。少なくとも、標準語と方言の「バイリンガル化」が完了した以降の類型であることは間違いないといえるだろう。

なお、こうした方言の評価の変遷に関する考察については、社会言語学者である田中ゆかりが次のように述べている。

⁵ 一般的に1895年前後のことであるとされる。(安田, 2012, p. 38)

⁶ 標準語励行のために各地の学校で行われていた罰札制度。学校生活の中で方言を使った生徒は「方言札」と呼ばれる板を持たされた。終業の時点で札を持っていた生徒には懲罰として課題などが課されたりしたが、終業までに他の生徒が方言を使っているところを聞いたりすればその生徒に札を渡すことができたため、生徒間の相互監視を喚起する制度でもあった。

⁷ 「標準語」と「共通語」という単語に関しては、様々な解釈が存在するものの、その意味するところはほぼ同義である。そのことばが「標準」であるというあからさまな規範的統一性を主張することを避け「共通語」という単語に置き換えただけであり、本稿内でも標準語と共通語の内容の区別はしていない。

「方言」の社会的位置づけは、「土地」のことばである「方言」と対比的な概念や実態をあらわす「標準語」「共通語」が日本語社会においてどの程度達成されたかという観点から整理されたものが多く、どのような段階を経てこんにちの状況に及んだのか、という見方についても大局は一致している。

(田中, 2011, p. 40)

このように、方言学者の間ではほぼ共通の認識とされている。しかし、第3類型の存在自体は共通の認識でも、そのとらえ方には学者によって差がある。例えば井上は第3類型での方言について、以下のように分析している。

現在は若い人は、古い方言、老年層が使うような方言を使いこなす能力を失いはじめている。共通語は自由に使いこなせる。そうなるとかつて失ったものへの郷愁という形で娯楽としての方言が登場する。

(井上, 2011, p. 146)

それに対し、田中は以下のように述べている。

生育地方言をアクセサリーとして部分使用する段階を経て、ヴァーチャル方言を用いた「方言コスプレ」が顕在化するような時代を迎えた。それは、「方言」は「かっこいい」「誇らしい」というポジティブな価値観に加え、「おもしろい」「楽しい」という娯楽としての側面が加味されてきたことを意味しており、このような意味において現代は「方言おもちゃ化」の時代を迎えたといっている。

(田中, 2011, p. 10)

井上の分析では娯楽としての方言は「郷愁」であるとされるが、田中による分析ではもっと単純に「おもしろいもの」「楽しいもの」として方言がとらえられている、とされている。「中立」の時代を脱し、方言になんらかのポジティブな価値評価がなされていることは間違いないが、方言学者の間でも「娯楽」に対する見解に差があるように、その価値評価を正確に把握することは難しい。

また、第2類型の「中立」時代と第3類型の「娯楽」時代は重なっている。「撲滅」の時代は脱したが、「中立」の立場が失われたわけではない。現在は方言を「記述」し保存・保護しようとする動きも一部にある中で、方言が新たな機能を持ち、その部分を娯楽的に楽しむ用法もまた一部で存在する、という中立と娯楽の並存状態であると言える。

3.2. 方言商品の事例

第2章では方言以前のことばの商品化について述べた。ことばの商品として「本」が流通して以降、商品としてのことばは主に外国語習得・外国語教育の分野におけるモノやサービスであった。しかしこんにち増えている方言商品には、こうした外国語産業とは異なる特徴が存在すると筆者は考える。その特徴は、方言への価値評価が第3類型の「娯楽」時代を迎えるにつれて現れてきた、方言の新しい機能と結びついている。

まずは以下に、実際に方言が商品となっている例を挙げる。方言学者である日高貢一郎は「方言産業」における商品を1.「方言みやげ」(「方言グッズ」)、2.「方言ネーミング」の2種に分類しており(日高, 1996)、井上もこの分類を用いた分析を行っているが、「ただし両者の境界線はあいまいである」(井上, 2011, p. 147)と述べる通り、数ある方言商品をこの2種類に整然と分類することは不可能である。以下の考察でも大きなくくりとしてこの2分類を用いはするが、それぞれの代表的ともいえる商品以外については、はっきりとどちらの分類に属するかは決定できない場合も存在する。

3.2.1. 方言みやげ

方言みやげは、方言を対象として羅列して、観光地などでみやげもの、売り物にするものである(井上, 2011, p. 147)。代表例としては、駅の売店や高速道路のサービスエリアでみられる、方言(とその共通語訳)がびっしりと書かれた手ぬぐいやのれん、湯のみなどがお馴染みだろう。これらは比較的昔から売られている商品であるが、近年は後述の「方言ネーミング」商品に押され、駅の売店などで見かける機会は減っているように思う。

3.2.2. 方言ネーミング

方言ネーミングは、方言を「名づけ」として固有名詞に用いるもので、商品名や店名、イベントの名前などに方言の一要素を取り入れたものがこれにあたる、とされる(井上, 2011, p. 148)。近年の方言ブームの中で多くみられるようになった、特定の方言の語尾、強調語などを名前に盛り込んだご当地商品が代表例といえる(図1, 2-1, 2-2)。

日高は方言を採用した店名、イベント名なども方言ネーミングに分類しており、これらは方言の経済効果を狙ったものなので方言に関する経済活動と言えるかもしれないが、その経済効果を具体的に確認することは難しい。方言芸術⁸、テレビ・ラジオの方言番組等についても同様の問題が言える。本論文内で分析する「方言商品」は、売買が直接確認できるような具体的な「モノ」商品に絞る。

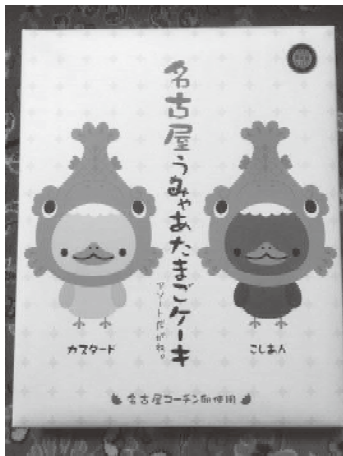


図1

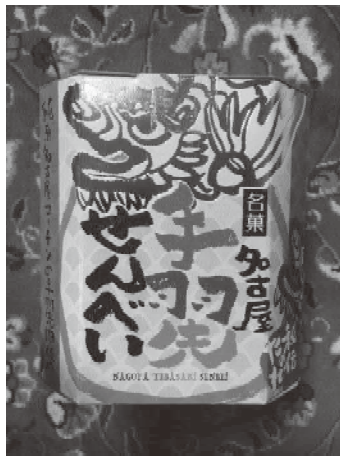


図2-1



図2-2

図1 方言ネーミングを採り入れたご当地商品。商品名と「アソートだがね。」の説明文に名古屋ことばが用いられている。

図2-1, 2-2 名古屋手羽先せんべい。商品名には用いられていないがパッケージ裏面に名古屋ことばが大きく印字されている。

(名古屋駅構内の売店で販売されている商品を購入後、同日筆者撮影 2017年1月22日)

筆者の考える、「方言の商品化」の肝はこの方言ネーミングに分類される商品にこそある(図1, 2-1, 2-2)。それは、これらの商品が明らかにこれまでの言語商品とは異なる特徴を持つためである。

⁸ 伝統的な能などで地方の方言を使うものを指す。

3.3. 方言ネーミング商品の特徴

方言ネーミングに分類される方言商品には、これまでの言語商品のとは異なる特徴がみられる。

まず大きな特徴として挙げられる点は、そのことばが「断片的」な形で売られるという点である。断片的な形で売られる、とは、そのことばの一要素（たとえば一単語、一音など）のみを抜き出し、それを用いて商品化がなされることとする。当然のことながら、外国語習得・外国語教育の分野における商品は断片的な形で売られることは少ない。その言語の文法や単語、発音などを「体系化した」一つの形として販売する。「〇〇語」と名を冠した辞書や学習テキスト、語学学校の例はまさにこれにあたるだろう。そのことばの一部分を抜き出しただけでは学習したことにはならないのだから当たり前といえは当たり前である。

これまでのことばの商品は「体系化して売られる」ことに特徴があったといえるだろう。方言にも「〇〇弁辞典」等の書籍など、方言を一つの言語として体系立てた内容の商品も存在しているが、数多くあるわけではない。それに、方言辞典のたぐいはその方言の習得を主眼としているわけではないものも多い。方言を集め、辞書のように編纂しているが、「読んで楽しむ」といった娯楽的な使い方を目的としたものもある⁹。対して、方言の一部分のみを「断片的」な形で商品名に用いたものは身近に非常に多くみられる。

そして、3.1.3.における田中による分析の引用の中には、断片的な形で売られるという方言商品の特徴を説明する二つの要素が含まれると筆者は考える。

一つは「生育地方言をアクセサリーとして部分使用する段階」として述べられている、小林隆による「方言のアクセサリー化」という概念である。

これは、会話における方言の機能の変質を述べたものであるが、小林によれば「方言の現代的機能は『思考内容の伝達』から『相手の確認と発話態度の表明』へと変化しつつある（小林, 2004, p. 106）」。「相手の確認」とは、同一の方言を用いる同地域社会の集団に属することをお互いに確認しあうことであり、「発話態度の表明」は、その会話の場が気取らないインフォーマルなものであることを示すことを意味する。それまで身内の中での思考内容伝達でしか用いられなかった方言は、現代においては会話の中でお互いの距離感を測り合う一種のストラテジーとなっているのである。「中立」の時代以降、方言の使用法はスタイルの用法、すなわち公的場面では共通語を、私的な場面では方言を、といった「場面による使い分け」が進行してきたが、「娯楽」時代を迎え、「もはやスタイルとも呼べず、共通語にちりばめられる心理的要素になることを、ファッションの修飾要素になぞらえて方言の『アクセサリー化』（*ibid.*, p. 107）」と小林は定義している。アクセサリーに例えられる方言の2つの現代的機能は、いずれも方言と共通語のバイリンガル化が強固に進行した結果生まれたものと言えるだろう。バイリンガル化が進行した故に、標準語との差異をアピールとして用いる方言商品が登場したとも考えられる。

もう一つは、「方言おもちゃ化」の概念である。これは田中自身が提唱する概念であり、次のように定義されている。

『方言』を目新しいもの、おもしろいもの、価値あるものとして、それが生育地方言であるか否かを問わず、表現のバリエーションを広げたり、楽しんだりすることを主目的に採用・鑑賞する」という「方言」の受容態度と言語生活における運用態度のことである。

（田中, 2011, p. 11）

これが田中の指す、方言の「娯楽」的用法そのものであるが、「それが生育地方言であるか否かを問わ

⁹ 名古屋弁の例で言えば『声に出て読んでやあ名古屋弁』（すばる舎）、『やっとかめ！大名古屋語辞典』（学習研究社）など、挿絵に漫画を用いつつ娯楽的に編纂した方言辞典がある。

ない」という部分に、方言商品の考察を可能にする要素が含まれると筆者は考える。この点にも、方言の娯楽用法を「郷愁」ととらえる井上の論述とのニュアンスの差異が読み取れる。

方言商品の買い手は、その商品に使われている方言の使われる地域で生まれ育った人とは限らない。いやむしろ、駅やサービスエリアなど方言商品が多く売られている場所を考えれば、方言商品の買い手はその方言が使われていない地域で生まれ育った人のほうが多いだろう。筆者の生まれ育った名古屋地域を例にとれば、名古屋弁を用いた商品を買う人は、名古屋にきた観光客が多い。その人たちは名古屋弁に「郷愁」を感じてその商品を購入するわけではなく、名古屋弁を「おもしろいもの」「目新しいもの」と感じて購入するのである。また、「名古屋にいつてきました」という観光の証として土産を買う人も多いだろうが、この当然と思われる点も重要な意味を持つ。それは、名古屋弁商品を購入することで「名古屋っぽさ」をも自分の地元を持ち帰ることができるからである。

田中は「方言おもちゃ化」を確認できる典型的な現象として「方言コスプレ¹⁰」を挙げているが、この方言コスプレにみられる、方言の部分的要素を「着脱する」という行為が、方言の商品化に重要であると筆者は考える。方言の「おもしろい」、断片的な部分を自由に取り出して商品に貼り付け、そしてその断片的な方言商品を自由に持ち運ぶことで、「〇〇っぽさ」といった方言、その地域社会、話者のイメージまでもを帯同させることができる。これは商品に方言のコスチュームを着せる、「商品の方言コスプレ」とも言えるだろう。このような、方言の一要素を自由に着脱し「おもちゃ化」している例が方言ネーミングに分類される商品には多くみられる。図1の商品でいえば、商品それ自体はごくありふれたお菓子であるが、名古屋弁を用いた商品名をつけることによって、「名古屋っぽさ」のコスプレをさせている。

また、現在の方言の価値評価は「中立」と「娯楽」の並存状態である、と述べた¹¹が、断片化とは対照に「〇〇弁辞典」などに代表される「体系化された」形の方言商品の存在は、この並存状態と関連付けて考えることもできる。

方言辞典や、方言を羅列した手ぬぐい、のれん等の「方言みやげ」は、それ自体を方言の「記録資料」とすることで方言を「保存」しようとする動きの一つとも分析できる。方言辞典は必ずしもその方言の習得を目的としたものではないと前述したが、方言を「記述」し、残すという点では非常に有効な方法である。こうした姿勢は「中立」類型における方言の価値評価が現れたものと言える。

方言の価値評価が「中立」から「娯楽」へと移りつつあった1970年代ごろ、テレビドラマなどで方言が使われ始めたが、それは「方言リアリズム」としての動きが大きかった(井上, 2011, p. 145)。つまり、現実存在する方言をメディアなどに登場させることで失われつつある方言を「保存」しようとする動きである。方言辞典の類はこの流れを背景に持つ商品の一つであり、経済性が度外視されている面がある。方言を収集し体系化して辞書を編纂しても、費用対効果は薄い。しかし、商品化することでその方言の伝統を守り、方言を保存できればいい、という姿勢であり、それが「売れる」ものかどうかは二の次で、いくらお金をかけても、またそれが返ってこなくても、方言の保存がなされればそれでよいのである。これは「中立」類型における方言の商品化といえるが、この場合は「経済価値」を度外視し、「情的価値」に重きが置かれていると言える。

このように、方言商品は方言の価値評価が中立、娯楽と並存状態にあるのに対応するように、それぞれの特徴を持っているという分析も可能であると筆者は考える。

他にも外国語産業とは大きく異なる点がある。第1章で扱った言語の価値の定義に立ち返ると、方言商品の特異性は際立っている。ある外国語(標準語)が商品(例えば学習参考書)となるとき、その言語の実用性が経済価値に対応することは間違いないだろう。しかし、方言の場合はそうはいかない。そもそも言語の実用性を、公的な場面、ビジネスの場面などにおけるコミュニケーションの可能

¹⁰ 「話し手自身が本来身につけている生まれ育った土地の『方言』(生育地方言)とは関わりなく、日本語社会で生活する人々の頭の中にあるイメージとしての『〇〇方言』を、その場その場で演出しようとするキャラクター、雰囲気、内容にあわせて臨時的に着脱すること」と定義されている。(田中, 2011, p. 3)

¹¹ 3.1.3. 参照。

性で測るとするのであれば、方言に実用性と呼べるものはない。しかしながら、方言は商品となり、売られているのである。これは実用性（使用価値）以外の要素が交換価値に対応していることを示している。第1章で述べたように、クルマスは使用価値と交換価値のパラドクスの問題について言及していた。方言はまさにこのパラドクスを体現した存在といえる。実用性という使用価値が極めて低いにもかかわらず、交換価値、つまり値段がつけられ商品となっている。クルマスはそのような逆説的存在として宝石を例に挙げていた。小林隆は現代的な方言の機能を「アクセサリ」と表現している。この奇妙な一致は単なる偶然だろうか。つい半世紀前まで抑圧されてきた方言が今や、まるで宝石や貴金属のような機能、すなわち実用的価値はないが、自らを装飾し、方言にまつわる立場性をアピールするアクセサリのような機能を得ている、そんなことが言えるのではないだろうか。

従来の方言の商品化は、「情的価値」であるがゆえに、その経済価値は度外視されているとみられていた。一方で、より新しい「娯楽」類型における方言の商品化は性格が異なると筆者は考える。現在多くみられる方言ネーミング商品は、その方言の伝統を残していこうという目的意識は希薄である。しかしそれは「情的価値」をないがしろにするようになったわけではない。「おもしろい」といった娯楽の感覚、あるいは井上の言うところの「郷愁」という感覚としての「情的価値」までも「経済価値」に変えてしまおうという動きに変わってきたのである。「知的価値」＝「経済価値」＝「市場価値」というイコールの関係は、こんにちの方言商品市場にはもはや当てはまらない。身近にあふれる方言商品を見ていると、知的価値がないのなら、情的価値を売ってしまおう、そんな気概が感じられる。

4. 結論

方言の商品化はいかにして可能になるのか、その疑問にアプローチしていくことが本論文の目的であった。そのために第1章では、そもそもことばの価値とはどう定義されるものなのかについて、なぜことばの価値研究がこれまであまりなされてこなかったのかの歴史も含め、整理した。第2章ではこんにちの方言商品に至るまでのことばの商品化事例について触れた。そして第3章では、方言の価値評価の変遷を追いつつ、方言の新たな現代的機能やこれまでの言語の価値定義と照らし合わせて方言商品の特徴を分析した。

身近に観察される方言商品の数々を見ているうちに上記の疑問に至ったわけだが、いざ調べてみようとすると驚いた。方言と商品どころか、ことば全般と商品（経済性）を絡めた研究でさえも、これまでほとんどなされていないのである。ことばがビジネスの対象になってからすでに長い年月が経っているというのに、その分析がなされてこなかったという点は、おかげで新たな疑問点ともなった。

日本における方言と商品化の先行研究はさらに乏しい。その先駆けであり、日本の方言研究の大家とも言える井上史雄の先行研究を参考にしたが、井上ですら方言商品の具体的な理論的分析には踏み込んでいない。井上の著書の中で情的価値、知的価値といった言語の価値定義、そして方言の社会的3類型と方言商品を絡めた分析が行われていない点は、方言の商品化がいかに分析し難い問題であることを示しているようだった。本論文では、そういった要素に加え、田中ゆかりや小林隆の提唱する方言の新たな機能を絡めつつ、方言商品を概観した。方言の商品化はいかにして可能になるのか、その疑問を解消するに足るアプローチではなかったかもしれないが、社会言語学の新興分野とも言える方言と商品の問題について、その流行の最中から分析できたことは幸いであつたと考える。

情的価値をも売り物にしてしまう、そんな方言商品のあり方を見ると、費用対効果をシビアに追求する現代資本主義の様相が垣間見えてくる気がする。方言は今後、ますます至る所で売られていくだろう。その売買の現実に乗遅れないよう、方言と商品、言語と商品という研究分野は、これまでの遅れを取り戻す勢いで整備される必要がある、そう感じている。

参考文献

- Benedict Anderson (1983). *Imagined Communities: Reflections on the Origin and Spread of Nationalism*. (ベネディクト・アンダーソン、白石隆・白石さや(訳)(1997)『増補 想像の共同体 ナショナリズムの起源と流行』、NTT出版)
- Daniel Baggioni (1997). *Langues et nations en Europe*. (ダニエル・バジオーニ、今井勉(訳)(2006)『ヨーロッパの言語と国民』、筑摩書房)
- Pierre Bourdieu (1982). *Ce que parler veut dire, l'economie des echanges linguistiques*. (ピエール・ブルデュー、稲賀繁美(訳)(1993)『話すということ 言語的交換のエコノミー』、藤原書店)
- Florian Coulmas (1992). *Die Wirtschaft mit der Sprache*. (フロリアン・クルマス、諏訪功・菊池雅子・大谷弘道(訳)(1993)『ことばの経済学』、大修館書店)
- 井上史雄(2007)「方言の経済価値」真田真治他『シリーズ方言学3 方言の機能』、岩波書店
- 井上史雄(2011)『経済言語学論考 -言語・方言・敬語の値打ち-』、明治書院
- 井上史雄(2000)『日本語の値段』、大修館書店
- 井上史雄他(2013)『魅せる方言 地域語の底力』、三省堂
- 黒田龍之助(2011)『ことばは変わる はじめての比較言語学』、白水社
- 小林隆(2004)「アクセサリーとしての現代方言」『社会言語科学』第7巻第1号、社会言語科学会
- 田中克彦(1993)『言語学とは何か』、岩波新書
- 田中ゆかり(2011)『「方言コスプレ」の時代 ニセ関西弁から龍馬語まで』、岩波書店
- 日高貢一郎(1996)「方言の有効活用」小林隆・篠崎晃一・大西拓一郎編『方言の現在』、明治書院
- 安田敏郎(2012)『日本語学のまなざし』、三元社

卒業論文へのコメント

「方言」研究はその蓄積も非常に多い中、学部生の卒論は特にその具体的な使用実態の調査をする論文を書くことが多い(今年度佐野ゼミ生の卒論はほとんどがそれにあたる)。しかし本論文は、「商品化」に焦点をあてつつもその実態調査などは一切せず、「方言」がいかなる形で商品化されうののかをテーマの中心にすえ、あえて近代以前までさかのぼって「ことばの商品化」を検討しつつ、徹底して先行研究のレビューとその批判、そこから見いだせる論理的な展開という抽象的な議論のみで執筆している。

筆者も論文で指摘するように、ことばの商品化と価値の問題は、長らく言語研究のタブーであった「言語の価値の差異」を前提にしなければならぬことであるために、職業研究者がほとんど手をつけていない未知の領域であった。そこにいきなり抽象論のみで挑もうとするのは、アイテムも経験値もないのに、ゲームを始めた瞬間にエクストリームモードでボスキャラを倒そうとするくらいの無謀さであり、本人も非常にその執筆に苦しんでいた。先行研究のレビューは、この問題を考えるために必要な各分野の膨大な蓄積に比して、十分になされているとはいえず、やや駆け足の印象である。特に比較言語学や記述言語学以外に、「方言学」の果たした役割に言及していない点は本論文のテーマ上残念ではある。全体的な議論運びも、多様な「方言」の実態への言及がないこともあって、少々強引である点是否めない。

しかし、筆者のものごとを徹底して考えたいというこだわり、そのためには何を問題にすればいいのかを瞬時に把握するセンスのよさ、そして、論文では全く言及していないとはいえ、「方言」の一つである名古屋ことば話者としての意識や愛着を基盤に持っていることもあってか、独創的な論が展開できている。「アクセサリー

としての方言」は「宝石」と同様の価値、すなわち、使用価値ではなく交換価値として売る商品であること、そしてそれは断片化によって可能になっているという指摘は、十分に練られていないままではあるものの、一瞬寒気がするような知的興奮を覚えた。参考文献は原典の年号を提示していないなどの不備はあるがおおむね的確に引用され、文章もやや接続に難がある部分もあるが、すっきりしていて読みやすい。

結論の職業社会言語学者への叱咤激励に今度はこちらが応えなくてはならないのだろう。そして、指導教員として、筆者の持つ視点の鋭さや思考能力の高さを存分に発揮した論文を書き上げてくれたことは、とてもうれしい。(佐野直子)

「名古屋ことばプロジェクト」総括

佐野直子

2016年度の佐野ゼミの卒業論文執筆は、初めて、グループでの「プロジェクト」型で行うことになった。すなわち、「名古屋ことば」について、学生がそれぞれのアプローチで論文を執筆することで、「名古屋ことば」の現在を多角的にとらえようという試みである。

最初のきっかけは、今年度卒業生たちが3年生の時に、ゼミの中の「ことばについての素朴な疑問」の発表時間で、とある学生が「河村たかしの名古屋弁」についての発表をしたことであった。2017年2月現在の名古屋市長である河村たかし氏は、国会議員であったころから、公式な場面でも名古屋ことばを使い続けていることで有名である。その一方で、「あの名古屋弁がキライ!」という学生は今までも多かった。なぜ河村たかし氏の名古屋ことばは嫌われるのか、なぜ河村氏はそれでも名古屋ことばを使い続けるのか、といった議論をする中で、「それでは河村たかし氏本人に聞き書きすることはできないだろうか」というアイデアが持ち上がった。

実は、井上歩さんと宮崎舞さんは、島根県隠岐郡海士町や愛知県高浜市で実施していた「聞き書き」の本学国際文化科学外研修に複数回参加している経験があった。「聞き書き」とは何かは井上論文にゆずるとして、その手法を卒業論文に活かしたい、という心意気は、実習を担当していた私としても大いに買いたいところであった。問題は、多忙な河村市長が語り手になっていただくことを了承してくださるかという点であったが、井上さんが事務所を通して依頼したところ、快諾していただいた。この場を借りて、河村たかし氏に、指導教員からお礼申し上げたい。

そして、せっかく河村たかし氏に聞き書きをするのであれば、彼が「名古屋ことばを話す」ということを取り巻く状況についても検討しようということで、大学生世代の名古屋ことばへの意識調査と、メディアで名古屋ことばやほかの「方言」についての言説分析というテーマがそれぞれ北森理聖さん、松本小奈津さんの論文においてたてられることになった。プロジェクト発足時点で、戸松優芽さんが高年層の名古屋ことばの使用意識についてプレ調査を実施したが(『ことば研究年報』3号収録)、戸松さんが休学することでそのテーマがはずれ、その一方で、池ヶ谷遊さんの論文が広く「方言」の商品化というテーマを扱ったことで、名古屋ことばを始めとする「方言」の現在をより広く概観できるようになった。また、宮崎舞さんはハワイの *Pidgin* ということばをテーマとして選び、その調査のためにハワイに留学したが、それとはかわらず、「名古屋ことば」と比較が可能なことばのあり方を示す論文となっている。

本稿は、やや蛇足感はあるものの、卒業論文指導の中でみえてきた「ことば」のあり方の現在について私見を述べさせていただくことで、本プロジェクトの総括としたい。

1. 名古屋「ことば」とは何か

「名古屋ことばプロジェクト」において最初に問題になったのは、本プロジェクトの研究対象をどのように名指すのか、そしてその名で名指されることばとは何をさすのか、という問題であった。

一般的に使用される名称は圧倒的に「名古屋弁」であることは、松本論文第3章のツイッターのつぶやきの分析からも明らかである一方で、井上論文の河村たかし氏の聞き書きでわかるように、河村氏は「弁」という表現をさけ、「なんとかことば」という表現に改めることを長年主張してきている(井上, *infra.*, p. 27)。松本論文第2章でもわかるように、「名古屋ことば」という名称はまだ河村たかし氏の言説と強く結びついており、それほど人口に膾炙しているわけではないが、本プロジェクトではこの名称を採用することにした。それは、「〇〇弁」という表現にある「標準語」との上下関係、地域

のことばは標準語の崩れた言い回しにすぎない価値が低いもの、という含意を排除したいという河村たかし氏の意見に賛同したこともあるが、はからずも、「〇〇弁」、そして「方言」が指示する内実を問い直す契機ともなったように思える。そしてこれは宮崎論文のテーマである *Pidgin* とは何か、という問いとも通底している。

本プロジェクトでは、「名古屋ことば」を「方言」として扱っている。それは、「名古屋ことばの先行研究は、これを「方言」として扱うものがほとんどである（井上・北森・松本, *infra.*, p. 5）」ためであるが、「方言」は、従来の方言学では、単語・音韻・アクセントといった断片を取り上げ、その地域的分布を提示する形で研究が進められてきた。『蝸牛考』から主張された柳田國男の「方言圏論」は、「カタツムリ」の一単語の地域的分布から言語地図を描いて構想されたものであった。その一方で、各地のことばの地域的な言語体系としてのまとまりを主張する「方言区画論」も提唱されてきた。東日本方言と西日本方言という大きなくりにおいては、東京方言は東日本に、京都方言は西日本に入る、という形で、「標準語」のベースとなった東京ことばも「方言」の一つとして考える、という姿勢である。それでも、日常の実践においては、「方言」と名指され、さらには「〇〇弁」と名指された時点で、そのことばが公式の場面や書記言語として使用される「標準語」に対比され（そしてその下位に位置づけられ）た「くだけた話しことば」である（松本, *infra.*, p. 80）、という含意は強い。「方言」という概念には、その地域性のみならず、場面や社会階層といった「社会方言 (sociolect)」としての要素が強く入っているのである。

「名古屋ことば」の「ことば」は、標準語による支配的配置は拒否しつつも、「くだけた話しことば」、すなわち、地域土着のことば（バーナキュラー、*vernacular*）であることを提示する表現となっている。それは、断片化された単語や言い回しというより、名古屋において観察される「バーナキュラー」全体を指しているという含意も持ちうるだろう。

それでは、「名古屋ことば」と名指されることば全体とはどのようなものなのだろうか。

2. 「名古屋」ことばとは何か

「名古屋ことば」という名称を採用するにあたってもう一点問題になるのは、「名古屋」という都市名である。ことばの名称は、なんらかの土地名やその話者集団名などがあてられることが多い（ピジンという「混成言語」全体をさす普通名詞がそのままハワイのことばの固有名詞になる、といった例もあるが、曖昧さを避けなくてはならないときには、「ハワイアン・ピジン」などと呼ばれる）。しかし、ある土地名をもって名指されることばの中身は、一枚岩ではない。「方言区画論」の問題は、実際に厳密に区画しようとする、あまりに多様な可能性があって、地図上に一本線で区切ることなどできないということであった。

伝統的な「方言」がかつて持っていたイメージ、すなわち、より中央から離れ、都市化されていない周縁部において高年層の発話に残存する、古い話し方というイメージに比して、「名古屋」は日本でも有数の大都市である。さらに、その都市としての歴史は、江戸時代初期以来と、江戸（現在の東京）なみに浅いものでしかない。隣接した京ことばの影響を強くうけつつも、周辺地域の武士や商人層が大挙して流入したことで、近世に徐々に形成されてきた「名古屋ことば」は、ある意味で「ネオ方言」（北森, *infra.*, pp. 54-55）として形成されたともいえる一方で、都市ならではの強い階層性も形成した（井上・北森・松本, *infra.*, pp. 11-13）。社会階層として縦に重なっている場合、地図上の区画はさらに困難になる。

そして近代以降、特に戦後、「名古屋市」はかつての城下町から大きくその市域を拡大させた。名古屋市が位置する愛知県は、「尾張」「三河」に大まかに二分されつつ、「名古屋通勤圏」はさらに岐阜県や三重県の一部も含んでいる。愛知県が大工業地帯であることから、中京圏に限らない遠方からの大

量の人口流入もある。音声メディアによる「標準語(共通語¹)」や「東京ことば」の普及も加速した。その結果、もともと都市方言としての歴史も浅い「名古屋ことば」は、さらに大きな変容をこうむることになった。かつての武家ことばや上町ことばは、現在の「名古屋ことば」にはほとんど残存しておらず、そのような区別があったという知識すら若年層には残っていない。しかし、高年層の場合は、かつて耳にした「上町ことば」こそが「正しい名古屋ことば」であり、下町ことばを話すのが「汚い」「みっともない」といった意識を持っているという。「名古屋ことば」が指示している内容そのものに多層性があることも、「名古屋ことば」の特徴である。

現在の名古屋圏において、特に若年層は問題なく「東京ことば」に近い「標準語」を使用することが可能であるが、だからといって、日常において「東京ことば」と「名古屋ことば」を完全にスイッチして話しているわけでもない。実践しているのはその混淆であるが、その混ぜ方にグラデーションがある。相手により、場面により、その混ぜかたを微妙にかえる「戦略」は、ハワイの *Pidgin* でも観察できたことである。その一方で「名古屋ことば」がどこまで「東京ことば」がどこまでなのか、という区別がそれほど明確ではなく、「気づかない方言」(北森, *infra.*, pp. 55-56) が含まれることになる。さらに、若年層を中心とした話者たちは、単に既存の多様なことばを利用するだけではなく、「新方言」(北森, *infra.*, p. 54) も次々に作っていく²。

「名古屋ことば」が、名古屋圏で使用されているバーナキュラー全体を指す、というのであれば、それは上町ことばの残存、年齢によってかなり変容した下町ことば、周辺地域のさまざまなバーナキュラー、そして「標準語」や東京ことばが混淆し、そして場面によって相手によって自在にそのグラデーションの度合いがかわるような、大きな連続体となっている。これは、宮崎論文にあるピジン・クレオールと言われることばのあり方によく似た状況である。というより、「ことばを話す」ということは常に、このような話者の多様な言語的知識を戦略的に駆使することで、混淆や変容、生成が常に生じるような現場であるということなのだろう。

その一方で、どの場面であっても、徹底して「濃い下町の名古屋ことば」を使い続ける河村たかし氏の言語行動は、それもまた一つの極めて自覚的な戦略であり、井上論文でも主張されるように、「名古屋ことば」の使用のあり方そのものへの介入を意識した「言語政策」である。しかしその戦略は多くの名古屋の人びとがとっているそれとは大きく異なる。河村たかしのことばを「名古屋ことばの典型」とみなすことへの反発は、北森論文における大学生からの反応や、松本論文におけるメディアでの批判などで確認できる。それでも、河村たかし氏の使用する「名古屋ことば」が流通することで、「名古屋の人はそんな名古屋弁はしゃべらない」「あれは名古屋ことばではない」(北森, *infra.*, p. 69) といった形であったとしても、大きな連続体の中の *Basilect* (宮崎, *infra.*, p. 135) の一例として、多くの人々が知識として参照しうる目安にもなりつつあることもうかがえる。

3. 「ことば」の断片化とコスプレ化・商品化

井上論文第4章にあるように、河村たかし氏は、名古屋市で出している『広報なごや』の表紙ページのコラムでも「名古屋ことば」を使用している。書くことは一方で「ことば」の規範化を促す。河村たかし氏も、会話文ではなく、地の文を徐々に「名古屋ことば」で書くことで、一定の言い回しなどに対する、自らの中の規範意識が生まれつつあることが伺える(井上, *infra.*, p. 49)。

¹ 井上・北森・松本(*infra.*, p. 7)にもあるように、戦後は「標準語」ではなく「共通語」という表現が使用されるようになったが、現在も一般には「標準語」という概念が広く普及し、若年層の学生も日常的に使用していることから、本稿では「標準語」を使用する。

² いわゆる「若者ことば」「流行語」のような新しい表現も *Pidgin* とみなす、という態度は、ハワイにおいて確認されている(宮崎, *infra.*, pp. 141-142)。

しかし書かれることは必ずしも規範化や体系化のみを促すわけではない。「方言」が「方言学」研究の中で断片化されたのは、人びとの生活としてのパーナキュラー全体の中から、特定の単語や音素などのみをあえて「書き出す」ことによってであった。「名古屋ことば」をはじめとする「方言」、さらには *Pidgin* とは、ある地域における話されているグラデーション全体をさすこともある一方で、グラデーション全体から「標準語」の要素を引いた地域的「逸脱」の部分を目指す、という断片化意識の進行も見逃せない。そのような意識においては、「グラデーション」とは、さまざまな断片の要素の調節である。混ぜる断片の量や中身を戦略的に選択することは、自ら（相手）が何者であるかを提示するための演出であり、断片リストをとりそろえ、リストを増やしたり入れ替えたりし、飽きたら捨てるかもしれないが、時には手作りしたり遠くから取り寄せたり他者から拝借したりして、TPO に応じて自らを装う、そのような行為としてとらえ直されることになる。

従来は「くだけた話しことば」として使用され、書かれることが非常に少なかった「方言」が、研究対象として記述されるだけでなく、話者たちによって書かれるようになったのは、松本論文第1章で指摘されるように、「方言」への価値観が転換した1970年代以降、特に「打ちことば」が普及してきた1990年代以降であろう。書かれることで「混ぜる」ことへの意識が先鋭化し、「気づかない方言」の存在に人びとが気づいていく。北森論文において、名古屋圏の大学生の多くが、自分は名古屋ことばを話している、という意識を表明しており、高年層や以前の意識調査とは異なる結果となった。

そして、メディア上において確認された「名古屋ことば」に対する「汚い」「下品」といった評価は「音声の名古屋ことば」に対してであって、書かれたことばに対しては否定的な評価はないという松本論文の指摘（松本, *infra.*, p. 92）は興味深い。書くことは、話すことのほんの表層のみを切り離すものにすぎないが、つかみどころのない話しことばのほんの一片であっても、実体として「手に入れる」ことができる何かに変容する。それは、その断片を気軽に使用して「遊ぶ」こと、特に、自らの出身地や居住地のことばでなくても、その微妙な響きなどを気にせず、自由に着脱して使用することを助長する。そして、書きとめる欲望を喚起させるだけの「価値」があったその断片は、断片のまま流通し、交換され、「商品」としての価値を負うことになるのである。

「名古屋ことば」は、まだ「コスプレ化」が可能なほど強い（そして肯定的な）キャラクター化はされていないにもかかわらず、あえて「名古屋ことば」の断片であることをいちいち確認してまで、ツイッター上で使用されている（松本, *infra.*, pp. 95-96）。そして近年、断片としての「方言」は、「話す」という場面・話者から完全に切り離され、みやげものなどのネーミングとして使用されることが目立つようになった。書かれたことばの商品化とは、歴史的には規範化された「言語」の習得という市場においてなされ、その価値はその使用価値の高さ（「知的価値」）によってはかられていたが、「方言」の市場はそれとは異なるところで形成されている。「方言」の価値とは、使用するとしたら「アクセサリ」としてのみである宝石のような、すなわち交換価値にあるという池ヶ谷論文の指摘（池ヶ谷, *infra.*, p. 113）は、「方言」の現在を考察するにあたって非常に興味深い。

現在、ことばを使うことそれ自体が、特に ICT 技術の変革によって大きく変動しつつある。「名古屋ことば」と名指しされる「ことば」のあり方も、発話の形であろうと記述された形であろうと、これからもさらに大きく、また速い変容をこうむることになるだろう。本プロジェクトではカバーしきれなかった、話すことと書くことの相互浸透、特に話しことばとしての「名古屋ことば」や「方言」のコスプレ化・商品化の問題や、コスプレ化が進んでいる「方言」は、京都・大阪、そして福岡（博多）など、むしろ大都市圏のそれであることなども興味深い現象であるが、これらの点については今後の研究が待たれる。

本プロジェクトは、「名古屋ことば」、そして「方言」の現在のほんの一部にすぎないかもしれないが、いくつかの側面を提示することができたのではないかと考えている。今後の「名古屋ことば」、そして「方言」研究にとって、何らかの示唆があれば幸いである。